



TAKASAGO

高砂香料工業株式会社

サステナビリティ報告書

2025

## 2 This is TAKASAGO

- 2 コーポレートビジョン
- 3 財務ハイライト
- 4 グローバルネットワーク
- 5 高砂香料グループのバリューチェーン
- 6 こんなところに高砂香料

## 7 TAKASAGOのサステナブル価値創造ストーリー



- 8 トップメッセージ
- 11 サステナビリティ担当役員メッセージ
- 13 事業戦略
- 13 サステナビリティにおける方針・計画
- 14 サステナビリティ・ガバナンス
- 15 マテリアリティ・アセスメント
- 16 マテリアリティ
- 17 Sustainability2030
- 18 マテリアリティ項目
  - 気候変動
  - 人権の尊重
  - 安全第一
  - 責任ある調達
  - デジタル化による価値向上
  - グリーンケミストリー

## 26 環境・労働安全衛生



- 27 グローバルEHSマネジメント
- 28 生物多様性の取り組み
- 30 気候変動への対応
- 31 温室効果ガス排出量削減目標
- 32 環境
- 35 労働安全衛生(OHS)
- 36 高砂安全の日 2024

## 37 社会的責任と共生



- 38 ステークホルダーとの関わり
- 39 従業員の成長と多様性の尊重
  - 人事・総務本部長メッセージ
  - 女性がイキイキと活躍する、働きやすい職場への取り組み
- 47 サプライチェーンマネジメント
- 49 物流
- 50 調達
- TaSuKI Update
- 59 研究開発
- 62 品質保証
- 66 投資家の皆様との関わり
- 67 地域社会との関わり
- 69 社会的評価とネットワーク

## 70 ガバナンス



- 71 コーポレート・ガバナンス
- 72 取締役会の実効性評価
- 73 報酬制度
- 74 リスクマネジメント
- 76 ITセキュリティ
- 77 企業倫理
- 79 租税戦略

## 80 データ

- 80 会社概要
- 80 編集方針

ステークホルダーの皆様との  
コミュニケーションのために



サステナビリティ報告書 2025



Sustainability Report 2025



統合報告書 2025



ウェBSITE



LinkedIn

表紙の写真について



今年の表紙は、高砂コレクション®のルネ・ラリックによる香水瓶「ユーカリ」です。清らかな香りで知られるユーカリは、再生と新たな始まりを象徴しています。厳しい環境にも耐えて生き抜く力強さは、高砂香料グループの持続可能な未来への取り組みを映し出しています。

## » コーポレートビジョン

### 香りを原点とする革新的な技術を通して、新しい価値を創造し続ける

当社グループは、2020年に創業100周年を迎えました。創業以来掲げてきた「技術立脚の精神に則り社会に貢献する」を創業精神と位置づけ、これまで先人たちが培ってきた「高砂らしさ」を取り入れた「香りを原点とする革新的な技術を通して、新しい価値を創造し続ける」を企業理念として定めました。私たちは世界28の国と地域に拠点を設けるグローバルな香料会社として、地域の文化や嗜好性、市場を見据えた信頼される製品を供給しています。また、これまでの長い歴史のなかで培った高い技術力と世界各拠点とのネットワークを活かして、より豊かな社会を実現していくことを目指しています。

また、2040年の当社グループの「ありたい姿」としてVision 2040を定めました。Vision 2040のスローガン「人にやさしく、環境にやさしく」あるとともに、100年にわたり常に高い技術を追求してきた姿勢を今後も継続し、人々の生活に彩りとウェルビーイングをもたらしていきます。また、自然と共生し、自然の恵みを活用するとともに、自然環境の持続性に貢献していきます。これらの活動を通じて、唯一無二の「かけがえのない」会社であることを目指していきます。

#### 創業精神

技術立脚の精神に則り  
社会に貢献する

#### 企業理念

香りを原点とする革新的な技術を通して、  
新しい価値を創造し続ける

#### Vision 2040

人にやさしく、環境にやさしく

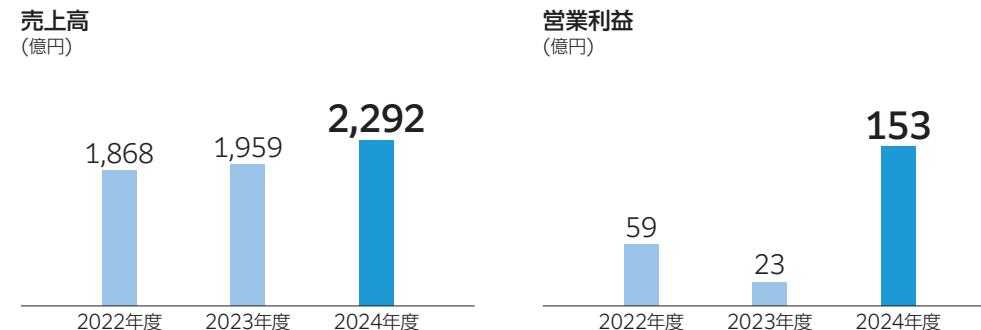
- 1 多様な価値観を尊重する
- 2 自然と共生し、人々の生活に彩りを与える
- 3 夢と誇りを持って未知の世界へ挑戦する
- 4 常に高い技術を追求する、かけがえのない会社

## » 財務ハイライト

### 2024年度 地域別売上高

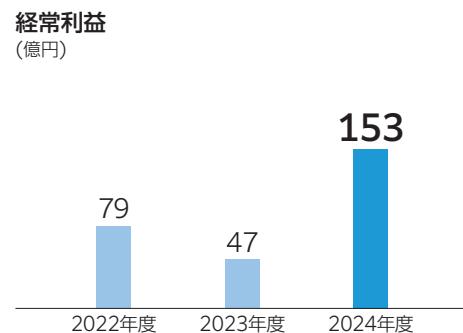


### 売上高 (億円)

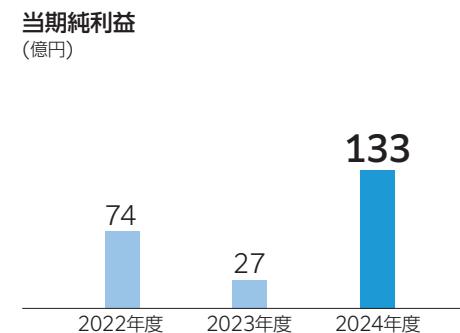


### 営業利益 (億円)

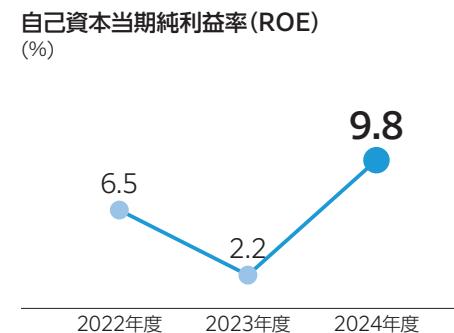
### 経常利益 (億円)



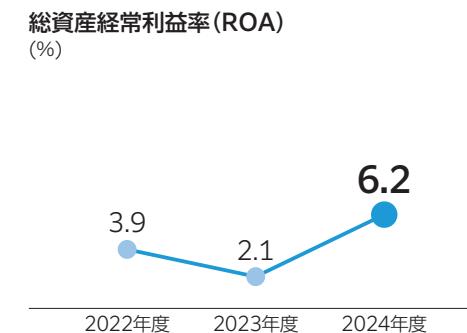
### 当期純利益 (億円)



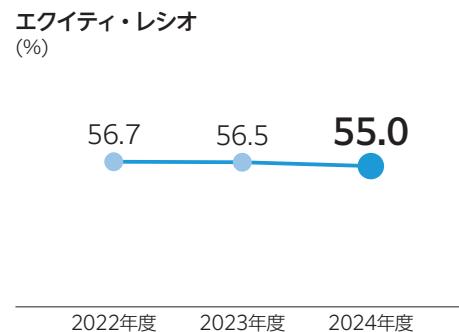
### 自己資本当期純利益率(ROE) (%)



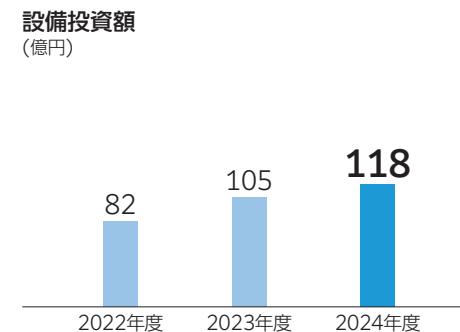
### 総資産経常利益率(ROA) (%)



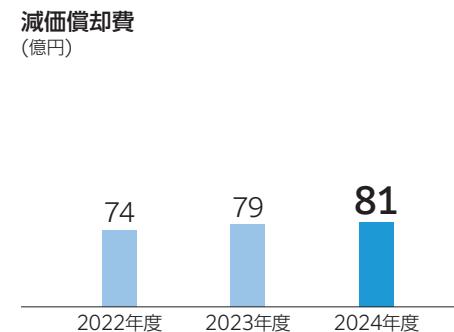
### エクイティ・レシオ (%)



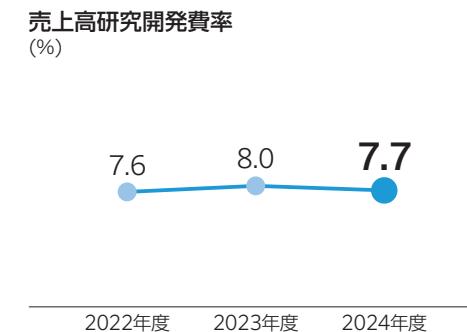
### 設備投資額 (億円)



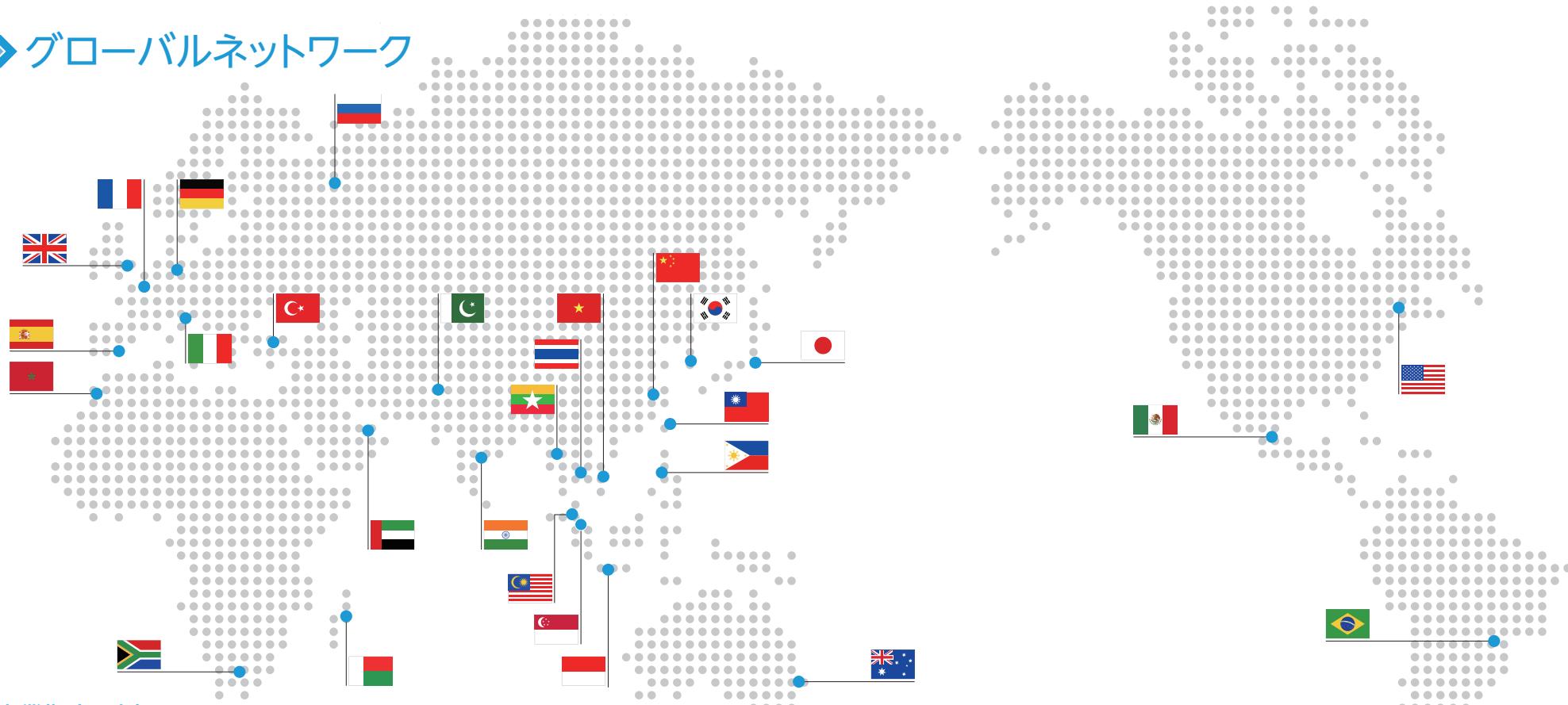
### 減価償却費 (億円)



### 売上高研究開発費率 (%)



## » グローバルネットワーク



## 事業拠点の例

## アジア-パシフィック

日本	Takasago International Corporation
オーストラリア	Takasago International (Singapore) Pte. Ltd. Australia Branch Office
シンガポール	Takasago International (Singapore) Pte. Ltd.
フィリピン	Takasago International (Philippines), Inc.
タイ	Takasago Import and Export (Thailand) Ltd.
インドネシア	PT. Takasago International Indonesia
インド	Takasago International (India) Pvt. Ltd.
パキスタン	Takasago International (Pakistan) Pvt. Ltd.
中国	Shanghai Takasago-Union Fragrances & Flavors Co., Ltd.
	New Takasago International (Zhangjiagang)Co., Ltd
韓国	Takasago International Corporation (Korea)
マレーシア	Takasago International (Malaysia) Sdn.Bhd.
ミャンマー	Takasago International (Singapore) Pte. Ltd. Yangon Branch Office
台湾	Takasago International Corporation Taipei Representative Office
ベトナム	New Takasago International (Vietnam) Co., Ltd.

## ヨーロッパ・中東・アフリカ

フランス	Takasago Europe Perfumery Laboratory S.A.R.L.
ドイツ	Takasago Europe G.m.b.H. Headquators
イタリア	Takasago International (Italia) S.R.L.
スペイン	Takasago International Chemicals (Europe), S.A.
イギリス	Takasago (U.K.) Ltd.
ロシア	Takasago Europe GmbH Moscow Representative Office
トルコ	Takasago International Turkey Esans Ve Aroma San. TIC. A.S.
アラブ首長国連邦	Takasago Europe Perfumery Laboratory S.A.R.L. Dubai Branch Office
モロッコ	Societe Cananga S.A.R.L.
南アフリカ	Takasago International Corporation South Africa (Pty) Ltd.
マダガスカル	Takasago Madagascar S.A.

## アメリカ大陸

アメリカ	Takasago International Corporation (U.S.A.)
メキシコ	Takasago De Mexico S.A. De C.V.
ブラジル	Takasago Fragrâncias E Aromas Ltda.

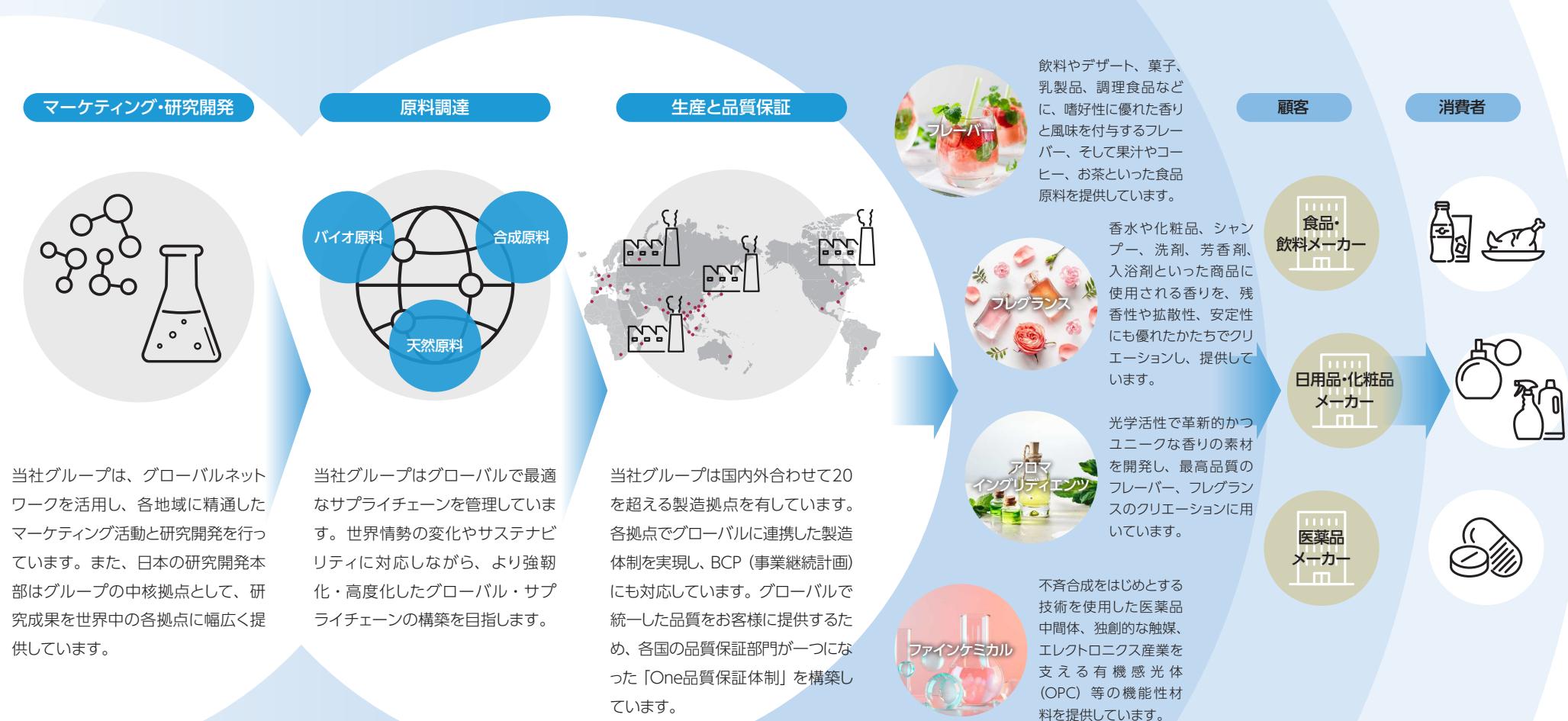
## » 高砂香料グループのバリューチェーン

高砂香料グループは28の国と地域に研究所や工場・営業所を展開し、人々の生活がより彩り豊かになるように、さまざまな事業活動に取り組んでいます。

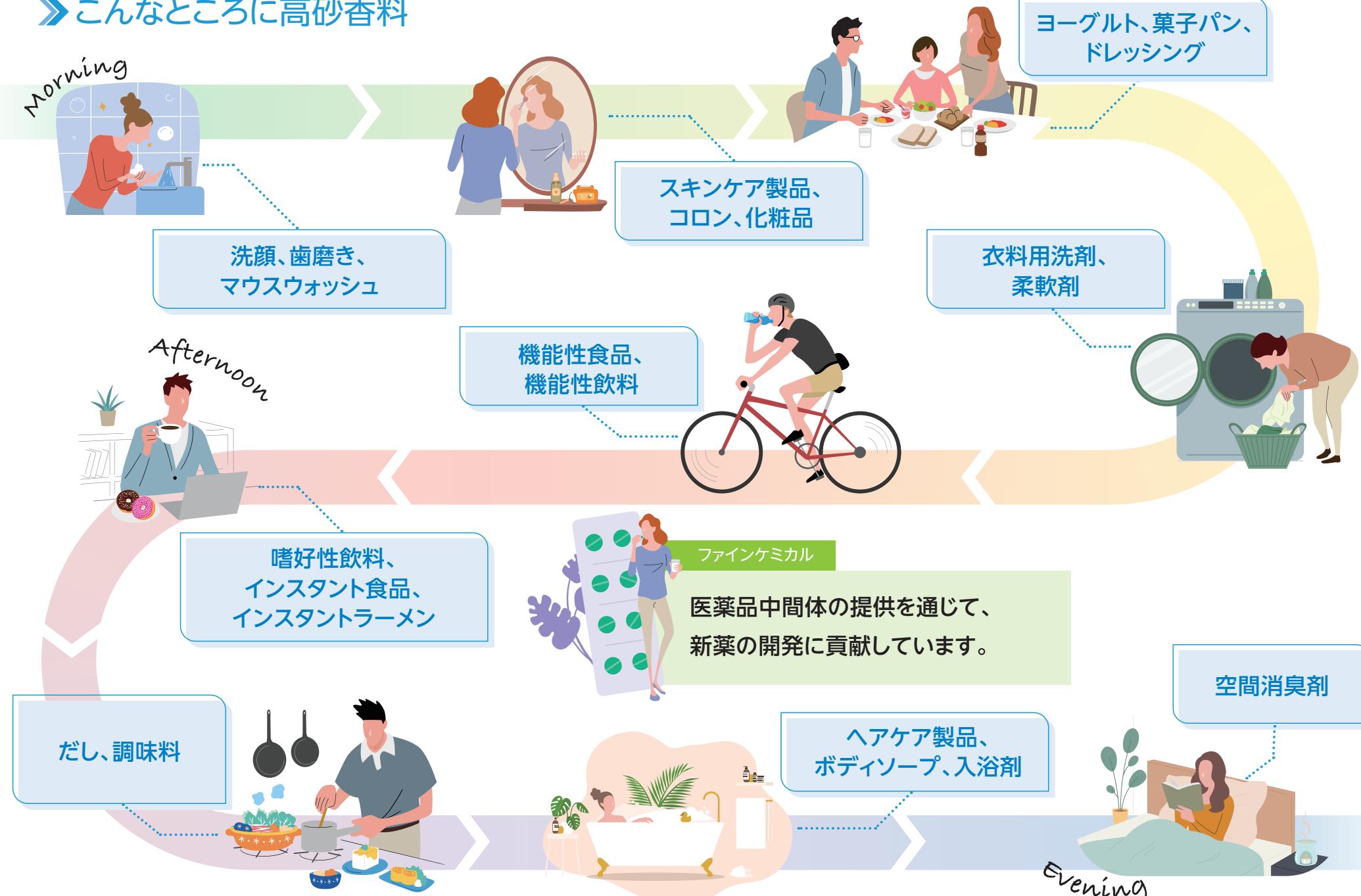
各地域におけるマーケティング活動を通じて、その国や地域特有の嗜好性やニーズをくみ取り、それを研究開発に反映させることで、多様な市場に対応した製品やサービスを提供しています。

さらに、各拠点のネットワークを活用することで最適なサプライチェーンの構築を実現し、原料の調達から製造・物流に至るまで、効率的で持続可能なプロセスを確立しています。

当社グループはお客様の期待を超える価値を提供し、グローバル・ビジネス・パートナーとして共に成長していくことを目指しています。



## » こんなところに高砂香料



# TAKASAGOのサステナブル 価値創造ストーリー

- 8 トップメッセージ
- 11 サステナビリティ担当役員メッセージ
- 13 事業戦略
- 13 サステナビリティにおける方針・計画
- 14 サステナビリティ・ガバナンス
- 15 マテリアリティ・アセスメント
- 16 マテリアリティ
- 17 Sustainability 2030
- 18 マテリアリティ項目
  - 気候変動
  - 人権の尊重
  - 安全第一
  - 責任ある調達
  - デジタル化による価値向上
  - グリーンケミストリー





代表取締役社長  
柳村 聰

# トップメッセージ

## 中期経営計画New Global Plan-2【NGP-2】の進捗について

2025年3月期におけるわが国の経済は、一部に弱めの動きがみられましたが、緩やかに回復しました。一方で、世界経済は、緩やかに成長しつつも、ウクライナや中東情勢をはじめとする地政学的リスクや、中国や欧米を中心とした景気後退の懸念などにより依然として先行きの不透明な状況が続きました。香料業界におきましては、内外の経済動向に合わせる形で市場にも変化が見られましたが、概ね堅調に推移しました。

このようななか、当社グループは「人にやさしく、環境にやさしく」をスローガンとする長期ビジョン、『Vision 2040』のもと、中期経営計画『New Global Plan-2【NGP-2】』(2024-2026年度)を推進しています。NGP-2初年度である2025年3月期の売上高は、前期比17.0%増の2,292億円で過去最高となりました。営業利益は前期比562.4%増の153億円で、こちらも過去最高となりました。

事業セグメント別売上高では、フレーバー事業は、米国子会社で主に飲料向け等が堅調に推移したことにより9.8%増となりました。フレグランス事業は、米国子会社において、新基幹システム導入による出荷調整等の状況が改善したこともあり、18.8%増となりました。アロマイングリディエンツ事業は、スペシャリティ品が好調に推移し、20.7%増でした。ファインケミカル事業は、医薬品中間体等が好調に推移し、前期比84.0%増となりました。

地域セグメント別では、日本は、フレーバー事業において飲料向け等が堅調に推移し、アロマイングリディエンツ事業での製品構成の最適化やファインケミカル事業での売上高増加を主因に利益率が改善しました。米州は、前述の米国子会社での状況改善のほか、原材料、製品ポートフォリオ、販売価格の最適化を通じて売上総利益が改善したことにより、増収増益となりました。また、欧州においては、フランス子会社およびドイツ子会社等が好調に推移し、米国子会社同様、製品構成・販売価格・原材料の最適化を通じて売上総利益が改善したことにより、増収増益となりました。アジアにおいて

も、シンガポール子会社およびインドネシア子会社等が好調に推移したことにより、增收増益となりました。

NGP-2、2年目となる今期は、国内の緩和的な金融環境などを背景に成長が見込まれるもの、米国、中国をはじめとする各国の通商政策等の動きやその影響に加え、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や中東情勢等による地政学リスクは依然として高く、不確実性も極めて高い状況が続くと予想されます。香料業界においては、米国をはじめとして各国経済の影響が懸念されますが、東南アジア市場は引き続き成長が期待でき、さらには成熟市場である欧米での底堅い成長、中国、中南米および中東地域での伸長も見込まれます。

NGP-2では、「海外の成長」「国内の収益性改善」「サステナブルな経営」の3つを基本方針としています。そして、各3つの基本方針において、それぞれキーサクセスファクター（重要成功要因）を設定し目標達成に向けてどこに力点を置くかを明確化し、ステークホルダーへも示しています。「海外の成長」については、海外での売上高が年々増加していくなかで、事業軸による成長戦略や競争力のある技術を通じて着実にビジネスを拡大させてまいります。また「国内の収益性改善」については、グループ全体に占める売上高が最も大きい日本セグメントにおいて、製品ポートフォリオの最適化、新領域の開拓、費用構造改革などを通じ、更なる収益性の改善を図っていきます。また、「サステナブルな経営」につきましては、中長期サステナビリティ計画であるSustainability 2030の実行を通じて社会課題の解決に貢献するとともに、経営基盤の強化を図り、持続的経営を推進します。

## Vision 2040

人にやさしく、環境にやさしく

1. 多様な価値観を尊重する
2. 自然と共生し、人々の生活に彩りを与える
3. 夢と誇りを持って未知の世界へ挑戦する
4. 常に高い技術を追求する、かけがえのない会社

### 基本方針「サステナブルな経営」について

ここでは高砂香料グループが行っているサステナビリティへの取り組みについて、進捗を述べます。

現在取り組んでいるテーマの一つに世界的な気候変動に伴う課題があります。Sustainability 2030では、KPIとして温室効果ガス排出量を定期的にモニタリングしています。2020年4月、高砂香料グループは、TCFD提言に賛同し、その提言に則って気候変動戦略を策定しました。翌2021年には、温室効果ガス排出量のグループ削減目標について、国際的なイニシアチブであるScience Based Targets initiative(SBTi)から認定を受けました。更なるカーボンニュートラル社会への貢献を目指し、グループ削減目標の更新について議論を重ね、2025年4月には、1.5°C基準に合致した新たな目標を策定いたしました。新たな目標は、「2050年にパリューチーン全体でネットゼロを達成する」というネットゼロ目標も含んでおり、これらの目標はSBTiに再び認定されています。今後、Scope1、2については、省エネ活動をさらに活発化させ、再生エネルギー由来電力の使用量を増やすことで、大きく削減していく予定です。Scope3については、2022年には環境省支援事業「サプライチェーンの脱炭素化支援事業」に参画し、そこで得られた知見を元に、サプライヤーエンゲージメント活動をグローバルに開始しました。原料のカーボンフットプリント情報の収集や気候変動に関するサプライヤー企業とのエンゲージメント活動を推進し、サプライチェーン全体での脱炭素化を図っています。

生物多様性の保全も非常に重要なテーマの一つです。高砂香料グループは、合成メントールの出発原料であるミルセンをはじめ、シトラス、ミント、バニラ、コーヒーなど多くの天然由来原料を使用しています。そのため、原料調達においては、サステナビリティへの配慮が求められます。現在、当社グループの調達部門では、主要天然原料をターゲットとして、独自の調達プログラムTakasago Global Procurement Sustainability Key Initiatives (TaSuKI)を進めています。その代表的な活動の一つに、米国フロリダ州でのグレープフルーツの植樹プロジェクトがあります。フロリダは世界有数のシトラス

の産地であり、高砂香料グループも現地で加工されたグレープフルーツやオレンジなどの精油を長年に亘り購入していましたが、気候変動や病害の影響で年々生産量が減少していくことを危惧していました。そのような背景もあり、当社は、2019年から現地の精油加工メーカーとシトラス農園と協同でグレープフルーツの植樹プロジェクトを立ち上げました。立ち上げから5年目の2024年ようやく植樹したグレープフルーツから精油を得ることができ、当社グループの開発チームが活用できる状況になりました。2025年内で、フロリダでの植樹プロジェクトは一旦完了する予定です。

製品開発においては、「SDGsへの貢献を意識した製品の開発」をKey Success Factorsに設定しています。当社が有する環境配慮型の技術と環境負荷の低い製品群は、SDGsの課題解決に貢献でき、今後多くのビジネスチャンスがあると考えています。省エネルギー・省資源を実現する、当社独自の連続フロー技術や触媒技術、環境にやさしいカプセル香料の開発、生分解性の高いアロマイングリディエンツの開発等、さらに深化を図ってまいります。また、当社はバイオ技術を活用した、環境負荷の低い天然由来香料素材の開発に注力してきました。2024年には、「未利用原料から有用化学品を産み出すバイオアップサイクリング技術の開発」のテーマが、NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)のバイオものづくり革命推進事業に採択され、事業を開始しています。限られた天然資源の有効利用に向けて、再生可能資源の探索・利用、代替素材開発による天然香料素材の使用量削減にも積極的に取り組んでまいります。

高砂香料グループのサステナビリティ活動はESGの各分野から構成されており、分野ごとに多くの課題がありますが、引き続き一つひとつ丁寧に解決に向けた対応をしていきます。

## NGP-2、2年度の抱負について

今期(2026年3月期)は、対前年比で0.3%増の売上高2,300億円を目指します。営業利益は前期比18.5%減の125億円を目指します。米国の関税政策により、米国や中国では輸入原料に対する追加関税等が継続することを前提に、販売価格の見直しや原



料調達の最適化を通じたコスト低減等の施策を行っていきます。設備投資においては、2025年9月、磐田工場の医薬品中間体製造設備の導入が完了しました。医薬品中間体の生産能力増強により、ファインケミカル事業の成長を促進していきます。また、新たな拠点として、2025年5月に、インド・ベンガルールに、テイスト・イノベーションセンターを開設しました。重要なマーケットと位置づけているインド市場において、消費者のニーズをより的確にとらえ、独自の優れた技術を駆使して新しい価値を提供していきます。加えて、グローバル基幹システムの導入プロジェクトも進めており、コーポレート経営基盤を強化していきます。

高砂香料グループでは、2040年のありたい姿を「Vision 2040」として定め、「人にやさしく、環境にやさしく」をスローガンに掲げています。NGP-2は、そのありたい姿へ向けて変革を推し進める重要なフェーズと認識しており、設定した方針、戦略に則り、施策を着実に実行してまいります。ステークホルダーの皆様におかれましては、当社グループの更なる発展にご期待いただき、今後も長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## サステナビリティ担当役員メッセージ

# サステナビリティ推進の取り組み

高砂香料グループは「サステナブルな経営」を中期経営計画(NGP-2／2024～2026年度)の基本方針に掲げ、社会課題の解決と企業価値向上に努めています。NGP-2初年度における主な取り組みを以下のとおりご報告いたします。

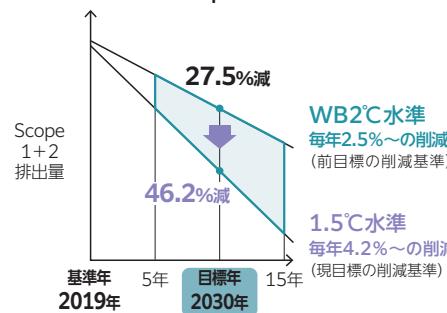
### 気候変動対応

気候変動への適応と緩和を国際的枠組みに沿って推進しています。2020年にTCFD提言に沿った情報開示を行い、2021年にはSBT認定を取得しました。Scope 1と2においては、再生可能エネルギーの導入、省エネルギー活動を進め、LCA算出の仕組みも整備してきました。原料調達(Scope 3)の排出削減に向けた取り組みや、バイオケミストリーや連続フロー反応による環境負荷低減型製品開発にも注力しています。

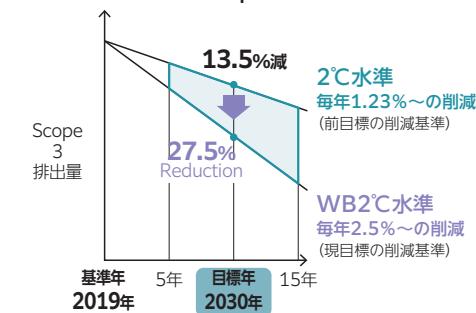
2024年度では、GHG排出量削減への取り組みをさらに進めるべく、SBT認定の目標をグローバル基準に沿って1.5°C目標に移行することに決めました(SBT認証は2025年4月16日に取得)。温室効果ガスの排出量削減目標を更新し、SBTイニシアチブより1.5°C基準ならびにネットゼロの認定を取得しました。

ニュースリリース SBTイニシアチブより1.5°C基準ならびにネットゼロ認定を取得しました

### 新目標の削減基準 (Scope 1+2)



### 新目標の削減基準 (Scope 3)



取締役 常務執行役員

コーポレート本部長

(サステナビリティグローバル統括)

山形 達哉



## 人権尊重

2019年に「人権ポリシー」を策定して以降、人権デューデリジェンスを毎年実施しております。サプライチェーン全体でのリスクの把握と対応を強化しており、SEDEXを活用した倫理監査や弊社グループの従業員による実地監査を進めています。高砂香料グループでは、さまざまな地域の天然原料(例えばバニラ、カカオ、コーヒーや、天然油脂の原料となる草花)を使用しています。こうした原料は農園で栽培されているため、生産現場の労働環境を適切に把握し、確認していくことが重要であると考えています。

### 高砂香料グループ 人権に関する取り組み骨子

#### 方針によるコミットメント

- ・高砂香料グループ人権ポリシー承認(2019年5月 取締役会)
- ・2021年3月一部改定(別添「人権に関する重点課題」を追加)

#### 人権デューデリジェンスの実施

#### 救済措置(ホットラインの整備)

- ・国内では「明日への窓」、海外では各拠点ごとのホットラインが整備されています

これらは、国連で採択された「ビジネスと人権に関する指導原則」や日本政府が策定した「ビジネスと人権」に関する行動計画(NAP)に沿った対応となります。

#### ダイバーシティ&インクルージョン(DE&I)

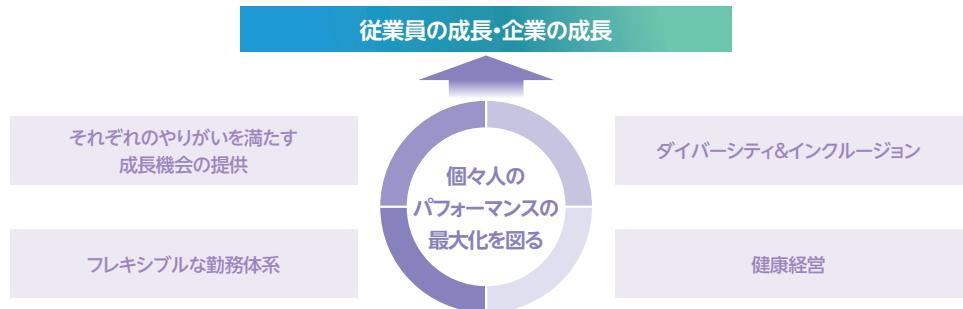
DE&Iを経営の重要課題と位置づけ、2022年にポリシーを制定しました。多様な人材の活躍と柔軟な働き方の推進を通じ、次の100年に向けた持続可能な成長を目指しています。

2024年度は統合報告書の発行にあたり、「人的資本の価値最大化」の目的を明文化・図解しました。そのなかでDE&Iのもたらす効果についても記載しています。個々人の能力を伸ばすことで、会社も発展していくわけですが、サステナビリティも同様で、推進会議(詳細はP.14を参照)に参加しているメンバー各々が社外の勉強会やワークショップに参加をしたり、講演会を聞いたりして新たな知識を吸収し、それを推進会議のメンバーと共に



有したりしながら、各人の成長が仲間の成長につながり、ひいては推進会議の機能を高めていくことにもつながると考えています。

## 人的資本の価値最大化



#### 労働安全衛生

2013年の火災事故を教訓に、安全文化の醸成に継続して取り組んでいます。毎月行われる安全協議会では、社長をはじめとして関係役員が出席し、事故報告、是正対策、社内統一ルールに関する設定などについて議論をしています。また、年に一度開催される「高砂安全の日」などを通じて、グローバル全体で安全管理強化に取り組んでいます。



2025年4月の「高砂安全の日」では、リスクアセスメント強化を主題として、海外も含めた各事業所にて全従業員にリスクアセスメントの重要性について学ぶ機会としました。事故を未然に防ぐ会社としての仕組み同様、個々人の安全におけるリスクを正しく認識し、引き続き安全操業に努めてほしいと思っています。「全従業員が、仕事を終え、笑顔で帰宅する」をモットーにこれからも安全活動に力を入れてまいります。

今回は、我々のサステナビリティの活動のなかで、気候変動対応、人権尊重、ダイバーシティ&インクルージョン、労働安全衛生についてご報告させていただきました。その他の活動又詳細につきましては、行動計画表であるSustainability 2030をご覧いただければと存じます。次の100年も持続的な発展を遂げる企業として、社会課題の解決に向け引き続き尽力してまいります。今後ともご支援の程よろしくお願ひいたします。

## » 事業戦略

当社は、Vision 2040で掲げたありたい姿に向けて、中期経営計画 New Global Plan-2【NGP-2】(2024~2026年度)を策定しました。

NGP-2では、以下の3つを基本方針としています。

1) 海外の成長

2) 国内の収益性改善

3) サステナブルな経営

そして、NGP-2の目標を達成するため、それぞれの方針に対してキーサクセスファクターを設定しています。

One Takasagoとしてグループ一丸での目的の共有、推進のため、リーダーシップの一層の発揮そしてグローバルでのコミュニケーションの強化による従業員のモチベーションの向上に努めています。

### NGP-2 New Global Plan-2

#### 基本方針

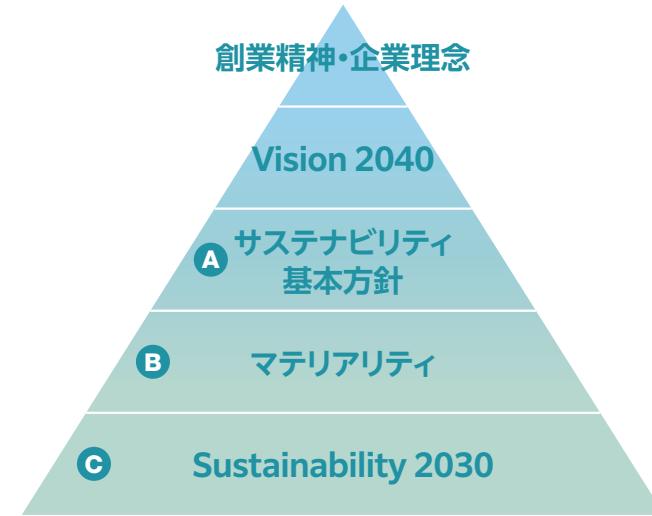


#### Key Success Factors

- |                          |                              |                          |
|--------------------------|------------------------------|--------------------------|
| ● 事業軸の成長戦略               | ● 売上総利益の最適化                  | ● Sustainability2030の実行  |
| ● 新規顧客の開拓                | ● 費用の構造改革                    | ● コーポレート基盤の強化            |
| ● 売上総利益の拡大               | ● 新領域の開拓                     | ● 人的資本の価値最大化             |
| ● 海外サプライチェーンの最適化         | ● フレーバー・フレグランス製品<br>生産効率性の追求 | ● 業務遂行力の向上               |
| ● 先端科学による競争力のある<br>技術の創成 | ● 合成事業生産体制の再構築               | ● SDGsへの貢献を意識した製品<br>の開発 |
|                          | ● 国内サプライチェーンの最適化             |                          |
|                          | ● 先端科学による競争力のある<br>技術の創成     |                          |

## » サステナビリティにおける方針・計画

高砂香料グループは、サステナブルな経営を中期経営計画「NGP-2」における3つの基本方針の一つに位置づけています。2021年に策定した「サステナビリティ基本方針」に沿って、活動を加速していきます。



#### A サステナビリティ基本方針

高砂香料におけるサステナビリティに関する取り組みの指針となるものです。

高砂香料グループは、Vision 2040「人にやさしく、環境にやさしく」に則り、多様な価値観を尊重し、自然との共生を目指します。公正かつ透明な企業活動を通じて、社会課題の解決に積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。

#### B マテリアリティ

高砂香料グループが取り組むべき課題を優先付けし「マテリアリティ」として表現しています。年1回見直しを行っています。

#### C Sustainability 2030

「マテリアリティ」を達成するための具体的な「行動計画書」として「Sustainability 2030」を策定、活動を進めております。

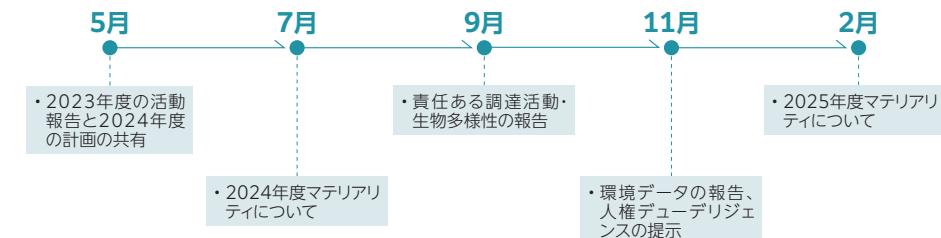
## » サステナビリティ・ガバナンス

グループ全体でサステナビリティ推進強化を図る仕組みとして、2017年に「サステナビリティ推進チーム」を発足しました。EHS、人事、品質保証、研究開発、生産・調達・物流の5つの機能を主としたチーム編成です。

チームの発足以来、コーポレート本部長がチームを率いて「サステナビリティ推進会議」を開催し、サステナビリティ戦略を立案、実施、モニタリングを行っています。各部署の担当者その他、当該部署の担当役員、事業本部部員も会議に出席しています。頻度としては3カ月に1度程度のペースで本社にて開催し、情報や懸念事項を共有し、活動の進捗状況を監視しています。

それぞれの機能が拠点横断的なグローバルな協力体制を取っており、企業戦略に従って行動計画を策定・推進する役割を担います。

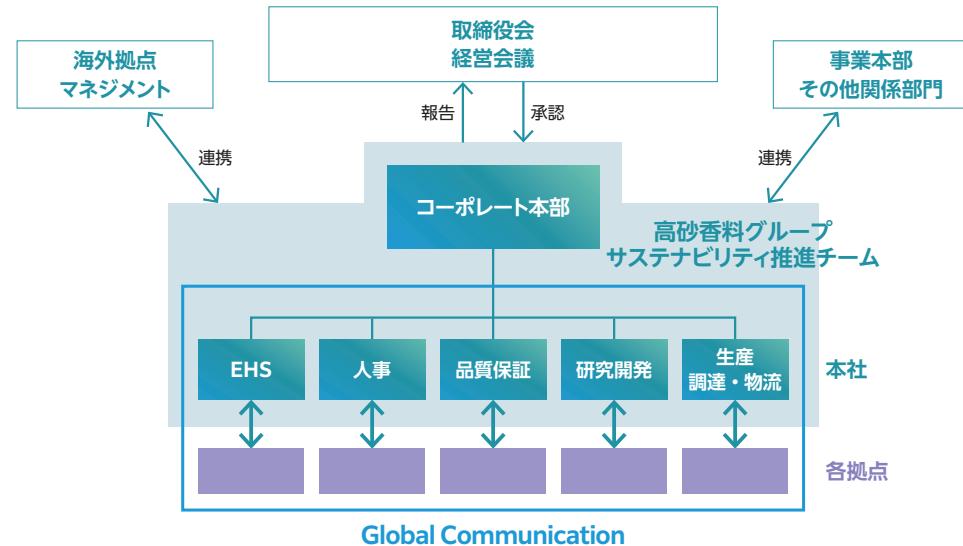
### 2024年度 サステナビリティ推進会議の主な議題



### 取締役会

取締役会は、原則月に1回開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催しています。取締役会は代表取締役社長が議長を務め、経営の重要事項や経営戦略について審議・決定を行うとともにサステナビリティ関連事項も議題に含めています。

毎年マテリアリティ（重要課題）を特定し、取締役会で審議・承認しています。さらに、中期的なサステナビリティ行動計画Sustainability 2030や個別のサステナビリティに関する課題も取締役会に報告し、議論・意思決定します。2024年度はサステナビリティに関する議題は審議3件、報告9件でした。議題は本報告書のコーポレート・ガバナンスのページで紹介しています。



### 経営会議

当社は取締役による経営判断の効率化と業務執行の迅速化を確保するため、執行役員制を導入しています。執行役員の多くは、取締役社長直属の部門長となります。執行役員による議論の場として、月に1回経営会議を開催しています。マテリアリティを含むサステナビリティ重要課題については、内容に応じて経営会議で議論後に取締役会へ報告し承認を取る形式を採っています。

## » マテリアリティ・アセスメント

高砂香料グループでは、外部の意見を取り入れながらマテリアリティ項目の特定作業を実施しています。

マテリアリティ項目は毎年議論・見直しを行っており、グローバル・レポートинг・イニシアチブ(GRI)、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス(DJSI)、サステナビリティ会計基準審議会(SASB)などの指標や基準に基づいています。特定された課題については、サステナビリティチームで議論し、ステークホルダーと意見交換を行います。社会課題を考慮するため、当社に所属する女性従業員や労働組合と意見交換を実施しております。重要課題の草案はその後、経営会議および取締役会で審議します。こうした活動を通じて、グローバルな課題に取り組み、社会の一員としての企業責任を果たしています。これは、長期的な企業価値の向上にもつながっています。

### マテリアリティ特定のプロセス

現在のマテリアリティに加え、国際的なトレンドや業界の動向を調査し、重要な課題を特定

ステークホルダーと意見交換

サステナビリティ推進会議内で議論

取締役会で議論・承認

### 評価手法

高砂香料グループでは、事業への財務的内部影響と社会や環境への外部影響の両面から評価するダブル・マテリアリティの原則に基づき、課題の重要性を評価しています。この評価を通じて、長期的な価値創造のための重要課題を特定しています。

### マテリアリティ 2025-2026

マテリアリティ項目	詳細	Sustainability 2030	関連するSDGs
香り	香りによるQOL/ウェルビーイングへの貢献	—	
人にやさしく	従業員のエンゲージメント向上(従業員の成長支援、健康経営の推進など)、ダイバーシティ&インクルージョン、人権の尊重	人権、地域コミュニティ	
環境にやさしく	気候変動の緩和と適応、環境負荷の低減、生物多様性保全への取り組み	気候変動、環境負荷低減	
安全第一	法令遵守、リスクアセスメント、化学物質管理	労働安全衛生	
サプライチェーンマネジメント	原材料調達のレジリエンス追求、責任ある調達の推進、安全・安心・安定かつ高効率な人と環境にやさしい生産活動の推進、持続可能な物流の推進	責任ある調達	
ガバナンス	法令遵守、公正かつ透明な経営、リスク管理、中長期的な企業価値の向上	—	
デジタル化による価値向上	セキュリティ強化、基幹系・周辺システムのグローバル統合、人工知能(AI)・製造の自動化・IoT、ペーパーレス化	—	
技術革新	オープンイノベーション、バイオものづくり、連続フロー反応/触媒、人工知能(AI)、レセプターアッセイ	グリーンケミストリー	
安全・安心な品質	法令遵守と適切な品質保証、トレーサビリティ、品質管理	透明性	

## » マテリアリティ

高砂香料グループでは、私たちが目指すサステナブルな経営の姿をステークホルダーの皆様にわかりやすく伝えるため、マテリアリティ（重要課題）の関係性を簡潔に整理し、下図のように示しています。マテリアリティは、当社グループのビジョンである「社会への貢献」を実現するうえで欠かせない要素です。評価プロセスでは、マテリアリティをマテリアリティ・マトリックスに基づき優先順位づけています。



# » Sustainability 2030

高砂香料グループは、マテリアリティに関連する目標を達成するため、2021年4月に中長期的なサステナビリティ行動計画「Sustainability 2030」を策定しました。この行動計画に基づく各種活動の進捗状況は、定期的に取締役会に報告しています。以下に、2024年度における主要な活動の進捗概要を示します。各活動の詳細および今後の取り組みについては、関連ページをご参照ください。

項目	Phase 2(2024~2026)の目標	2024年度の活動内容	Phase 2評価	関連ページ	
1 気候変動	SBTiに合致した目標設定および排出量削減案の立案・推進	<b>Scope1+2 排出量の削減</b> 省エネ活動やリニューアブルエネルギーの導入をグローバルに推進 <b>Scope3 排出量の削減</b> 調達部門にてサプライヤーとのエンゲージメント活動を開始。当活動を通じて、原材料のLCA(CFP)情報を収集し、サプライチェーンの脱炭素化に向けた対話を推進。		P18, 30-33	
2 環境負荷低減	温室効果ガスの削減	温室効果ガス排出量総量で対2019年度比で2030年までに27.5%削減	グループ全体の温室効果ガス排出量は、基準年(2019年度)比で15.3%の削減となりました。		P18, 31-33
	水使用量の削減	水使用(取水)量について1%の削減(2030年度までに2020年度比で10%の削減)	グループ全体の水使用量は、基準年(2020年度)比で5.6%の削減となりました。		P33-34
	廃棄物の削減	廃棄物排出量について0.5%の削減(2030年度までに2020年度比で5%の削減)	廃棄物発生量は、基準年(2020年度)比で4.1%削減しました。また、グループ全体の廃棄物発生量の1.8%が埋立処分となりました。(前年度は1.34%)		P34
3 労働安全衛生	コンプライアンス	・EHS関連法規管理システムの構築 ・定期的な法令遵守点検の実施	コンプライアンス教育、社外OHS専門家による改善フォロー、ISO 45001に基づくPDCAサイクルによる改善など、さまざまな取り組みを実施		P20, 35-36
	インシデント対応	リスクアセスメント	リスクアセスメント講習会、リスクアセスメントトレーナーの育成、インシデント診断など、さまざまな取り組みを実施		P35-36
	ワーク・ライフ・バランスの向上推進	セルフケア、ラインケアの推進のための教育研修の実施	EHS教育プログラム、リスクアセスメント研修、労働安全衛生(OHS)に関する各種eラーニングプログラムなど		P44
4 地域コミュニティ	社会貢献活動に関する年間活動計画表の作成および実行	社会貢献活動に関する年間活動計画表に基づき拠点ごとに活動	-	P67-68	
5 グリーンケミストリー	環境負荷軽減を意識した技術・製品の開発	製品の生分解性改良をはじめとするさまざまなプロジェクトの推進	-	P25, 59-62	
6 責任ある調達	原材料調達	責任ある調達ポリシーの運用	<b>責任ある調達ポリシーの遵守(TRSP)</b> 全原料サプライヤーのうち、74%の企業がポリシーに同意。 <b>Sedex</b> 当社グループは、SEDEXプラットフォームにおいて、300サプライヤー企業／400拠点と紐づけ。		P22, 50-53
7 人権	第三者機関の知見を活用した人権・労働環境の定期的見直し・改善スキームの構築	2024年、5生産拠点にて、SMETA(SEDEX監査)を実施しました。ほとんどの事業所が3年ごとにSMETAを受審し、必要に応じてグループ内で改善を水平展開。		P19, 78	
	人権デューデリジェンスの継続的実施	2024年においても、グループ全体で人権デューデリジェンスを実施しました。なお、グループ会社での人権侵害は報告されていません。		P19	
8 透明性	非財務情報を中心とした情報開示	開示の充実	<b>サステナビリティ報告書</b> Sustainability Report(英文)、サステナビリティ報告書(和文)の発行に加え、公式WEBサイトとLinkedInでのサステナビリティ情報開示を強化 <b>情報開示要請への対応</b> CDP, EcoVadis, Sedex, ESGインデックスへ適宜対応		P1, 66, 69
	製品の環境等へのインパクトに関する情報開示	LCA・Sustainability ID Scoreの検討・導入	<b>第三者機関による外部認証</b> LCA算定について、外部コンサルタントからの認証取得のプロジェクトを開始		P31

## ▶ 基本的な考え方

高砂香料グループは、気候変動をグローバル視点で長期的に取り組むべき課題と認識し、マテリアリティの中でも重要度が「非常に高い」項目として特定しています。カーボンニュートラル社会の実現に向け、気候関連課題への取り組みを進めます。

## 戦略

高砂香料グループは、パリ協定に基づく事業活動を行うため、TCFD提言に沿った気候変動戦略を策定しました。当社グループは、気候関連の情報開示にも注力しており、2010年からサプライチェーンプログラムを通じてCDPに回答しています。2024年のCDPの気候変動プログラムにおける当社グループのスコアは「B」となります。



## 2024年度の進歩・成果



高砂香料グループは、SBTの削減目標に沿って温室効果ガス(GHG)の排出削減を達成してきました。その削減活動を加速させ、社会要請に応えるため、2025年には温室効果ガス削減目標を1.5°Cに更新し、ネットゼロ目標を策定しました。これらの目標はSBTイニシアチブにより科学的根拠に基づく目標として承認されており、新たに策定した削減目標達成に向け、温室効果ガス排出量の削減に努めています。

## 短期目標

- 期間:2019年度を基準として2030年度までに達成
- Scope1+Scope2排出量を **46.2%** 削減
  - Scope3 GHG排出量を **27.5%** 削減

## ネットゼロ目標

- 2050年までに  
バリューチェーン全体のGHG排出量を  
ネットゼロにする

## ■ Scope 1+2排出量(自社活動由来排出量)

Scope 1+2 排出量  
(2024年度)

**-15.3%**

基準年である2019年度比

再生可能エネルギー由来電力  
の使用率

**32.6%**

目標: 2030年までに全電力使用量の30%を再エネ由来電力に切り替え

カーボンニュートラル社会の確立に貢献するため、当社グループは、省エネ活動、プロセス改善、エネルギー効率向上のための設備導入に注力しています。ベストプラクティスは、社内EHSマネジメント組織を通じてグローバルに共有されています。また、当社グループは再生可能エネルギー由来の電力の利用によって、Scope 2排出量の削減にも貢献しています。

## ■ Scope 3 排出量(サプライチェーン排出量)

2024年、当社の調達部門は、LCA情報の収集をはじめとするサプライヤー・エンゲージメント活動をさらに加速させました。エンゲージメント活動を通じて、サプライチェーンの脱炭素化に向けた排出量削減対策を実施していきます。

## ■ 今後の取り組み

高砂香料グループは、製品のLCA算定も進め、お客様とのエンゲージメントを強化していく予定です。加えて、気候変動機会およびリスクへの対応については、グリーンケミストリーの推進やサプライチェーンのレジリエンス強化をさらに推進しています。引き続きさまざまな施策を検討および実施し、カーボンニュートラル社会に向けて貢献できるよう努めています。

## マテリアリティ 項目 2 人権の尊重

## › 基本的な考え方

高砂香料グループは、人権を尊重した企業活動を行っています。

人権侵害に対する当社の姿勢をより明確にするため、2019年に「高砂香料グループ人権ポリシー」を策定し、人権デューデリジェンス※の仕組みを構築しました。2021年、多岐にわたる人権問題を整理し「人権に関する重点課題」として考え方をまとめ、「高砂香料グループ人権ポリシー」に付記しました。また、サプライチェーン全体での人権への取り組みも強化すべく、この「人権に関する重点課題」を「高砂香料グループ サプライヤー行動規範」にも織り込みました。原料のみならず全てのモノ・サービスを調達しているお取引先様に、同行動規範を説明し遵守をお願いすることでサプライチェーン全体にわたる人権対応の浸透を図っています。

※人権デューデリジェンス：人権リスクの抽出から課題への対応、情報開示に至るプロセス。

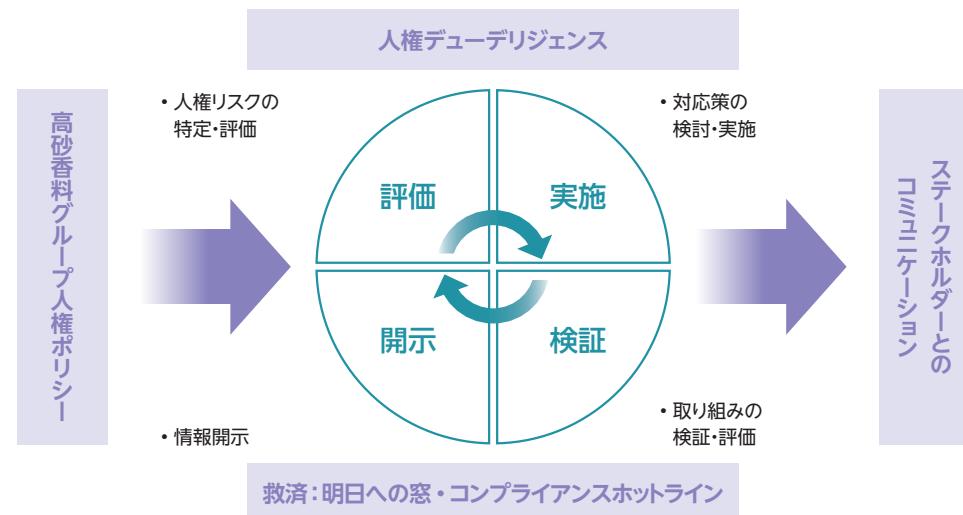
## 戦略 ➤ 人権デューデリジェンスの継続的実施

当社グループでは2019年から継続して人権デューデリジェンスを実施しています。事業活動や世界情勢をふまえてチェックリストを毎年更新し、全拠点で人権侵害や人権侵害につながるリスクがないか確認しています。2024年度も当社グループにおける人権侵害の報告はなく、結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業拠点はありません。2024年は5つの製造拠点でSMETA<sup>※</sup>監査を受審し、第三者の確認を受けています。

また、サプライヤーへのCSR監査も行っています。本報告書の原料調達のパートで紹介しています。

人権デューデリジェンスの継続的な実施と多角的な取り組みを通じて、今後も人権尊重を前提とした事業活動を推進します。

※SMETA : Sedex Members Ethical Trade AuditはSedexが設計した倫理取引監査基準であり、世界で最も広く使われている社会監査基準の一つです。SMETAは、4つの柱である①労働基準 ②安全衛生(H&S) ③環境 ④企業倫理の領域をカバーしています。



研修

各拠点で従業員を対象に人権に関する研修や教育を行っています。当社では2024年度はビジネスと人権に関する動画研修を行いました。今後も人権を尊重した企業活動を行うため、研修を継続していきます。

## 生活賃金について

高砂香料グループは、従業員の居住地等を考慮したうえで、従業員自身と扶養家族両方の適切な生活水準が十分に保証される賃金を継続して支払っています。管理会計の側面から加えて、人権面でも賃金をモニタリングし、各地域の最低保証賃金以上を支払っていることを確認しています。また、当社が受審している倫理監査でも賃金は一つの監査項目であり、第三者からも確認されます。

## ▶ 基本的な考え方

高砂香料グループは、従業員の安全と健康の確保が持続的な成長の基盤であると考えています。全ての従業員が安心して仕事に専念できるよう、安全・安心な職場づくりに取り組んでいきます。また、過去に発生した事故や労働災害を踏まえ、安全操業の重要性を認識し「安全は全てに優先する」を引き続き実践していきます。

## 戦略

## 労働安全衛生の推進

高砂香料グループでは、労働安全衛生マネジメントシステム(ISO 45001)を活用し、EHS活動の標準化を推進しています。グローバルに適切な計画を実施するため、本社・EHS本部はグローバルEHS委員会(GEC)を組織しています。GECでは、リスクアセスメント、法令遵守、化学物質の適正管理、作業管理などによる予防活動の推進、事故原因分析による実効性の高い再発防止策の実施、各種検証結果に基づく傾向分析による安全活動の優先順位付けなどを行い、安全で健康的かつ快適な職場環境の実現を目指しています。

## 2024年度進歩状況

2024年度は、国内拠点で4件(休業災害<sup>※1</sup>)発生。海外拠点では28件(休業災害<sup>※2</sup>)発生。高砂香料グループでは、労働災害が発生した場合、特に従業員や組織の視点から根本的な要因を特定し、危険な作業や業務の排除、機械や管理面での安全対策を計画的に実施しています。原因分析と対策結果は本社・EHS本部で検討し、対策事例を当社グループ全体で共有することで、類似の労働災害を未然に防止しています。

※1 国内拠点における共通報告基準に基づく労働災害発生件数

※2 海外拠点における共通報告基準に基づく労働災害発生件数

## ▶ 進歩と成果

## ■ ISO 45001

高砂香料グループは、2020年度に国内生産拠点で環境マネジメントシステム(ISO 14001)とISO 45001の統合認証を取得し、2021年度には国内研究開発本部と海外8生産拠点でISO 45001の認証を取得しました。さらに、2022年度は、海外3生産拠点で認証を取得しました。今後もグローバルで統合した環境・安全衛生マネジメントシステムを適切に運用して、事故・労働災害撲滅につなげていけるよう努めます。

## ■ 直近の取り組み

(年度)	
2018	海外生産拠点におけるMinimum EHS Requirementsの実施状況を確認するため、EHS Inspectionを開始
2020	コロナ禍の影響で海外拠点への出張ができなかつたため、Web会議システムを利用したリモートによる「Remote EHS Inspection手法」を確立し、メキシコの拠点に対するEHS Inspectionを実施
2022	3年ぶりに現地訪問を再開し、再度メキシコの拠点に対し、EHS Inspectionを実施
2023	フランス拠点に対してリモートでEHS Inspectionを実施
2024	インドネシア、フランス、ドイツ、スペインの各拠点を訪問し、EHS Inspectionを実施

高砂香料グループは、労働安全衛生活動を推進するうえで、各拠点の経営トップのリーダーシップとコミットメント(意識、対応、積極的支援、フィードバックなど)が非常に重要であると考えています。本社・EHS本部では、国内各拠点の経営トップに対して、安全確保と必要な資源管理の役割を再確認するための教育を実施しています。

## 今後の取り組み

高砂香料グループは「重大インシデント(労働災害)ゼロ」を最終目標に掲げています。グループ内で発生したインシデント(労働災害)の教訓や各サイトで取り組んだ良事例を社内で共有し、最終目標の達成に向けて取り組んでいます。また、重大インシデント(労働災害)につながる可能性のある事故を未然に防止するため、リスクアセスメントの結果、ロックアウト・タグアウト(LOTO)ルールや静電気管理ルールの見直しを行います。当社グループでは、グローバルに主要拠点にEHSマネージャーを配置し、各国・各拠点の状況に応じた安全衛生活動を推進しています。今後も、各拠点の労働安全衛生活動や労働災害の状況を定期的に把握することで、労働安全衛生体制の充実とリスク低減の取り組みを推進していきます。

## 高砂安全の日

2013年の平塚工場火災事故を風化させないために、毎年4月10日を「高砂安全の日」と定め、各事業所でテーマに沿った活動を展開しています。2013年の火災事故以降、幸いにも高砂香料グループでは重大な事故・労働災害は発生していません。しかし、当時の状況を知らない従業員が増えてきている現在、従業員一人ひとりが「安全は全てに優先する」の思いを強く持ち「二度とあのような事故は起こさない」ために、日々安全への取り組みを実施していくうえで、この「安全の日」の行事の意義はますます大きくなっています。



## 4 責任ある調達

## ▶ 基本的な考え方

ご存知のとおり、資源枯渇や地球温暖化などの環境問題、労働災害や人権問題などの社会問題、世界が直面するさまざまな課題は増加し、深刻化しています。そのため、企業は、パートナーとの強固で互恵的な関係と透明な取引に基づいた調達の持続可能性を確保するために、責任ある調達活動に機動的に取り組む必要があります。サプライチェーン全体でビジネスパートナーと協力し、リスク評価とカイゼン(継続的な改善)活動に取り組むことで持続可能なサプライチェーンを最適化するために必要なアクションプランを実行することができます。

## 戦略

## 高砂香料 責任ある調達ポリシーの実践

高砂香料グループでは、「高砂香料 責任ある調達ポリシー」を制定し、同意書の配布・提出を通じて、お取引先様とその下請業者様に本方針とその考え方の共有・理解をお願いしております。また、人権・労働・環境・腐敗防止の分野におけるコンプライアンスの確認や調達活動のリスクと潜在的影響を調査するため、サプライヤーに対して「高砂香料 責任ある調達ポリシー」の自己評価質問票(SAQ)やSedex質問票への回答を依頼しています。サプライチェーンへの悪影響の可能性が確認された場合は、サプライヤーなどステークホルダーと連携し、直ちに改善計画を立案し、是正措置を講じます。ESG関連のリスクにさらされているサプライヤーについては訪問調査を行い、ISO 26000やSMETA規格などのグローバルスタンダードに基づき、第三者監査人による評価を実施しています。



## ▶ 進捗と成果

2021年に当社グループの全原材料サプライヤーに「高砂香料 責任ある調達ポリシー」を配布し、引き続き全ての新規サプライヤーに方針を共有しました。2024年には、約1,200社のサプライヤーのうち約890社(74%)から同意書を取得しました。また、同意書を提出したサプライヤーに対して、Sedexへの加入または当社方針を基に作成した自己評価質問票への回答をお願いし、遵守状況を確認しました。「高砂香料 責任ある調達ポリシー」自己評価質問票に回答いただいた約300社のサプライヤーへのフィードバックに続き、Sedexプラットフォームでリンクしている約260社380工場にSedex SAQに関するフィードバックを送信し、持続可能性に関する活動の改善を依頼しました。

2023年に第三者機関と確立した方法論に基づいて、リスクの高いサプライヤーをピックアップしました。2024年4月、確立した基準を使用して第三者監査人とともにサプライヤーのパイロット現地評価を実施しました。評価で見つかった不適合のフォローアップを継続的に行い、サプライヤーがグローバルスタンダードを理解し、状況を改善できるようにしました。

## ▶ 今後の取り組み

2024年にサプライヤー情報収集と同意書収集のためのシステム(Coupa CSO)を導入しました。今後も新システムを活用し、サプライヤーから「高砂香料 責任ある調達ポリシー」同意書を取得します。同意書を提出いただいたサプライヤーには、Sedexへの加入、または当社方針で定める自己評価質問票への回答をお願いしています。回答いただいたサプライヤーには引き続きフィードバックを行い、改善の必要がある場合にはサプライヤーとともに改善に取り組んでいきます。毎年オンラインアセスメントを計画し、リスクの高いサプライヤーを特定、アセスメントを実施し、必要な改善を依頼します。



## 5 デジタル化による価値向上

### ▶ 基本的な考え方

高砂香料グループは、持続的成長のための企業インフラとして、ITの継続的な整備・活用に注力しています。基幹系システムや周辺システムのグローバル統合、モノづくりの自動化、人工知能(AI)の活用に加え、リモートワークにも柔軟に対応できるペーパーレス化を推進しています。

### 戦略

デジタル化を推進することは、業務フローの標準化を実現し「One Takasago」のもと、高砂香料グループの生産性を向上させるために不可欠な戦略であると考えています。また、多様化・巧妙化するサイバー攻撃に対応するため、ITセキュリティの継続的な強化は喫緊の課題です。当社では、脆弱性診断ツールを活用するなど、攻撃者のネットワーク侵入を防ぐための対策を継続的に実施しています。

これらの課題を2030年度までの青写真として「高砂GIT戦略-4つのプラットフォーム\*」にまとめました。この青写真に沿って、当社グループの企業活動の根幹を支えるITの整備・活用とセキュリティの強化を着実に進めています。

\*4つのプラットフォーム：ITセキュリティ強化、グローバルSAP／周辺システム統合、コーポレート部門のデジタル化、その他マネジメント

### ITセキュリティの強化

デジタル・セキュリティ対策の改善は、最も重要な取り組みの一つと位置づけています。技術面では、多要素認証や脆弱性診断ツールのグローバル導入、そしてグローバルセキュリティ専門チームを設置しています。ソフト面では、定期的な社内ルールの見直しや、毎年実施しているe-ラーニングや標的型攻撃メールへの訓練など、啓発活動を強化しています。

### グローバルSAP(GSAP)／周辺システムの統合

GSAPプロジェクトは、基幹系システムをSAPにグローバル統合することに加え、業務プロセスを高砂のベストプラクティスに合わせることを主眼としています。各拠点へのGSAPシステム導入に先立ち、2020年からグローバルテンプレートの開発に着手しました。2022年シンガポール拠点、2023年アメリカ拠点、2025年にフランス拠点に導入し稼動しています。今後も他拠点への導入に向け、対応を進めています。

2025年以降、研究や安全管理にも導入範囲を拡大する予定です。

### 導入対象のモジュール



グローバルデザインを作ることは将来にとって非常に重要であり、グローバルな全てのシステムをこのアーキテクチャに従って設計することが可能となります。

## Voice

## GSAPに使用される フレーバー原料コードの関連会社間に おけるハーモニゼーション



国際品質保証統括部 部長  
石田 信一

我々はこれまでFL原料のグローバル仕様について整合を図ってまいりました。

しかしながらこれは各拠点で独自の原料コードで運用を行っていたため、サプライヤーを決定し、スペックや法規安全情報の整合が取れていれば、拠点間での原料コードの競合が生じることなくそれぞれのシステムに登録することができました。

そして、このGSAPが導入されてからは拠点間の整合を図り、コードの統合を行う必要が出てきました。

この運用を行うことで登録の一元管理が行えるため、以下のメリットが挙げられます。

- ・整合化された原材料の購買活動と登録サプライヤーの可視性向上
- ・複数の拠点で共通の原材料を取り扱うサプライヤー登録の迅速化
- ・仕様は既に整合／確認済み。各拠点では、ローカル処方における官能評価への影響のみを確認すればよい
- ・グローバル原材料の更新は、単一のコードのみで行うことができる
- ・全ての購買組織の整合状況を容易に追跡できる
- ・処方の移管が容易になる
- ・サプライチェーンを通じた原材料のトレーサビリティが容易になる
- ・原料リストができているため、製造移管やBCPに迅速に対応することができる
- ・各購買組織の業務内容に関する理解が深まる
- ・グローバルガバナンスの推進において、相互にベストプラクティスを学ぶ機会が得られる

## Voice

## GSAP:TEPLチームの取り組み



グローバルSAPプロジェクト  
TEPLサイト・コーディネーター  
ヴァネッサ・オーベル

TEPL(当社フランス拠点)におけるGSAP導入は、私たちの発展において重要な節目となります。この成功は、経営陣、チームリーダー、専門家、そして全スタッフの献身的な取り組みと参画なくしては実現できませんでした。私たちは一丸となり、各々のスキルを発揮しながら、グローバルテンプレートへの整合という戦略的プロジェクトに挑みました。

導入過程では、全員が変化を理解し、結束を強めるため、TEPLチームメンバーは継続的なコミュニケーションを行い、プロセスの各段階を共有しました。この透明性の確保により、役割への責任感と強い帰属意識が育まれました。特にファンクションリーダーは、プロジェクトチームと運用チームをつなぐ中継役として重要な役割を果たしました。

新たな仕組みを根付かせるためには、従来の働き方を見直し、新しい習慣と共通の基準点を再構築する必要があります。

また、効率的な協働を実現するために、部門間のコミュニケーションの仕組みを再設計し、グローバルチームやパートナーとの連携をさらに強化しました。私はサイト・コーディネーターとして、プロジェクト関係者や関連会社間の円滑な交流を促進する役割を担い、この相乗効果と強いチームスピリットが6月2日の野心的なGo Liveを可能にしました。

この成果は、TEPL全従業員にとって大きな誇りです。今後、関連会社の安定化や顧客期待への対応には課題が残りますが、注力して進めていきます。

## 6 グリーンケミストリー

## ▶ 基本的な考え方

「香りを原点とする革新的な技術を通して、新しい価値を創造し続ける」という企業理念のもと、研究開発に関わる中期経営計画「NGP-2」のキーサクセスファクターとして「先端科学による競争力のある技術の創成」「SDGsへの貢献を意識した製品の開発」を掲げており、これらの課題解決に向けてもグリーンケミストリーは重要な要素ととらえています。研究開発では、SDGsを念頭に、環境負荷低減やエネルギー効率に配慮したプロセス開発、再生可能資源ならびに未利用資源を利用した素材・製品開発を通じて、Vision 2040に掲げた「人にやさしく、環境にやさしく」に沿った研究開発を目指し、グリーンケミストリーを推進していきます。

## 戦略

「グリーンケミストリー12原則」\*を念頭に置いた  
環境にやさしい研究開発の推進

研究開発では、環境負荷の低減に向けて、高砂香料グループ独自の触媒技術の活用や最新のバイオ技術の導入ならびに環境負荷の低いプロセス開発により、エネルギー、水の効率的利用や温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。またそれと同時に、限られた天然資源の有効利用に向けて、再生可能資源の探索・利用、代替素材開発による天然香料素材の使用量削減、未利用資源の活用などにも積極的に取り組んでおり、これらの環境にやさしい研究活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献していきます。

\*化学物質の製造から使用、廃棄までの各段階で、環境負荷の低減と安全性の確保を図るために定められた国際的な12の指針です。

## 2024年度の進捗・成果

アロマイングリディエンツ開発では、石油由来原料を再生可能原料へ切り替えるBIOSWITCH®の取り組みを推進しています。再生可能原料を用いた、Bio-based値が高く生分解性の良い香料素材の開発に注力し、Sustainable Scent™(サステナブルセント)として商業展開しています。一方で、NEDO(国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構)の事業では、

2022年度に参画した「カーボンリサイクル実現を加速するバイオ由来製品生産技術の開発/研究開発項目 [3] 産業用物質生産システム実証」のステージゲートをクリアし、2024年度において3年間の最終年度を迎えるました。また、2023年に採択された「未利用原料から有用化学品を産み出すバイオアップサイクリング技術の開発」においては、国内未利用資源の原料化、効率的な菌株開発を進め、環境にやさしいバイオものづくりによる香料素材の社会実装を目指しています。

合成分野では、香料素材や触媒の開発を担う分子変換研究所とプロセス開発を担うプロセス開発研究所が研究の初期段階から連携することで、グリーンケミストリーが強く意識された製造プロセスの確立に努めています。また、製造部門と開発部門が協力して既存製品の工程改良、新規製造品目の立ち上げを行う過程で反応工学的なデータの収集やプロセスシミュレーターを活用し、安全の確保やエネルギー的に有利なオペレーションの実現を追求しています。高砂香料グループのキーテクノロジーである不斉水素化反応やカップリング反応に使用する触媒には、その性能に大きく影響するBINAPやSEPHOS®といった配位子を使用しています。BINAPの誘導体のなかには、高い性能を有するものの製造に多段階の反応を要するために工業的な使用が困難なことがありました。この配位子の製法改善に取り組み、反応数を4つから1つに短縮する製法を開発し、工業的な使用が可能となりました。今後もスケールアップ製造に対応したグリーンプロセスの構築に向け、触媒の開発を進めています。

## ▶ 今後の取り組み

NGP-2のキーサクセスファクターへ対応するために、引き続きVision 2040「人にやさしく、環境にやさしく」に則った上記の戦略に基づき、グリーンケミストリーを中心とした環境にやさしい研究開発を推進していきます。

# 環境・労働安全衛生

- 27 グローバルEHSマネジメント
- 28 生物多様性の取り組み
- 30 気候変動への対応
- 31 温室効果ガス排出量削減目標
- 32 環境
- 35 労働安全衛生(OHS)
- 36 高砂安全の日 2024



## » グローバルEHSマネジメント

安全統括本部安全管理部では、高砂香料グループの持続的なEHS文化を構築するためにEHS Missionを策定しました。

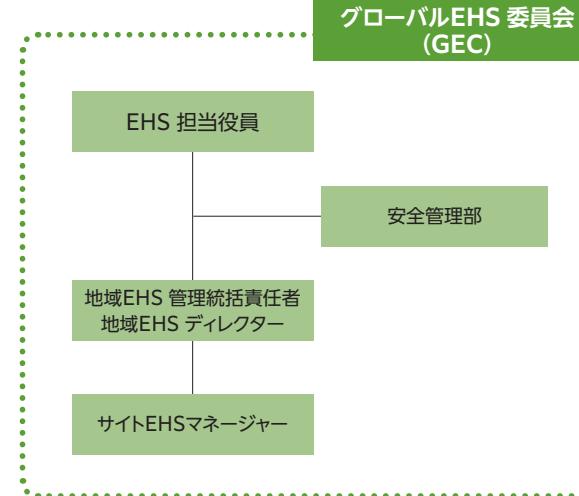
### EHS Mission :

- 高砂香料グループは持続可能なEHS文化を構築するために、以下を実行します。
- 当社事業に適用される法令およびその他要求事項、ならびにステークホルダー要件に対応します。
  - 事故、病気、環境への悪影響を回避するために、私たちの活動に内在するリスクを特定して管理します。
  - 天然資源の保護、汚染の防止、温暖化効果ガス排出量の削減を計画し、環境負荷低減を実現します。
  - 事業計画と意思決定にEHSの要素を組み込みます。

また、この「EHS Mission」と共に、2021年度から2030年度までのサステナビリティ推進10カ年計画である、「Sustainability2030」において気候変動(温室効果ガス(GHG)排出量の削減)、環境負荷の低減(資源の持続可能な利用と汚染の防止)、労働安全衛生の推進などのEHS活動に関する目標を設定しました。この10カ年計画は、初年度に引き続き4年目の今年度もEHS活動の目標を達成しました。

高砂香料グループでは、EHS活動の標準化を推進し、グローバルに計画を実行するために、グローバルEHS委員会(Global EHS Committee:GEC)を組織しています。GECは、グローバル生産拠点のEHS担当者で構成されています。

### グローバルEHS委員会(GEC)



### EHS宣言

高砂香料グループは、グループ経営の基盤の一つとして「EHS宣言」を制定しています。

このEHS宣言は、高砂香料グループのEHS活動におけるビジョン・価値観を世界28の国と地域の全ての従業員と共有するために、11の言語で作成されています。EHS宣言において、全ての事業活動に対し、EHSを最優先の行動原則とすることとしています。

## » 生物多様性の取り組み

香料産業は、生物多様性がもたらすさまざまな恵みを受けながら発展してきました。高砂香料グループでは、世界中から数百種類以上の天然香料を調達しており、これらの多様な天然資源は、フレーバー、フレグランス、アロマイングリディエンツ製品の製造に使用されています。生物多様性が当社の多様な製品ポートフォリオを支えており、さまざまな香りを表現することにつながります。

### 方針

高砂香料グループは、世界の人から共感を得られるグローバル企業として地球環境に配慮するため、グループの生物多様性指針を策定しています。

#### 【高砂香料グループ生物多様性指針】

- 事業活動が生物多様性に及ぼす影響を、企業の存続に関する課題としてとらえ、保全に配慮した経営に取り組む。
- 原材料の調達において、生態系や生物多様性の保全と、持続可能な利用を目指し、継続的な改善に努める。
- 生態系や生物多様性の保全に寄与する技術、製品、工程の開発や改良に努める。
- 社内外のステークホルダーと連携し、生物多様性の保全に努める。

2024年には、当社は、経団連生物多様性宣言イニシアチブに参画しました。持続可能な社会の実現に向けて、バリューチェーン全体の生物多様性の保全に取り組んでいきます。



### リスク評価

グローバルに支持されている生物多様性に関するフレームワークであるTNFD\*を参考に、LEAPアプローチや地域環境別のアプローチを用いて、当社がどのように自然資本を利用しているかを把握し、生物多様性に関するリスク、依存度、インパクトについて評価し、対策を立案しています。これらは、全社的なリスク管理プロセスに統合されています。重大な環境リスクは、取締役や執行役員で構成されるリスク管理委員会にて、議論されます。

\*TNFD (Taskforce on Nature-related Financial Disclosures):企業・団体が自身の経済活動による自然環境や生物多様性への影響を評価し、情報開示する枠組みの構築を目指す、自然関連財務情報開示タスクフォース

#### 特定した主な自然関連リスク

サプライ チェーン	直接操業	消費者・市場 地域社会
<ul style="list-style-type: none"> <li>天然原料の損失</li> <li>入手可能性の減少</li> <li>天然原料の価格高騰</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用可能な水資源の減少</li> <li>生態系劣化に伴う災害激甚化による操業停止</li> <li>法規制強化に伴う事業への影響</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サステナビリティ志向に伴う市場変化</li> <li>企業ブランドの棄損</li> </ul>

## 取り組み

特に天然原料は、事業の特性上依存度が高く、その損失や入手可能性の減少は、最大の自然関連リスクとして認識しています。当社は、事業を通じて生物多様性を育み、保護することに貢献すべく、さまざまな対策を行っています。2024年の進捗として、高砂香料グループでは、カルタヘナ法に基づいた、遺伝子組換え実験等安全委員会が発足させました。法令および社内基準への適合性ならびに科学的観点からその安全性について審議し、適正な研究活動を行っていきます。

主な施策	排水・廃棄物の徹底した管理
	地域コミュニティでの自然保護活動の参画
	サプライチェーン上流の統合活動(TaSuKIプログラム)
	森林破壊ゼロへのコミットメント
	認証品の活用(パーム誘導体原料におけるRSPO認証の活用)
	遺伝子資源の適切な利用・カルタヘナ法への対応

## 生物多様性に関する機会

一方、施策を通じて、さまざまな機会を享受すると考えており、事業戦略と統合しています。自然資源への依存と影響を軽減し、消費者の環境への意識・嗜好変化による市場でも売上を拡大するため、低環境負荷製品の開発に注力しています。またRSPO認証をはじめとする認証品の活用も推進します。現在、高砂香料グループでは、RSPOサプライチェーン認証の一つである、Mass Balance認証を取得した工場が世界に4拠点あり、さらに認証取得を推進していく予定です。

## Column

### 高砂香料グループの環境ストewardシップ

#### ①ライフサイクルアセスメントの取り組み

高砂香料グループは、自社製品の環境負荷を認識するツールとして長年ライフサイクルアセスメント(LCA)の取り組みを行ってきました。気候変動が激甚化するなか、カーボンフットプリント(CFP)に焦点を当てたLCAに注力しています。現在は、アロマイングリディエンツ製品のCFP算定を中心に、外部認証の取得を行っています。2024年度までに、製品ポートフォリオのうち、約80%(売上金額ベース)の製品について、その算定プロセスは第三者機関によって認められています。

算定されたCFP値は、顧客への情報提供や当社のGHG排出量に使用されます。また、LCAを通じて得た分析結果は、エネルギー使用量・GHG排出量の削減ターゲットを認識し、適切な削減活動を行うことを促進します。

#### ②大気汚染への取り組み

高砂香料グループは、揮発性化学物質を取り扱っているため、ウォータースクラバー等の設備を導入し、汚染物質、臭気や微粒子を放出前に捕集・除去することで大気環境への環境負荷低減を心掛けています。さらに臭気については、定期的な臭気パトロール等で、周辺環境へ放出していないことを確認しています。当社は今後もNOxやSOxをはじめとして、規制対象の化学物質について、量に関する定期的な分析を行い、環境大気質のモニタリングを経て、適切な軽減措置、プロセス、設備の導入を行っていきます。

# » 気候変動への対応

## TCFD提言に沿った気候変動戦略の策定と情報開示

高砂香料グループは、2019年11月に気候関連財務情報開示タスクフォース(以下「TCFD」)の提言への賛同を表明しました。TCFD提言に沿った形での気候変動戦略の策定と情報開示を拡充し、カーボンニュートラル社会の実現に貢献していきます。



ガバナンス	<p>高砂香料グループは、気候変動ガバナンスの充実を図っています。気候変動をマテリアリティの最重要事項に位置づけており、リスクと機会を含む気候変動課題はコーポレート本部担当執行役員(取締役)が担当し、定期的に取締役会で議論しています。2024年は、取締役会での定期的な評価(年に1度)に加え、GHG排出量削減目標の更新について議論を重ねました。なお、エネルギー・温室効果ガスに関する具体的な諸課題については、EHS組織で掘り下げた議論・対策の検討を行っています。</p>
戦略	<p>高砂香料グループのサステナビリティ・チームは定性的および定量的な気候関連のシナリオ分析を実施し、2030年以降の中長期にわたる時間軸でのリスク・機会の特定を行っています。具体的には、低位(1.9)から高位(8.5)までの複数の代表濃度経路シナリオや、国際エネルギー機関(IEA)をはじめとする国際的機関が作成したさまざまなシナリオです。</p>
<b>-リスクと対策-</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法規制強化や炭素税などの移行リスク</li> <li>・レビューションリスク</li> <li>・災害(豪雨や災害)などの物理的リスク(バリューチェーンを含む)</li> </ul> <p>これらのリスクについては適切な施策を戦略化しています。特に物理的リスクは事業継続に大きな影響を与えるため、全社的な方針と状況に応じた計画で対応しています。当社は、グループ単位だけでなく、拠点や製品ごとのBCP(事業継続計画)を策定、工場インフラを強化することで、影響低減に取り組みます。また、日本で最も新しいフレーバー製品生産工場である高砂香料西日本工場は、設立時から自然災害リスクの回避、交通インフラの確保などBCPを十分に考慮して設立しています。サプライチェーンにおいては、複数購買や川上統合を戦略的に進めることで、レジリエンスを強化しています。</p>	<b>-機会-</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーコストの削減によるエネルギー効率の向上ならびに収益の改善</li> <li>・エネルギー供給のレジリエンス強化</li> <li>・低炭素製品・技術の開発推進によるビジネスチャンスの拡大</li> </ul> <p>特に低炭素製品・技術の開発推進は、グループの研究開発戦略に組み込まれており、さらにグリーンケミストリーを推進しています。</p>
リスク管理	<p>高砂香料グループは、安定した事業活動を継続するために、重要な事業リスクを定期的に洗い出し、影響の回避や軽減を図る対策に努めています。当社では、取締役会が損失につながるリスクを総合的に評価・判断できるよう、リスク管理委員会を設置しており、報告された状況や調査結果を基に事業に伴う経営インパクトの分析・評価と対応策の審議・立案を行っています。気候変動リスクもコーポレートリスクプロセスに統合され、評価されます。当社は、バリューチェーン全体を対象に、移行リスク(法規制リスクや技術リスク、レビューションリスクなど)および慢性・急性物理的リスクについて、時間軸(短期・中期・長期)と事業へのインパクトをもって評価します。</p>
指標と目標	<p>高砂香料グループでは、気候変動問題に対応するため、GHG排出量と削減率をKPIとしてモニタリングし開示しています。また、重要な指標であるGHG排出量は、第三者機関による検証を取り入れています。詳細については、本サステナビリティレポートの環境情報をご参照ください。</p> <p>2024年度は、GHG排出量の削減進捗と社会情勢、気候変動リスクと機会を考慮したうえで、削減目標を更新しました。</p>

# » 温室効果ガス排出量削減目標

2025年、高砂香料グループはGHG削減目標を更新し、1.5°C基準に合致した目標を立案し、SBTイニシアチブからSBTとして承認されました。新しい削減目標は、以下となります。



## 高砂香料グループGHG排出量削減目標

### [短期目標]

- 2030年度までに2019年度比でグループ全体のScope1とScope2の合計を46.2%削減する。
- 上記期間で、グループ全体のScope3を27.5%削減する。

### [長期目標]

2050年までに2019年度比でScope1+2排出量ならびにScope3排出量の90%を削減する。

### [ネットゼロ目標]

2050年度までに2019年度比でグループ全体でネットゼロとする。

## 脱炭素化戦略

SBT目標を達成するため、高砂香料グループは削減量を認識し、削減活動プログラムの策定を行いました。現在、さまざまな施策を推進しており、将来的には炭素クレジットの購入などによるオフセットや炭素除去技術への投資を検討します。

また、製品のLCAにも注力し、自社製品の環境負荷を認識し、インベントリ情報提供ならびに脱炭素戦略に活用しています。2024年は、AI製品のCFP算定ならびに外部認証作業を推進しました。LCAは、当社のScope3算定にも活用しています。

カーボンニュートラル社会にさらに貢献できるよう、脱炭素化戦略を進めます。

## 排出量目標達成に向けた取り組み-Scope1+2-

高砂香料グループでは、エネルギー管理プログラムのもと、エネルギー消費量をモニタリングし、さまざまな施策を通じて、Scope1およびScope2の排出削減を推進しています。

- ボイラー、冷蔵庫、空調システムなど、エネルギー効率を高めるための設備の改修
- 古い照明からLED照明への交換など、エネルギー効率を高めるための建物の改修
- 廃熱回収システムやコーポレーティブ・エネルギー・ソリューション装置の使用促進
- より環境負荷の低い燃料への転換促進(重油からLNGへの転換など)
- 再生可能エネルギーの活用
- 生産効率を考慮したプロセスイノベーション
- エネルギー管理/モニタリングシステムの導入促進
- 設備運転の自動化、運転方法の見直し、生産プロセスの変更によるエネルギー消費量およびGHG排出量の削減
- 設備の適切な保守・点検
- 環境教育に加えエネルギーや気候変動に特化した従業員トレーニング
- 原単位目標の設定と管理

また、日本ではエネルギー管理委員会を設置し、原単位でエネルギー削減目標のもと、施策の推進に加えて拠点間の省エネ点検を実施、グループ全体で更なる改善を図っています。

## 排出量目標達成に向けた取り組み-Scope3-

Scope3については、カテゴリー1(調達活動)の排出量が最も大きいと認識しています。気候変動対策と連動して、サプライヤーエンゲージメント活動を開始しました。

- サプライヤーからのLCA情報収集の拡大
- サプライヤーやステークホルダーとの対話・パートナーシップの推進
- 気候変動への取り組みに基づくサプライヤーの評価・選定

また、物流の効率化や廃棄物削減など、さまざまな施策を通じて、Scope3の削減に努めます。

# » 環境

## エネルギー／大気への排出

高砂香料グループの生産現場やオフィスで使うエネルギーは、ガスと購入電力で賄っています。

各拠点では省エネ・省資源型の設備やプロセスの採用、設備等の運用方法の見直し、LED化の推進、適切な設備の保守・点検を通じ、エネルギー使用量とCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。また海外拠点では太陽光発電設備の設置も進んでいます。今後もエネルギー使用量の削減活動を継続するとともに、再生可能エネルギーの利用やCO<sub>2</sub>排出量の少ない燃料への切り替えを推進していきます。

### 2024年の結果について Scope1、2排出量

2024年も、各拠点による省エネ活動の継続によりエネルギー使用量は製品1トン生産当たり11%減少しました。排出量はSBTiの基準年である2019年と比較して15%減少しました。2024年度は使用する電力の33%を再生可能エネルギー源から調達し(購入した再生可能エネルギークリジット(REC)を含む)、今後もSBTi目標の達成に向けて排出量削減活動を継続していきます。

### サプライチェーン(Scope3)排出量

2024年、当社のScope3の温室効果ガス排出量は二酸化炭素換算で931,398トン(MTCO<sub>2</sub>e)であり、これは3つのScope全体における高砂香料の総排出量の約94%にあたります。

Scope3排出量で最も大きな割合を占めるカテゴリーはカテゴリー1：購入した製品・サービスです。高砂香料グループでは、このカテゴリーに削減戦略の重点を置き、原材料サプライヤー固有のデータを組み込むなど算定方法の改善を推進しています。データについて

- ・原則として、単位未満で四捨五入しています。このため、合計と内訳の計は必ずしも一致しません。
- ・再計算の結果、昨年度の数値に変更が生じております。本報告書では修正後の数値を記載しています。

### 組織内のエネルギー消費量(エネルギー消費量の削減)

	2023	2024	前年度からの変化(%)
組織内の非再生可能エネルギー源からの燃料消費(GJ)			
都市ガス	322,955	340,034	5.3%
LPガス	9,539	5,926	-37.9%
LNG	52,192	60,870	16.6%
天然ガス	29,661	32,952	11.1%
A重油	35,474	36,135	1.9%
軽油	6,508	8,342	28.2%
灯油	179	222	24.0%
ガソリン	9,236	8,643	-6.4%
廃油	56,492	34,404	-39.1%
組織内の再生可能エネルギー源からの燃料消費(GJ)			
バイオエタノール	228	361	58.3%
バイオマス燃焼量	32,910	32,447	-1.4%
非再生可能エネルギー源から購入された電気と蒸気(GJ)			
購入した電力	558,684	503,052	-10.0%
購入した蒸気	44,878	42,727	-4.8%
再生可能エネルギー源からの電力(GJ)			
購入	178,199	236,426	32.7%
自家発電	1,562	3,604	130.8%
エネルギー総使用量	1,338,696	1,346,146	0.6%

### エネルギー原単位

	2023	2024	前年度からの変化(%)
1トン製品生産あたり原単位(GJ)	18.37	16.33	-11.1%

### 温室効果ガス排出量

\*Scope1の計算に含まれるガス: CO<sub>2</sub>、CH<sub>4</sub>、N<sub>2</sub>O、HFCs、SF<sub>6</sub>、NF<sub>3</sub>、または全てのガス

	2023	2024	前年度からの変化(%)
直接および間接的な温室効果ガス排出量(CO <sub>2</sub> e)			
Scope 1*	28,866	30,887	7.0%
Scope 2	30,144	25,913	-14.0%
合計(Scope1+2)	59,009	56,800	-3.7%

### 温室効果ガス排出原単位(Scope1+2)

	2023	2024	前年度からの変化(%)
合計(Scope1+2)	0.81	0.69	-14.6%

## その他の間接的な温室効果ガス排出量(Scope3)

	CO <sub>2</sub> 排出量(MT)	温室効果ガス総排出量に対する比率
Cat 1 購入した製品・サービス	844,989	85.51%
Cat 2 資本財	33,626	3.41%
Cat 3 Scope 1、2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	15,451	1.56%
Cat 4 輸送、配送(上流)	26,207	2.65%
Cat 5 事業から出る廃棄物	3,941	0.40%
Cat 6 出張	540	0.05%
Cat 7 雇用者の通勤	5,841	0.59%
Cat 8 リース資産(上流)	N/A	N/A
Cat 9 輸送、配送(下流)	N/A	N/A
Cat 10 販売した製品の加工	N/A	N/A
Cat 11 販売した製品の使用	N/A	N/A
Cat 12 販売した製品の廃棄	718	0.07%
Cat 13 リース資産(下流)	61	0.01%
Cat 14 フランチャイズ	N/A	N/A
Cat 15 投資	23	0.00%
Scope 3	<b>931,398</b>	<b>94.25%</b>
Scope 1	<b>30,887</b>	<b>3.13%</b>
Scope 2	<b>25,913</b>	<b>2.63%</b>
<b>温室効果ガス総排出量</b>	<b>988,199</b>	-

\*\*対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日

第三者検証証明書はこちら

## 水および排水

高砂香料グループは、事業活動を安定的に継続していくうえで、水は必要不可欠な資源であると認識しています。

現在、国内外の生産拠点では十分な水量と安定した品質の水が確保されていますが、気候などの状況の変化により、利用可能な水量や品質が低下するといったリスクが高まる 것을あらかじめ想定し、製造プロセスにおける水使用の効率化といった生産拠点の水使用量の削減や再利用の可能性などの検討を中心に、水資源の持続可能な利用を推進しています。

2024年度の総取水量は、製品生産量の減少に伴い前年と比べて1.7%減少しました。水ストレスの高い地域に位置する拠点の取水量は、全体の72%で当該地域での水使用量については、前年比6.4%減少しました。

## 水源別の取水量

取水(ML)	2023		2024	
	全地域	水ストレスのある地域	全地域	水ストレスのある地域
第三者				
上水道	619	79	660	88
工業用水	383	0	409	0
地表水	0	0	0	0
地下水	2,036	0	1,919	0
<b>総取水量</b>	<b>3,038</b>	<b>80</b>	<b>2,988</b>	<b>88</b>

高砂香料グループの一部の生産拠点では、生産の目的で許可された量の地下水を取水しています。

## 排水先別の排水量

排水(ML)	2023		2024	
	全地域	水ストレスのある地域	全地域	水ストレスのある地域
地表水				
地表水	2,397		2,246	
地下水	0		0	
第三者	449		496	
<b>総排水量</b>	<b>2,847</b>		<b>2,742</b>	

自然水域への放流を行っている生産拠点については、放流前に生化学処理を行い基準以下まで浄化した水を放流しています。

全ての排水が各事業所の所在地で定められた環境基準および関連する条例等に適合するよう管理体制を整えており、地域環境への影響を最小限に抑える取り組みを継続的に実施しています。

#### 処理レベル別の排水量

排水(ML)	2023		2024	
	全地域	水ストレスのある地域	全地域	水ストレスのある地域
未処理	114		114	
一次処理	37		47	
二次処理	2,696		2,582	
総排水量	2,847		2,742	

#### 水消費

水消費(ML)	2023		2024	
	全地域	水ストレスのある地域	全地域	水ストレスのある地域
総水消費量	192	8	245	10

## Column

### 水リスクへの取り組み

高砂香料グループでは、環境負荷低減に向けた取り組みと並行し、水リスクへの取り組みを進めています。

高砂香料グループでは、直接操業拠点だけでなく、バリューチェーン上流(サプライチェーンなど)ならびにバリューチェーン下流(製品使用時など)もリスク評価範囲としています。特に、生産拠点では、私たちの製品製造工程は水に依存かつ影響を与えるリスクを有しているため、将来の利用可能な水量の評価、将来の水質関連リスクの評価、地元の利害関係者に対する影響の評価、将来の規制変更の可能性の評価を実施いたします。私たちは、グローバルツールとして、WWF(世界自然保護基金)-DEG(ドイツ投資開発会社)の「Water Risk Filter」を使用した水リスク評価を実施しています。

評価の結果を受け、事業が依存している水関連リスクおよび事業に影響を及ぼすと考えられる水関連リスクについて状況を把握し、適切に管理・対処いたしてまいります。具体的には、水の再利用技術や設備導入による循環利用促進、取水・排水の水質調査、地下水の汚染管理、雨水貯留システムの導入などの施策を実施しています。

## 廃棄物

高砂香料グループは、適切に廃棄物を管理するため、以下の指針で施策を推進しています。

- ・サステナビリティ行動計画にて、廃棄物発生量について定量的目標を策定し、削減アクションを推進
- ・ゼロエミッションを目指し、廃棄物発生を抑制
- ・削減活動と共に、再利用およびリサイクルのプログラムを推進
- ・廃棄物を最小化するための製品設計の見直し、研究開発への投資
- ・法規制に従った廃棄物処理
- ・廃棄物管理監査

具体的には、グループ全体で分別の推進による有価物化や製品の設計や生産工程を改善するなど、廃棄物の発生の抑制に努めています。廃棄物として排出する場合は再生利用を優先し埋め立て処分する量を減らすことも取り組んでいます。また、処理業者を適切に管理し、不法投棄などの不適切な廃棄物処理を防止しています。さらに、ISO内部監査や監査部による内部監査を通して、適切な廃棄物管理を徹底しています。

### 廃棄物発生量(処理方法別)

有害廃棄物(MT)	オンライン	オフサイト	合計
リサイクル	0	2,033	2,033
焼却	1,497	168	1,665
埋立	0	26	26
有害廃棄物の総発生量	1,497	2,227	3,723

非有害廃棄物(MT)	オンライン	オフサイト	合計
リサイクル	625	13,925	14,550
脱水	7,255	0	7,255
焼却	1,519	1,801	3,320
埋立	32	307	338
非有害廃棄物の総発生量	9,431	16,033	25,464

当社グループで発生する産業廃棄物のうちの約半分はコーヒーかすや茶かす、果皮など製品の製造の過程で必然的に発生する動植物性残渣です。これらについては発生の抑制が難しかったため、再資源化率99%以上を維持することを目標としています。

2024年度は、グループ全体で発生する廃棄物のうち、1.8%が埋め立て処分されました。

## 環境コンプライアンス

環境関連の法令や規制を確実に遵守することは、高砂香料グループの企業活動の最重要課題と位置づけています。ISO14001の仕組みを活用し、定期的なコンプライアンス評価および内部監査を通じて、継続的な改善とリスクの低減に努めています。

2024年度は当社グループにおいて環境関連法令に関する重大な違反および罰則措置は発生しませんでした。引き続き、全ての拠点においてコンプライアンスの維持・強化に努めてまいります。

## » 労働安全衛生(OHS)

高砂香料グループでは、環境マネジメントシステムであるISO14001の認証取得に加え、労働安全衛生マネジメントシステムであるISO45001の認証取得をグローバルで推進しています。2024年度末時点で、高砂香料グループの国内の全ての生産拠点と研究開発本部および海外生産拠点のうち11カ所がISO45001の認証を取得しています。

今後も、グローバルで統一されたマネジメントシステムによる労働安全衛生への取り組みを推進していきます。

## インシデントレポートルールとインシデント調査

高砂香料グループではEHS関連のインシデント(労働災害を含む)に関する報告ルールを策定しています。この報告ルールに従って、国内外の生産拠点および研究開発拠点で発生するインシデントが適時適切に他の生産拠点に共有されることになっています。

インシデントの原因を調査することは、同種または類似のインシデントを防ぐという点からも非常に重要と考えています。そのため、安全管理部は各生産拠点からインシデントに関する報告を受けた後、インシデントの概要、根本原因、是正対策を確認し、フィードバックとともに、国内外で開催される各種会議において協議しています。各拠点ではこれらの報告およびフィードバック、さらには各種会議における協議結果に基づき、自拠点で同種または類似のインシデントが発生しないように対策を講じています。

## 危険源の特定、労働安全衛生リスクアセスメント

高砂香料グループでは、労働安全衛生リスクアセスメント(以下「OHS RA」)ルールを所在国での法令上の不一致がない限り国内外の生産拠点と研究開発拠点に適用しています。各拠点では、このルールに基づき、職場における事故・労働災害の原因となる危険源を特定し、予見可能なリスクへの予防措置を行っています。安全管理部は、OHS RAをグローバルで強化するために、RAワークショップの開催や労働安全衛生規則の補足手順の構築に取り組んでいます。

## コミュニケーションと現場確認

高砂香料グループでは、国内においては国内EHS会議を年に2回以上開催し、また、海外においてはグローバルEHS会議を年に4回以上開催して、EHSに関する情報の共有化を図っています。

また、安全管理部では、当社グループの国内の生産拠点、研究開発本部および配送センターに対し定期的に安全監査を実施し、各拠点の安全衛生活動・事故労災等の確認を行っています。さらに、国内の生産拠点、研究開発本部および配送センターの安全管理を担当する責任者と本社役員および関係者が参加し、月次の安全協議会を開催し、EHS関連法改正や各拠点での安全監査で確認された課題等の情報共有や労働安全衛生対策についての話し合いを行っています。

また、毎年、海外の複数の生産拠点に対しEHS Inspectionを実施しています。

2018年以降、安全管理部では、以下のとおり、海外の生産拠点に対しEHS Inspectionを実施しました。

(年度)		
2018	アメリカ	拠点を訪問してEHS Inspectionを実施
2019	インド、シンガポール	拠点を訪問してEHS Inspectionを実施
2020	メキシコ	リモートEHS Inspection
2021	—	新型コロナウイルス感染症の拡大により実施できず
2022	アメリカ、メキシコ	拠点を訪問してEHS Inspectionを実施
2023	フランス	リモートEHS Inspection
2024	インドネシア、フランス、ドイツ、スペイン	拠点を訪問してEHS Inspectionを実施

## 労働安全衛生に関する社員教育

労働安全衛生関連法令に関連する各種作業主任者など技能講習や特別教育、職長教育など外部機関で受講する教育、雇い入れ時教育や配置転換者教育など社内教育を実施しています。その他、トップマネジメント層(2024年16名受講)、新入社員を対象とした階層別教育、内部監査員やリスクアセスメントを推進する人材の育成、レベルアップを目的とした集合教育を実施しています。

## 労働災害・疾病データ集計

T-ReCS®を使用して労働災害や疾病に関する情報を含むOHSデータの集計を実施しています。さらに、データをグローバルに集計するためのより効率的なシステムを今後構築する予定です。2024年には、国内で4件、海外生産拠点全体で28件の労働災害(休業災害)が発生しました。度数率は3.47%、強度率は0.10%です。労働災害の主な種類は、“高温・低温の物との接触”と“動作の反動・無理な動作”でした。

## 高砂安全の日 2024

2024年4月10日、「2013年に発生した火災事故を二度と起こさない」と誓い制定した「高砂安全の日」は11回目を迎えました。

11回目となる2024年は、2013年の火災事故の原因とされる「静電気」の除去・抑制等に関する従来のルールを見直し、「高砂香料グループ静電気安全指針」の策定・運用を開始したことに合わせて、『「静電気」～リスクの理解と管理策～』をテーマとしました。高砂香料グループ全体で改めて静電気のリスクを理解し、静電気の除去・抑制等の管理策を見直す機会としました。

各拠点では、コアタイムプログラムとして「社長訓示」「安全統括本部副本部長説示」および「静電気に関する教育動画」の視聴、さらに「『高砂香料グループ静電気安全指針』策定にあたって支援いただいたコンサルタントによる講義」を行いました。その後アースポイントやアース線の点検実施、静電気に関するリスクアセスメントの実施等、それぞれに工夫を凝らした教育・訓練を実施しました。

幸いにして、2013年の火災事故以降、静電気が原因と考える事故は発生していませんが、この機会に改めて静電気災害防止対策にグループ全体で取り組むことで事故防止への意識を高めることができました。



# 社会的責任と共生

- 38 ステークホルダーとの関わり
- 39 従業員の成長と多様性の尊重
  - 人事・総務本部長メッセージ
  - 女性がイキイキと活躍する、働きやすい職場への取り組み
- 47 サプライチェーンマネジメント
- 49 物流
- 50 調達
  - TaSuKI Update
- 59 研究開発
- 62 品質保証
- 66 投資家の皆様との関わり
- 67 地域社会との関わり
- 69 社会的評価とネットワーク



## » ステークホルダーとの関わり

高砂香料グループは、創業100年を超え、更なるサステナブルな未来の実現に向けて、ステークホルダーの皆様との共生に取り組み、企業活動に励んでいきます。



### 顧客

高砂香料グループは、香料業界のリーディングカンパニーとして最先端の研究と開発を続け、革新的で価値ある製品を創り出してきました。今後も、グローバルネットワークを生かし、お客様の期待を超える価値を提供するとともに、お客様のグローバル・ビジネス・パートナーとなることを目指しています。

### 取引先

持続可能な事業の実現には、責任ある調達活動やパートナーとの協働が不可欠です。責任ある調達活動を推進し、上流の取引先やコミュニティへの影響評価のため、定期的な現地訪問、懸念を特定するための現地ステークホルダーとのミーティング、調査やレビューを行います。影響を受ける範囲を定めたあと、取引先やコミュニティと共に戦略を進めます。

### 従業員

従業員一人ひとりが持つ創造力は、新たな価値を生み出す最も重要な原動力です。高砂の優れた技術は、当社のさまざまな部門の個性豊かな社員が一丸となることで生み出されています。高砂香料グループは、積極的に人材育成に取り組み、働きやすく・働きがいのある環境づくりに注力しています。

### 株主・投資家

健全かつ透明性の高い企業経営による持続的な成長を通じて、適切な利益還元に努めるとともに、国内外の株主・投資家の皆様とのコミュニケーションの充実を図ってまいります。中期経営計画NGP-2においては連結配当性向30%以上、最終年度の株主資本配当率2.0%を目標に掲げ、業績を踏まえた配当の実施を方針としています。

### 地域社会

高砂香料グループでは、地域社会との共生を大切にし、全事業所で環境保全活動や地域貢献活動などの地域社会へのエンゲージメント活動に積極的に取り組んでいます。当社は、地域の方々と良好なコミュニケーションを図り、地域社会の発展に寄与しながら、信頼されるパートナーとして共に歩んでいきます。

# » 従業員の成長と多様性の尊重



**執行役員  
人事・総務本部長  
関根 基伸**

高砂香料グループは、従業員一人ひとりがやりがいや幸福感を持つことができる会社を高いレベルで目指していきます。

具体的には、さまざまな人が楽しくやりがいを持って働く環境の整備、個々の成長を支援する体制づくり、そして何より従業員の健康的で健全なワーク・ライフ・バランスを実現するための経営を行っていきます。

当社グループのマネジメントはこれからも従業員満足度の高い会社を目指し、持続的な企業活動を実現して社会に貢献していきます。

- 原則3 結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持し、
- 原則4 あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、
- 原則5 児童労働の実効的な廃止を支持し、
- 原則6 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである

## グローバルでの取り組み

Global HRチームは、コーポレート本部長をチアパーソンとし、主要拠点の人事部長で構成したチームです。グループ共通の人事ポリシーの策定や仕組みの整備、情報共有を行っています。各拠点での業務に加え、グローバルでの役割や業務を担う従業員に対して適切な評価ができる人事評価システムの構築などもその一つです。グローバルに横断的な企業活動を行うために、必要な環境整備を今後も進めていきます。



山形 達哉  
(チアパーソン)



関根 基伸



Alessandra  
Macchia-Aguila  
(アメリカ)



Frédéric  
Gutierrez  
(フランス)



Nora Rahmaoui  
(ドイツ)



Andres Delicado  
(スペイン)



Elaine Tay  
(シンガポール)

## 基本的な考え方

高砂香料グループは、従業員が企業の成長に不可欠な存在であると考えています。

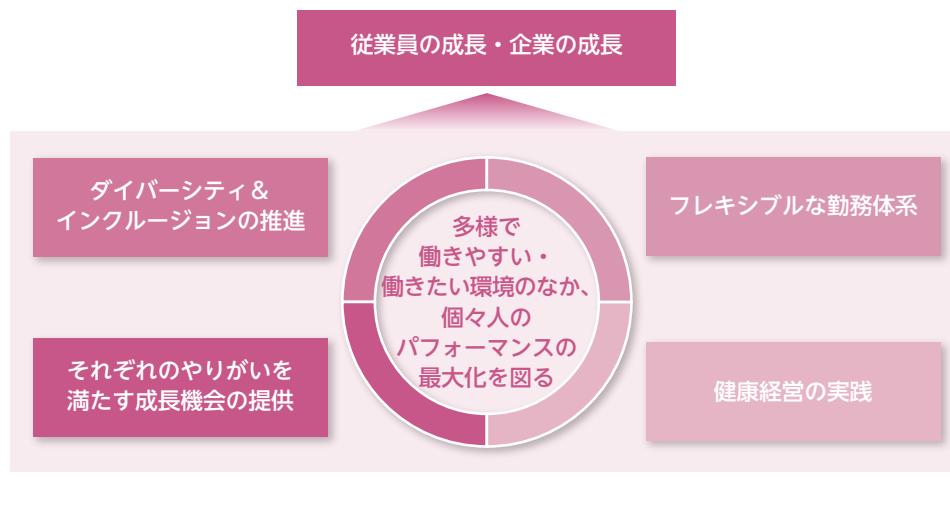
香りを原点とする革新的な技術を通して、新しい価値を創造し続けるグローバル企業として、持続可能な社会の実現を目指し、人権を尊重し関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守するとともに、高い倫理観をもって行動するために以下の原則を定めます。

私たちは、従業員の能力を高め、多様性、人格、個性を尊重する働き方を実現します。また、ひとりひとりの従業員を大切にし、健康と安全に配慮した働きやすい職場環境を整備します。

また、高砂香料グループでは2017年に国連グローバル・コンパクトに署名し、10原則に沿った事業活動を行っています。労働慣行については、以下の4原則に沿って職場環境の改善に取り組んでいます。

## 人的資本の価値最大化への取り組み

高砂香料グループは2020年に創業100周年を迎え、次の100年に続くサステナブルな経営を目指しています。当社グループは、従業員のスキルや知識を重要な資本と考え、多様で働きやすい・働きたい環境を整備しています。従業員の成長を支援し、生産性を向上させることで個々のパフォーマンスを最大化し、企業の更なる発展を目指しています。従業員と企業が共に成長する好循環を生み出すため、次の4つの施策を推進しています。



- 1 ダイバーシティ&インクルージョンの推進: 多様な人材が活躍できる土台づくりのため
- 2 それぞれのやりがいを満たす成長機会の提供: 従業員が働きがいを感じる環境づくりのため
- 3 フレキシブルな勤務体系: 健全なワーク・ライフ・バランス実現のため
- 4 健康経営の実践: 従業員一人ひとりの活力向上のため

### 1 ダイバーシティ&インクルージョンの推進

当社グループは、全ての従業員に公平な機会を提供し、多様な価値観を尊重する職場環境を整備しています。誰もが自分らしさを発揮し、活躍できる環境を整えることで、一人ひとりの能力を最大限に引き出し、新たな価値創造を促進します。当社グループは、2022年にダイバーシティ&インクルージョンポリシーを策定し、各国の状況を反映させて拠点別の3カ年推進計画を策定しています。採用時の取り組みや研修の実施などを通じて、具体的な施策を進めています。ダイバーシティ&インクルージョンの推進は、職場の公平性を高め、差別やハラスメントを防ぐ重要な取り組みです。

ダイバーシティインクルージョンポリシー

当社グループは日本を含む28の国と地域に拠点を持ち、年齢や性別だけでなく、人材の多様性は当社グループにとって最も重要と考える価値の一つです。グループ全体の従業員数は4,000名を超える、従業員と企業が共に成長し合える好循環をより良くしたいと考えています。

事業拠点 (2025年3月末)	従業員数 (名)	男性 (名)	女性 (名)	30歳未満 (名)	30-50歳 (名)	50歳以上 (名)
全拠点合計	4,486	3,157	1,329	764	2,551	1,171
日本	1,743	1,345	398	285	890	568
米州	842	481	361	129	441	272
欧州	823	441	382	105	512	206
アジア(日本を除く)	1,078	890	188	245	708	125

(持分法適用会社における直接雇用従業員を含みます)

各国で働き方に関する考え方や文化はさまざまですが、日本国内でも転職が一般的になります。当社では、従来どおりの新卒採用に加え、積極的にキャリア採用も行っています。2023年の統計\*によると、日本企業全体の平均勤続年数は13.4年、離職率は15.4%、製造業全体では16.3年・8.7%となっています。当社においては、2023年度の勤続年数が17.4年、2024年度17.4年、離職率はそれぞれ2.3%、2.1%でした。化学工業は他の業界と比較して平均勤続年数が15.6年と長い傾向がありますが、当社はそのなかでも従業員が長く勤めることで、一人ひとりの経験や知識が蓄積され、当社グループの持続的な成長につながっていると考えています。

高砂香料グループ全体での2024年度新規採用数は585名、離職者数は377名でした。

\*厚生労働省 令和5年雇用動向調査および賃金構造基本統計調査結果

高砂香料2024年度	人数(名)	男性	女性
新規採用数	48	33	15
一新卒採用	32	21	11
一キャリア採用	16	12	4
離職の総数*	21	16	5
離職率*	2.1%	2.2%	2.0%
平均勤続年数	17.8年	18.3年	16.6年

\*常勤者から特別勤務員(有期雇用)を除いた員数からの割合(男性: 732名 女性: 253名 計: 985名)、※自己都合退職者

高砂香料工業では、基本給において男女間や地域別の不合理な賃金格差はありません。2024年度高砂香料工業の全従業員の総報酬ベースにおける男女間賃金差異は83.8%であり、この差は主に手当などの違いによるものと考えられます。グローバル全体では、男女間賃金差異はおよそ45%から200%以上の範囲であり、拠点ごとにさまざまです。各拠点における職種や雇用形態による違いが影響しているととらえており、性別による不合理な差は確認されていません。

また、高砂香料工業の初任給は、所在地である東京都の最低賃金を上回る水準に設定されています。海外拠点においても、最低賃金を下回る報酬を受けている従業員はおらず、各国の法令を遵守した給与制度を整備しています。

高砂香料 2024年度	初任給月給 (円)	東京都最低賃金 との比較(%)	備考
修士了	244,900	142.3%	本社所在地東京都最低賃金 1,163円 年間労働時間: 1,776時間 最低賃金での想定月給: 1,163円 × 1,776時間 ÷ 12カ月 = 172,124円
大学卒	226,400	131.5%	

\*高砂香料工業内での地域別および男女別の格差はありません。

高砂香料工業では、女性管理職比率が2024年度18%となり目標を達成しました。現在、2027年度末までに20%の目標を掲げ、グローバルでも各拠点で目標を定めています。

また、グローバルに活躍できる人材育成の一環として、日本国内での外国籍の方の採用も積極的に行ってています。2024年度はあらたに2名の外国籍の方が入社、現在では7の国籍の方が当社で働いています。

定年再雇用や障がい者雇用も積極的に行っており、高砂香料工業での定年再雇用制度では過去3年(2022年9月～2025年3月)の再雇用希望率は80%、希望者は100%再雇用を行っています。また、定年前の従業員を対象に「ライフプランセミナー」を開催し、定年後の生活設計の支援を行っています。さらに退職後には、OB・OG会である「高友会」に加入でき、退職後も定期的な懇親の場が設けられています。高砂香料工業の障がい者雇用率は2024年度1.80%となり、能力や適性を最大限に発揮し活躍できる環境と、定着を図る雇用制度を進めています。海外拠点でも各国の法律に沿って、障がい者雇用に取り組んでいます。

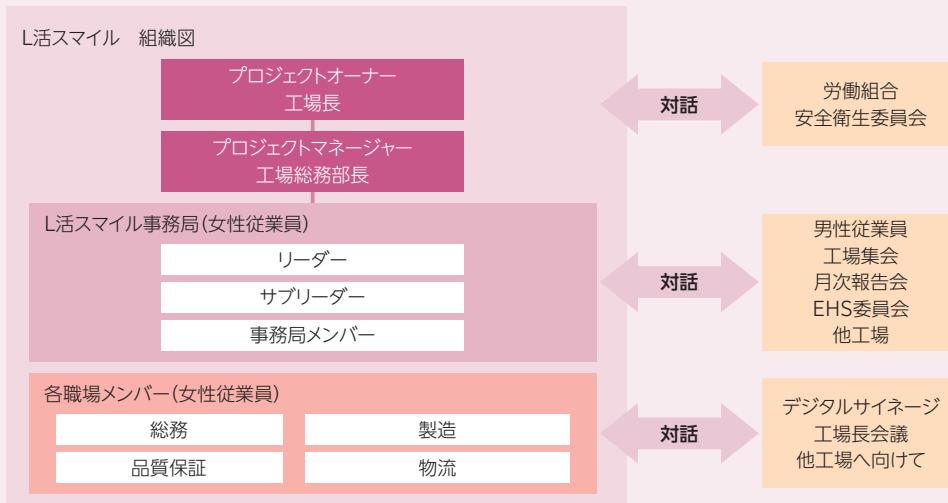
## 女性がイキイキと活躍する、働きやすい職場への取り組み

高砂香料グループでは、工場で勤務する女性が当たり前の存在となるなかで、多様な視点を取り入れた職場環境の改善に取り組んでいます。

誰もが働きやすい環境を整えることは、多様な人材が能力を最大限に発揮できる基盤となり、当社グループの持続可能な成長につながる考えています。

その一環として、特に成果をあげている鹿島工場のL活スマイルの活動を紹介します。

L活スマイルとは、鹿島工場で働く女性が主導し、10年20年後の次世代を見据えた環境づくりを目指している活動です。2021年からはじまり、女性が活躍する工場には何が必要かを工場全体で考えています。



具体的な取り組みや成果として、プレゼン資料や議事録の作成支援、更衣室やトイレなどの環境改善を進めてきました。また、女性の製造現場進出の壁であった「力が必要な作業」についても議論がされ、自動化を実現した工程も出てきました。

女性のライフイベントの変化に合わせた働き方を進めるためには、男性従業員の理解や協力も重要なカギとなってきます。将来ありたい工場像を工場全体で考え、誰もが活躍できる、より働きやすい職場となるよう取り組んでいます。

こうした取り組みや成果は、人事・総務部長をはじめとする取締役にも報告されています。工場の従業員にとどまらず、グループ全体で誰もが働きやすい職場づくりを推進することで、多様な人材が活躍し、サステナブルな経営を実現していきます。

## 鹿島工場 工場長 メッセージ

鹿島工場の印象は、イメージどおりでポジティブなものでしたが、課題に感じることもありました。それは、性別に関わるアンコンシャスバイアスでした。女性だから、男性だからと、無意識に決めつけている常識を変えていくことは、今後も高砂香料が、働く場として選択される企業であり続けるために必要なことであると感じています。



香料製造の現場は危険物の取扱が多く、消防法の制約により手作業や力仕事が多いといった特徴があり、女性が進出するうえで障壁になっていると思います。

鹿島着任以降、毎年継続している従業員との面談では、仕事の話はもちろん重要ですが、他愛もない話で盛り上がることを大事にしています。ある女性との面談で興味深い話がでした。本音を言うとプレゼンや議事録のスキルを向上させたい気持ちはある。しかし、負担の大きいプロジェクトには選ばれないと感じているが、それは女性への配慮だと思うというものがでした。

伝統的な男性幹部の優しさとみることも可能ですが、変えなくてはならないと感じました。L活スマイルの活動では、議事録やプレゼンスキルを磨く格好の場を提供し、今では全従業

員が見守る集会やカイゼン発表会といった大きなイベントでも女性の発表が目立って増えてきました。

また、ある面談では、製品容器のキャップを締めるトルク値が大きすぎて、その作業を終えたあとでは、夕食調理の際、包丁に力が入らなくて大変なんです、という話をしてくれました。この話は、業界初の自動キャッパーの開発につながりました。男性幹部は、力のいる作業は男性に任せればよいと考えがちですが、自動化という課題を設定することで腕力を不要とすることに成功した好事例になりました。この成功は、男性社員にも歓迎されました。女性にとっての壁は、男性にとっても同様に負担だったのです。

私自身の教訓となったアンコンシャスバイアスをご紹介します。不満の声が聞こえてこないなら問題はないだろうという考え方です。女性からの提言には、更衣室、トイレ、ランチ、作業着に関する課題が含まれていました。それらの多くは、提言を受けて初めて課題とし認識したものだったのです。L活スマイルの活動は、工場の従業員一人一人の考え方を変えるパワーを持っていると感じています。信頼し力を合わせることで高砂香料グループの未来に貢献したいと考えています。

しいと感じる成果も始めました。そこからは女性従業員からの信頼も得られた感じることができました。最近では、女性従業員のキャリアについての議論を開始するための準備としてアンケートを実施しました。女性特有のライフイベントを想定した工場の将来像を議論することで、今働く女性から将来入社する女性までイキイキと笑顔で働く素敵な工場づくりに貢献したいと願っています。



L活リーダーの鍋元さんとメンバーの皆さん

## L活スマイル事務局メッセージ

L活スマイルの活動を立ち上げたことで、うれしい変化がありました。一言ではとても言い表せないのですが、最も大きい感じるのは、仲間である「女性の意識に変化」があったことです。活動立ち上げ当初、女性の率直な思いを聞くために会議やアンケートを実施しました。その際聞かれた感想には、「特に不満があるわけでもないのに何がしたいのか」、「現実は変わらないのではないか」といったネガティブな意見が目立ちました。事務局メンバーも自信があつたわけではありませんので不安が募ったことを思い出します。ひたすら作戦会議が続きました。迷ったときは、女性全体会議を開き意見交換をしましたし、遠慮なく納得いくまで工場長に相談することもありました。その結果、原風景化し疑問に思わなくなっている可能性がある前提であらゆることを対象とする方針を打ち出しました。その前提で現状とありたい姿を比較してみると、問題ないと考えていた作業着や更衣室、トイレや生理など理想の姿とのギャップがみえてきたのです。身近な課題を認識できたことで、幹部との議論も一気に進み、女性がうれ

## 2 それぞれのやりがいを満たす成長機会の提供

高砂香料グループは、従業員が企業の成功に欠かせない存在であると認識しています。そのため、従業員が自身の能力を最大限に発揮し、成長できる環境を整備しています。当社グループでは、キャリアアップへの意欲を支援する仕組みを整え、OJTや社外研修などのスキルアップの機会を提供しています。これにより、従業員が新たな挑戦に自信を持って取り組み、成長を続けられるよう支援しています。

当社グループでは各拠点でさまざまな研修を行っています。各拠点でe-ラーニングや対面での研修を行い、情報システムに関しては全拠点で統一したe-ラーニング研修を行っています。

### ■ 高砂香料工業の教育の紹介

- ・**高砂カレッジ(2009年開講):**高砂香料グループの人材育成を目的とした研修制度。
- ・**基礎コース:**業務理解を深め、業務遂行能力や発信力の強化を図る。
- ・**専門コース:**論理的思考や発想力を養い、「高砂らしさ」を発揮する力を育成。
- ・**通信教育講座:**自己啓発や能力開発を支援。語学・マネジメント・資格取得などの講座を受講可能。修了時には受講料の70~100%を補助。

従業員一人当たり研修時間*	3.61時間
従業員一人当たり研修費用*	13,930円
通信教育講座 受講人数と率	244人 24.0%

\*人事総務部による研修のみを集計。

### ■ 自己申告制度

また、高砂香料工業では、従業員が自身の業務や家庭の状況を会社に伝える自己申告制度を設けています。この制度は、新たに挑戦したい業務、現状の問題点など上司を介さず直接人事総務部長宛てに申告を行います。申告は任意ですが、約90%の従業員が提出しています。上司による業績やキャリア開発に関する定期的なレビューも行っています。

### ■ グローバルの研修等の紹介: 海外拠点でも従業員の研修を重要視しています。

スペインのTakasago International Chemicals (Europe), S.A.(TICSA) では、毎年「TICSA Training Week」を開催しています。2024年は主に環境・衛生・安全(EHS)に特化したもので、全従業員が継続的な学びと改善に取り組む貴重な機会となりました。期間中は職場の安全、環境保全、健康増進の重要性をテーマに、実践的なワークショップから理論的なセミナーまで多様なトレーニングが行われました。

今回のTraining Weekでは、合計40の研修が行われ、1,700時間以上の研修が実施されました。「高砂安全の日」や「ハラスメント防止研修」なども含まれ、全ての従業員が少なくとも1つ以上研修を受講しました。

また、品証管理および研究開発部門の一部の従業員は、Takasago Europe Perfumery Laboratory S.A.R.L. (TEPL) で嗅覚研修も受講し、Training Weekに更なる価値を加えました。さらに、緊急対応チームのリーダーおよびメンバーも、実践的な訓練やシミュレーションを通じて有事対応力を高めました。

Training Weekは技術的な研修にとどまらず、チームワークの促進や社内の人間関係の強化を目的としたプログラムとしても構成されています。職務に関係なく全ての従業員が協力し、意見を交わしながら取り組めるように、各研修を工夫して実施しました。

Training Week最終日には、全従業員を対象としたパエリアランチが提供され、学びの締めくくりとして、くつろいだ雰囲気のなかで交流を深める機会となりました。こうした研修と交流の組み合わせは、安全・健康・福祉への企業としての姿勢を象徴するものであり、組織としての一体感と強固な企業文化の醸成にもつながっています。



### 3 フレキシブルな勤務体系

当社グループは、仕事と生活の調和を大切にし、従業員が柔軟に働ける環境を整備しています。働きやすい職場は、生産性の向上と従業員の働きがい向上につながり、当社グループ全体の成長を促進すると考えています。

#### ■ 高砂香料工業の制度の紹介

##### 育児支援：育児短時間勤務、育児時間、子の看護等休暇など

- 当社の育児休業の取得については下記のとおりとなっています。

	2024年度 育児休業取得者 (名)	育児休業 取得権利保持者 (名)	割合 (%)
男性	24	28	85%
女性	7	7	100%
合計	31	35	88%

##### 介護支援：介護休業制度、介護短時間勤務、介護休暇

- 高砂香料工業は、仕事と介護の両立を支援する企業として、厚生労働省が定める「トモニン」を取得しました。



##### 休暇制度：年次有給休暇(1時間単位)、リフレッシュ休暇、ボランティア休暇など

##### 時差勤務・在宅勤務：一部の事業所で導入

各拠点でも、育児休業制度をはじめ、在宅勤務の実施などを行い、法令に従いながら、ワーク・ライフ・バランスを整え、より良い持続可能な働き方ができるよう制度を運用しています。

Voice

高砂香料工業株式会社

生産管理部

長谷川和康



所属部署では男性育休取得者の前例がありませんでしたが、前もって上長に相談していましたこともあり、人員の補強も含め、育休はスムーズに取得することができました。

初めての育児は大変でしたが、常に家族と一緒に過ごす時間はかけがえがなく、非常に充実した経験でした。

また、業務から離れることで、家庭や仕事、自分の人生について深く考える、貴重な機会を得ることができました。

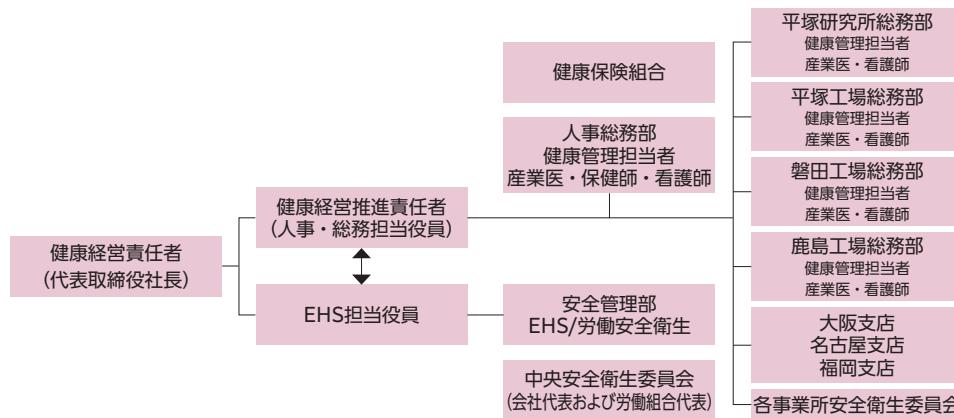
復職も滞りなく進み、休職前と同じ業務に従事しながら家庭の事情に合わせて柔軟に業務調整、有休を取ることができます。

家族と職場の方々、それぞれの理解のおかげで、家庭と仕事の両立ができます。

## 4 健康経営の実践

当社グループでは、従業員の心身の健康を支えることが、企業の持続的な成長につながると考えています。多様性を尊重し、一人ひとりが能力を発揮し成長できるよう、健康と安全に配慮した職場環境づくりを推進しています。健康経営の一環として、定期健康診断やメンタルヘルス対策などに取り組んでいます。従業員が安心して働く環境を整え、企業全体の活力向上を図ります。以下は日本の詳細な取り組みですが、各拠点でも1年に1回の定期健康診断や、年齢に応じた検査やトレーニングを行っています。

### ■ 健康経営推進組織



### ■ 高砂香料工業の取り組みの紹介

- 健康診断・人間ドックの実施：全従業員対象に1年に1回受診。  
2024年度 定期健康診断受診率：100%
- 労働時間管理・長時間労働対策：月間の法定外労働時間を超えた場合、産業医が面談。  
2024年度 平均残業時間：9.4時間
- ストレスチェック：2024年度ストレスチェック受検率：92.1%
- 社内交流・アクティビティの推進
- 外部認定：高砂香料工業は健康経営優良法人2025(大規模法人部門)に4年連続で認定。

### ■ 海外拠点の取り組みの紹介

- 年に1回の健康診断や心理社会的リスクの評価
- 一定の年齢以上の従業員へのPSA値検査

### 福利厚生

高砂香料グループでは、従業員が安心して働き、能力を発揮できる環境を支える基盤として、各拠点で福利厚生制度を整備しています。社会保険制度や、従業員持株制度、財形貯蓄制度、カフェテリアプラン、家賃補助制度など、多様な支援を提供しています。また、当社では雇用形態を問わず、公平な労働環境の整備を重視しています。高砂香料工業では、非正規従業員についても、契約内容に応じて福利手当、健保手当、介護手当などを正社員と同条件で支給するほか、所属拠点で運用されている時差出勤や在宅勤務などの勤務制度も利用可能です。

### 労使関係

当社グループは、結社の自由および団体交渉の権利を尊重しており、ユニオンシップ制で組織されている高砂香料工業労働組合と企業活動全般に関する課題解決に向けた話し合いを積極的に行ってています。高砂香料工業では、管理職を含む総従業員のうち、労働組合の組合員(労使間の労働協約が締結される従業員)の比率は48%です。なお、各事業所では労務協働の安全衛生委員会を開催しており、その対象範囲は全ての従業員(100%)となります。

また、当社グループの海外拠点でも労使による話し合いを行っています。Takasago Europe G.m.b.H. (TEG)では、従業員によって9名が企業内の労働者代表機関として選出されています。任期は4年で、1名は専従者、8名はTEGでの業務に加えて、労働者代表機関の職務を行っています。労働者代表機関には、さまざまな権利があり、労働時間や男女平等の促進、障がいのある方の社会的包摂(インクルージョン)の推進、外国人従業員の働く環境などについて重要な発言権を持っています。

## Voice

高砂香料工業株式会社  
高砂香料労働組合  
(2024年度)

労使の話し合いを通じて制度や処遇の改善を行い、従業員が働きやすい職場づくりや従業員の生活水準向上を進めています。経営陣と従業員が経営状況を踏まえて議論を行う労使協議会や、労働安全について議論をする中央安全衛生委員会、福利厚生について話し合う中央福利厚生委員会など、適切な事業運営を確実にするため、労使双方がさまざまな課題を検討する場を設けています。今期は春闘において、ここ数年の物価上昇に伴ったベースアップ要求を実施、一定程度満足のいく回答を経営陣からいただきました。また近年増加している外国籍従業員にとっても、より働きやすい環境となる様、フォローを強化しました。

## » サプライチェーンマネジメント



取締役常務執行役員  
サプライチェーンマネジメント本部長  
水野 直樹

2024年度からSustainability2030のPhase2が始まりました。SCM5.0時代が求めるレジリエンス(強靭性)の獲得、サステナビリティの実現を目的に、サプライチェーンネットワークの可視化、再評価、再デザインを通じて、迅速かつ変幻自在に対応可能な体制の再構築を行うなど、新たな能力獲得や基盤整備に注力しています。2025年度も引き続き、営業、研究、調達、購買、生産、物流の国内サプライチェーンおよびエンジニアリングチェーンの強化に取り組み、さらに海外も一体となった高砂グローバルネットワークの体制を強化してまいります。また、お客様やお取引先様との新たな関係性の構築や互恵的連携を強化することで、高砂香料ならではの新時代に相応しい、動的でサステナブルなサプライチェーンマネジメントを実行いたします。高砂香料グループ全体の国内外サプライチェーンが活性化し、最適化することが全てのステークホルダーからの信頼や、高砂香料グループの持続的成長や飛躍的な発展につながっていくものと考えています。

## ■ サプライチェーンマネジメント本部発足

2024年、生産本部とサプライチェーン本部を統合し、さらに調達本部から一部原料の発注管理や購買管理の機能を移管した、「サプライチェーンマネジメント本部」を立ち上げました。本社主導により、国内と海外拠点のサプライチェーン領域を一元管理し、NGP-2としてKSF(重要成功要因)として設定している「国内および海外のサプライチェーンの最適化」「人的資本の価値最大化」に向けたカイゼン(継続的な改善)を進めていく体制を構築し、取り組みを一層強化します。

## サプライチェーンの強化

各事業本部や各関連部署との連携や協議をますます進め、相互理解のうえで最適化を図るため、横軸連携の強化を行っています。国内では「工場長会議」を通じて会社方針の伝達、生産状況の把握、新規技術、既存技術、知識、課題の共有、関連部署の状況把握、コミュニケーション強化による人材育成の場としています。海外サプライチェーン部門では「GSCM委員会」を通じて横軸連携を強化し、相互理解を深めています。

また高砂香料グループでは、グローバル機能領域において一貫した目的を持って生産活動やサステナビリティ活動を実施できるよう、「コーポレート生産ポリシー」を策定しています。「TAKASAGOSTANDARD」を製造現場に展開して作業標準書の標準化を推進しています。各拠点の特徴を生かすとともに、グローバルな活動において当社グループとして統一感のある生産活動を推進することで、世界中のお客様に信頼していただける製品提供体制の構築を目指しています。

### コーポレート生産ポリシー

私たちは生産活動において以下のことを実践します。

- ・安全・安心・安定した生産体制を堅持し、お客様のニーズに応える製品づくりに努め、供給責任を果たします。
- ・製造技術の向上と製造管理の徹底による高効率な生産活動を常に追求します。
- ・法令遵守を徹底し、人権の尊重、環境保全に配慮した生産活動を推進します。

## グローバル基幹システムへの対応

グローバル基幹システムへの積極的な参画を行っています。すでに参入したシンガポール、アメリカ、および2025年導入予定のフランスの生産拠点との連携および支援を行っています。同時に国内導入を見据えた活動として、各工場を訪問して意見交換を実施し、課題を共有しています。サプライチェーンマネジメント本部へ機構変更したことにより、組織的にも整理統合された体制となりました。将来的には基幹システムでグローバルでも業務プロセスが統合されるため、ベストプラクティスの構築を目指します。

## 小集団活動の推進

5S・カイゼン活動やゼロ災推進活動といった小集団活動を2024年に引き続き推進しています。年齢や非正規社員を問わず、工場に所属する各個人の意見が活動基盤となる取り組みを行い、課題や意見を交換することで相乗効果を高めています。TA-KAIZEN Programを2024年に引き続き実施し、グローバル生産拠点と5S・カイゼン活動を通じて連携することにより、生産効率向上に関するノウハウの共有や人材交流・人材育成を推進していきます。

## 設備投資

高砂香料グループでは、資本コストを踏まえた資本政策のもと、製造に関連する設備投資施策を実行しています。成長投資を進めることで、売上高と営業キャッシュフローの拡大を図ります。

### 成長投資(製造)

成長投資の一環として、磐田工場では約80億円の投資を行い、ファインケミカル事業の医薬品中間体製造設備を2025年に完成させる予定です。この投資は海外、特に米国大手製薬メーカーからの旺盛な需要に対応することを目的とし、作業員の安全や負荷低減および、エネルギー・水の使用量の削減といった環境に配慮した持続可能な製造工場となる予定です。

また、DX関連への投資も積極的に実施していく予定です。製造現場のDXを通じて、業務システムや業務プロセスの再構築を進め、生産性や生産効率の向上、人材不足や技術継承への不安解消を実現させ、進化し続ける製造現場を目指します。



### 更新投資(製造)

既存設備においても、各生産拠点は立案した設備計画のもと、生産性、品質や経済性はもちろんのこと、安全性や環境負荷を意識したうえで、予防保全を強化し設備更新を着実に実行しています。生産設備の効率的な更新を維持することでレジリエントなサプライチェーンを構築していきます。

# » 物流

高砂香料グループでは、物流の指針として、持続可能な社会の実現を掲げる企業憲章の行動規範に則り、「コーポレート物流ポリシー」を定めています。

## コーポレート物流ポリシー

- ・安全・安心・安定した製品の輸送および保管体制を堅持し、お客様に対する供給責任を果たします。
- ・物流システムの改善による効率的な物流を常に追求します。
- ・法令遵守を徹底するとともに、人権を尊重し、地球環境にやさしい物流活動を推進します。

## 物流パートナーと連携した業務改善

原油価格の高騰やトラック運転者の時間外労働上限規制など、物流領域を取り巻く環境は厳しさを増しています。このような課題に対して、荷主と物流事業者が協力して生産性向上に取り組むことが、安定した物流を確保するために不可欠です。

物流パートナーとの面談や施設訪問を行い、現場のオペレーションにおける課題について定期的に意見交換し、そのような機会を通じて、自社で実施することができる事項について改善に取り組んでいます。平塚配送センターでは、出荷準備作業の前倒しによりドライバーの待機時間を削減しています。また、出荷データをEDIシステムにより提供することで、送り状作成の負担軽減を図るとともに、配送状況の追跡を可能にしています。

## 輸配送の効率化による環境負荷低減

輸配送の効率化による環境負荷の低減に努めています。複数の生産工場から製品を積み込み、倉庫へまとめ輸送を行うトラックについては、集荷日の調整や積載効率の改善により車両数の削減に努めています。配送先による出荷拠点の見直しなど、長距離輸送の削減にも取り組んでいます。

## 廃棄物の管理とリサイクル

廃棄物処理については、運搬・処理の流れをデータで追跡、管理する電子マニフェストシステムを活用して、法令遵守の徹底を図っています。また、適正な廃棄物処理を確保するため、都道府県から認定された優良事業者と委託契約を締結し、定期的に処理施設を訪問して、現地で処理状況を確認しています。

食品廃棄物の一部については、食品廃棄物に含まれる有機物からバイオガスを発生させるメタン発酵技術で処理されており、電力として再利用されています。

## リサイクル・再生可能な原材料とパッケージ

高砂香料グループでは、2024年に使用した原材料のうち、再生可能なものの割合は42.0%(2023年は45.1%、2022年は50.0%、2021年は45.4%)<sup>\*</sup>でした。当社グループでは、再生可能資源由来で、付加価値の高い素材を開発してきました。当社は、廃棄物の削減と天然資源保護のため、バイオベースの素材や原材料のアップサイクリングの活用を推進していきます。今後、リサイクル・再生可能な原材料とパッケージの使用率は上昇するでしょう。

当社グループでは、安全規制の関係上、製品に触れる容器には再生材を使用していません。このため、リサイクルパレットを使用しているのは一部の保管場所のみとなっています。段ボール包装やスチールドラムには再生材(古紙やスチール材)を使用しています。また、中間バルクコンテナIBC(Intermediate Bulk Containers)、スチールドラム、パレットについても安全上のリスクが見込まれない限り、再利用を進めています。

\*再生可能な原材料：再生可能な資源とは、生物学的再生産、自然循環プロセス、その他の積極的な作用により、人間の消費量を超える量の自己補充が可能な天然資源のことです。GRIスタンダード日本版のガイドラインに基づき、再生可能な原材料の使用比率を算出しました。

# » 調達



執行役員 調達本部長  
八木 健次

天然精油からアロマケミカルや溶剤に至る、多種多様な原材料を必要とする香料産業において、調達業務は、人権や環境などのサステナビリティ課題への取り組みと本質的に関連します。

調達本部では、原材料の安定確保に向けた持続性を追求するべく、時に、両立が難しいと思われる「品質・コストの最適化」と「責任ある調達」に関する取り組みの融合を目指し活動しています。「サステナブルな経営」の観点でも、中長期のビジョンを共有できるパートナーとの関係性の構築が、カギになると考えています。そのためには、現地訪問・監査なども行って、品質、技術、エシカルの観点からも、幅広く情報を得るように努めます。また、高砂香料グループが調達している原材料の生産地は、世界各地に及んでいます。それぞれのサプライチェーンの課題を踏まえて、トレーサビリティを高め、サプライヤーエンゲージメントを進められるように、グローバル調達の体制を整えてまいります。

重な動物由来の香料への代替品にもなり得ます。これらの高品質な原材料を適切な価格で世界各地の拠点にタイムリーに供給するために、グローバル調達チームは世界的なネットワークを通じてコミュニケーションを図り、調達活動を強化しています。

2017年6月、当社は国連グローバル・コンパクト(UNGCR)に署名し、人権、労働、環境、腐敗防止の分野で国連グローバル・コンパクトの10原則に沿った取り組みを継続しています。また、各国の法令遵守、人権の尊重、環境保全、公正な事業慣行、地域社会への関与と発展にも重点を置きながら、持続可能な調達の実現に可能な限り努めています。

世界中の取引先様と公正で信頼できる関係を築き、責任ある調達を実現するために、「コーポレート調達ポリシー」「コーポレート調達ガイドライン」「高砂香料グループ サプライヤー行動規範」「高砂香料 責任ある調達ポリシー」を定めています。

## ■ コーポレート調達ポリシー

高砂香料グループは、持続可能な経済成長と社会問題の解決のために、原材料の調達だけでなく、事業に必要なあらゆる物やサービスの調達において、「責任ある調達」を実現していきます。その責任ある調達の基準を「コーポレート調達ポリシー」に記しております。

<https://www.takasago.com/ja/sustainability/visitor/procurement.html>に全文が記載されています。

## ■ 調達ガイドライン

「コーポレート調達ガイドライン」は、「コーポレート調達ポリシー」を実際の行動に当てはめたものです。調達担当者が遵守すべき本ガイドラインは、責任ある調達の概念に合わせてコンプライアンス、公正取引、腐敗防止、人権、環境保護などの基本的な主題が含まれています。持続可能性の重要性の高まりなど、変化する世界的トレンドに合わせるために、定期的に本ガイドラインを見直し、更新しています。その実施を確実にするために、グローバル調達トレーニングには、「コーポレート調達ガイドライン」やその他の基本的なポリシーに関するセッションが含まれています。

## ■ 責任ある調達

高砂香料グループは、事業活動において持続可能性が重要と考えています。各事業で用いる原材料は、お客様および社会の期待とニーズに応えるとともに、持続可能な方法によって調達されることが必要不可欠です。当社グループは、世界中の1,000社以上のサプライヤーから調達した約12,000種類の原材料を製品製造に使用しています。これらの原材料のうち約4,000種類は、果実、野菜、樹木、根、葉、花などの天然素材に由来する天然原料です。その他の約8,000種類は高度な化学技術により得られる合成香料であり、天然ガスやナフサから得られるものや、天然素材(松など)から得られるものもあります。合成香料は自然には存在しないユニークな香気プロファイルを提供するだけでなく、ムスクやアンバーグリスのような貴

## サプライヤー行動規範／責任ある調達ポリシー

高砂香料グループは社会から高いレベルの信頼を維持できるよう、環境的・社会的責任を重視するお取引先様を尊重し、優先しています。我々の取り組みと価値観へのご理解をいただくために、「コーポレート調達ポリシー」および「高砂香料グループ サプライヤー行動規範」を定期的にお取引先様に共有しています。「高砂香料 責任ある調達ポリシー」は、ECOCERT Expert Consultingにより、ISO26000およびSMETA\*(Sedexメンバーの倫理的監査)の原則といった、グローバルスタンダードに準拠していることが確認および承認されています。当社グループは、責任ある調達ポリシーの同意書の受領と「高砂香料 責任ある調達ポリシー」の自己評価質問書(TRSP SAQ)の実施により、お取引先様にポリシーへのご理解とご協力を積極的に進めています。お取引先様との関係をさらに深めるため、TRSP SAQやSedex SAQへの回答に対するフィードバックを送り、サプライチェーンの更なる改善に努めています。

\*SMETA: 社会・環境に関するベストプラクティスを集約し作られたSedexによる社会監査基準。

## 調達活動推進体制

高砂香料グループでは、まず「企業理念」ならびにVision 2040に即して「コーポレート調達ポリシー」を定め、調達活動に関する基本的な考え方や方針を明確にしています。そのうえで、日々の業務がこの「コーポレート調達ポリシー」に沿って適切に遂行されるように「コーポレート調達ガイドライン」を整備しています。さらに、調達活動を人権、労働、安全衛生や環境にも配慮して持続可能に推進すべく、ISO 26000やSMETAに準拠し、またSDGsへの貢献も意識して、



「高砂香料 責任ある調達ポリシー」を制定しました。これらのポリシー類は、サステナビリティ推進会議、事業部門、その他関連部門、および海外関連会社とのコミュニケーションにより、周知徹底されています。

「チームワーク(和)」は、テクノロジー(技術)やトラスト(信頼)とならんで、当社が大切にする価値観の一つです。特に、多種多様の原材料を調達するに当たって「チームワーク(和)」は重要です。当社ではグローバルに展開する12の生産拠点の調達担当者を構成員とするグローバル調達チームを組織して、「コーポレート調達ポリシー」にうたう考え方を共有しつつ、調達活動の最適化を目指してチームで協力しています。本社での年次会議、各種定例会、地域単位の連携、原料カテゴリー別の課題に対する取り組みなどを進めています。今後も、原材料の安定確保に向けた持続性を追求するべく、時に、両立が難しいと思われる「品質・コストの最適化」と「責任ある調達」に関する取り組みの融合を目指し活動していきます。

## これからの調達の役割

高砂香料グループのグローバル調達組織は、世界各地の生産拠点を効率的に運営するためには、安心・安全・適正な価格を確保しつつ、良質な原材料をタイムリーに供給することを使命としています。この使命を達成するためには、原材料の調達に限らず、その他のサービスについても、公正で信頼できるビジネスパートナーシップを構築し、長期的に維持することが重要です。

地球環境の尊重などの価値観を、購入品のサプライチェーンの上流にいる全てのステークホルダーを含むパートナーと共有して、信頼される企業であるべきだと考えています。昨今、資源の枯渇や地球温暖化などの環境問題から、労働災害や人権問題などの社会問題まで、私たちが抱える地球規模の課題は増加し、深刻化しています。当社は、透明性の高い取引によるパートナーとの強固な相互関係のもと、「責任ある調達」と「品質・コストの最適化」に関する取り組みを融合させ、持続可能な調達が行われるよう、レジリエントな原材料調達を追求していきます。

未来の明るい社会に向けて、全てのステークホルダーと「共存、共栄、共生」を目指し、「共感、共鳴、共働」を実現することで、新たな価値を創造するサプライチェーンモデルを構築していきます。

## 国際調達トレーニング

2020年から、オンライントレーニングプログラム「Procurement Academy」を通じて調達スタッフのトレーニングを提供しています。プログラムは、ポリシー、ガイドライン、ITリテラシー、サステナビリティ、原材料やパッケージの知識、調達テクニックなど、基礎的なものから応用的なものまでがカバーされています。「Procurement Academy」では、調達に関する貴重な知識を共有し、グループ間のネットワーキングやチームビルディングを図るとともに、グローバル調達スタッフの能力を高めることを目的としています。

2024年には、より深い相互理解のために対面式のトレーニングを再開しました。参加者は、調達メンバーだけでなく、工場、研究、事業部などのメンバーと対話し、日々の業務やコミュニケーションに役立つ多くの学びを得ました。

### Voice

José Antonio  
Ramírez  
Takasago De Mexico  
S.A. De C.V.



本社トレーニングに参加できたことは素晴らしい経験でした。調達部のチームメンバーと時間を過ごすことができ、そして他部署の皆様と話す機会が得られました。皆様のニーズや要望、例えば「このトピックについて誰に確認すればよいか」といった簡単なことを相談することができました。

この1週間の間は、高砂香料グループとして携わっているプロジェクト、または目的達成のための取り組み、例えば現地サプライヤーとの話し合いのサポート、シナジーを生み出すための調達プロセスの共通点や相違点、現在の調達プロセスの充実化などについて協議することができました。

そのうえ、TRMDBのようなツールを使う機会を得たことで、SAPというツール一つだけを持つことではなく、TRMDBを使って全ての原材料情報、数量、価格、サプライヤーなどを確認することができ、日々の業務に役立っています。これが、本社オフィスでの素晴らしい1週間の経験の一部です。

本社や工場現場を訪問し、調達メンバーと一緒に時間を過ごし、社内では世界中の調達チームが利用できる全てのツールや知識を得ることもでき、ランチタイムにも素晴らしいひとときを過ごすことができました。本当にありがとうございました。

Polina Bespiatov  
Takasago Europe  
GmbH (Germany)



### 日本での研修の経験と持続可能な調達への効果

本社での研修はグローバルな協力関係を強化し、持続可能な調達戦略をさらに発展させるための貴重な機会となりました。

海外のチームメンバーと直接交流することで、会社全体の拠点の調達戦略をより深く理解し、資源節約と効率向上のためのベストプラクティスを学ぶことができました。

これによって、2025年初めに戦略的購買のサステナビリティ担当を引き受け、高砂のサステナビリティ目標の実行をサポートする動機にもなりました。

特に、持続可能な原材料を扱うことは貴重な経験でした。これにより、サプライチェーンにおける透明性を向上させ、排出量を削減し、将来的に持続可能な原材料を特定して使用することが可能になると思います。

このトレーニングは私の戦略的調達に関する専門知識を広げ、長期的に持続可能で経済的に成功する調達プロセスを設計するためにはグローバルな協力が不可欠だということがよく理解できました。

Riyaz Ahmed  
Takasago International  
(India) Pvt. Ltd.



初めに、グローバル調達トレーニングを企画していただき、本当にありがとうございました。トレーニングに参加できたことは素晴らしい経験になり、調達部の皆様との交流を心から楽しむことができました。また、他拠点のチームメンバーと関わり、現在のプロセスやニーズなどについて理解を深める良い機会になりました。

この1週間を通して、組織構造、拠点の調達プロセス、TRMDB、Coupa、フレーバー原料ハーモナイゼーション、Mintec、サステナビリティ・イニシアチブなどさまざまなテーマについて話し合い、工場を訪問して現地の文化に触れる機会もありました。トレーニングでは、TRMDBから原材料、数量、価格、サプライヤーに関する貴重な情報を入手することができ、日々の業務に役立つことができました。

このような機会をえていただき、本当にありがとうございました。

※TRMDB : Takasago Raw Material Data Base(グローバル高砂原材料情報分析ツール)  
※Coupa : サプライヤー向け入札およびアンケート用システム  
※Mintec : グローバルコモディティ価格データ、価格予測、マーケット情報を提供しているサービス

## 第三者との連携

高砂香料グループは、責任ある調達への取り組みをさらに推進するため、持続可能かつ倫理的な調達を推進する外部イニシアチブに加盟しています。

2016年初めに、労働環境、安全衛生、環境管理、倫理的なビジネス慣行の分野でサプライヤーの評価を促進するSupplier Ethical Data Exchange(Sedex)<sup>1</sup>(AB会員)に加入しました。サプライチェーンのデータをグローバルに共有するための世界最大の共同プラットフォームと個別のサプライヤー・アンケートを利用することで、倫理的なサプライチェーンを確保しています。当社グループは、お取引先様が「高砂香料 責任ある調達ポリシー」を遵守しているかどうかをモニタリングするため、Sedexの会員になるか、当社自己評価アンケートに回答するようお願いしています。2024年度末までにSedexプラットフォームでリンクしている約260社380工場にSedex SAQに関するフィードバックを送信し、持続可能性に関する活動の改善を依頼しました。

2023年に第三者機関と確立したハイリスクサプライヤーを特定する方法と、現場で遵守状況を確認するための基準を用い、2024年4月、第三者監査人とともにサプライヤーのパイロット現地評価を実施しました。評価で見つかった不適合のフォローアップを継続的に行い、サプライヤーがグローバルスタンダードを理解し、状況を改善できるようにしました。2025年度に向けて、ハイリスクサプライヤーを確認し、現地評価計画を策定しました。毎年、現地評価のPDCAを回し、サプライチェーン上の人権・環境リスクに対応します。

2017年に国連グローバル・コンパクトに署名した直後から、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)<sup>2</sup>に参加し、ESGの動向や持続可能なサプライチェーンの推進について学んできました。2024年度はGCNJサプライチェーン分科会幹事企業として、中期活動計画策定委員会に参加し、今後の日本の『CSR調達・持続可能な調達のあり方』についての提言書作成に貢献しました。

当社グループは、持続可能なパームサプライチェーンの推進を目的とした「持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)<sup>3</sup>」および「持続可能なパーム油のための日本ネットワーク(JaSPON)<sup>4</sup>」にも加盟しており、右表のとおりRSPO認証を取得し、お客様のニーズに合わせてRSPO認証製品を供給しています。また、認証パーム製品の消費拡大に向けて、RSPOが定めるShared Responsibilityにも応えていきたいと考えています。

アフィリエイト	範囲	年
Takasago International Corp. (U.S.A.)	フレグランス	2021
Takasago Europe Perfumery Laboratory S.A.R.L.	フレグランス	2019
Takasago International (Singapore) Pte. Ltd.	フレグランス	2022
	フレーバー	2022
Shanghai Takasago-Union Fragrances & Flavors Co., Ltd.	フレグランス	2022

1 倫理的かつ責任ある実践に関する情報を共有するためのオンライン プラットフォーム。

2 UNGC10原則やSDGsの達成に向けた日本の会員企業・団体の自主的で戦略的な行動を支援する組織。

3 パーム油産業を環境への影響が少ない持続可能な産業に変えようとしているイニシアチブ。

4 日本におけるパーム油の持続可能な調達と消費のためのプラットフォーム。

# TaSuKI Update

TaSuKI(Takasago global procurement Sustainability Key Initiatives)は、CSRの核となる期待に対応しながら、特定の主要原材料の完全な調達管理を回復するために始まった活動です。



## 1. 概要

2024年から2025年にかけて、インドネシアではパチョリ、アメリカ大陸では柑橘類において異例の市場混乱を経験しましたが、垂直統合のTaSuKIモデルは再び危機を乗り越える勝利の戦略であることが証明されました。

インドネシアにおいて数百の小規模農家から直接調達を行うTaSuKIの現地調達拠点は、市場動向を把握し、独自のパチョリ供給を確保するための貴重な情報を提供しました。高砂香料グループの需要は現地でタイムリーに確保され、当社グループのインドネシアの工場で加工され、全ての関連会社と顧客にシームレスに供給されました。

フロリダのTaSuKIグレープフルーツでも、数年前に植えられた最初の木が成熟し、世界中の当社グループのクリエーションチームが使用できる最初の商業用オイルを供給したこと、大きな成功を収めました。

## 2. 進行中のプロジェクト

### インドネシアのパチョリ

現地での調達、および価値創造- "TaSuKI Originals, Care and Comply"

2024年、パチョリの価格は250米ドル/Kgと歴史的なピークに達しました。主要な理由は、2023年の長期干ばつにより供給がまだ限られていたことと、2022年の低価格により生産量が少なかったことです。苗の入手が限られていたため、生産再開には時間がかかりました。バイヤーは供給を確保するために競争し、投機を煽って状況を悪化させました。

供給が限られ、価格が高騰するという危機的状況にもかかわらず、TaSuKIのコンセプトは正しかったことが証明されました。供給を確保し、競争力を高めることで、ビジネスに大きなメリットをもたらしています。さらに、ポリゴン・マッピングによって、どの農家から、どの地域で

原料を調達しているかがわかるようになり、トレーサビリティがさらに向上しました。誰から、どの地域から調達しているかをより深く知ることができるこのインテリジェンスは、CSRと持続可能な開発の要件に沿うよう、更なる地域社会の発展をデザインするために活用されます。

原産国に存在し、完全に川上統合されていることで、当社はより機敏になり、リアルタイムの市場洞察と市場情報によってリスクを正確に軽減することができます。次は、TaSuKIのプレゼンスと専門知識を他の原料に活用することです。



- ・パチョリ農家や蒸留所を訪問することは、市場のダイナミクスを理解し、長期的な関係を築くために非常に重要です。

## フランス ラバンジングロッソ

向こう10年間の前進的な「農家からフレグランス製品へ」のラバンジングロッソオイルに関する契約 – “TaSuKI Originals, Care and Comply”



農家と蒸留業者にとって残念なことに、供給過剰と十分な在庫のため、ラバンジングロッソの市場価格は2024年も低迷したままでした。市場価格が生産コストを下回るのは3年連続です。

そのため、昨年と同様に、当社はSCA3P農業協同組合の農家が、この長い危機を乗り越えられるよう支援し、長期“コストプラス”契約の条件に従って当初設定された量よりも多くのラバンジングロッソを購入しました。

当社はまた、UEBT認証を取得するために懸命に努力したSCA3P農業協同組合の農家を支援するため、認証農家からの調達を優先しました。

## フロリダグレープフルーツ

フロリダのグレープフルーツ 持続可能なグレープフルーツ：新たな植樹 – “TaSuKI Originals, Care and Comply”

2024年、当社のサステナビリティの旅は大きな節目を迎えました。2019年に締結された長期協定に続き、フロリダ産の持続可能なグレープフルーツオイルが利用可能になりました。このイニシアチブのもとで設立された新たなプランテーションは実をつけ始め、2024年にはグレープフルーツオイルの最初の商業生産のための原料を提供しました。この持続可能な方法で生産されたグレープフルーツオイルはTaSuKIプログラムを通じて世界中の高砂香料グループのクリエーションチームが入手できるようになりました。

この契約を通じて、当社グループは原料とのつながりを強化し、生産者に直接的な支援を提供して、より持続可能で回復力のあるサプライチェーンを確保します。

今後、2025年には最終段階の植樹が完了し、フロリダ州では合計15万本の新しいグレープフルーツの木が植えられます。この取り組みは、過去20年間衰退してきたグレープフルーツ生産を復活させるという我々のコミットメントの一環です。

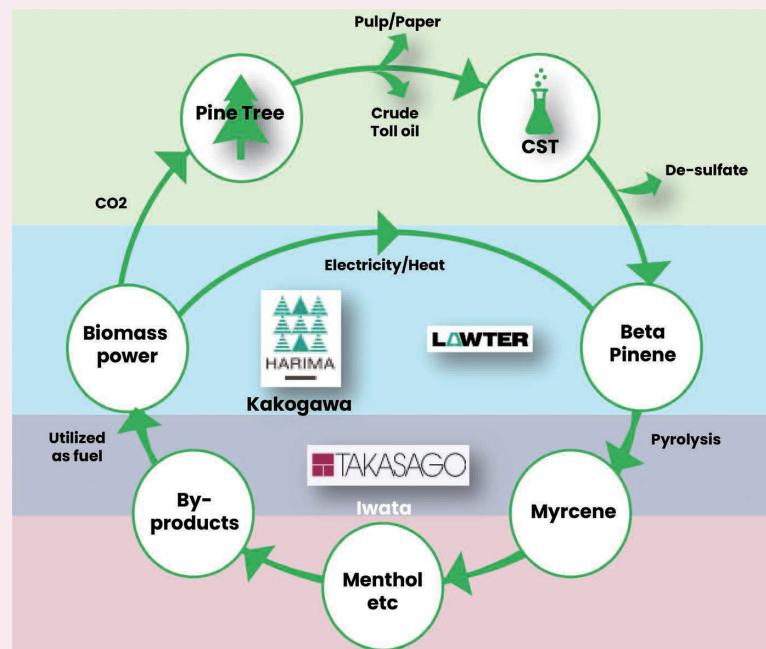
持続可能な農業に投資することで、当社は天然柑橘類原料の安定的かつ高品質な供給を確保するとともに、業界とそれを可能にする生産者の長期的な健全性を支援しています。



## 持続可能なパインケミカル

グリーンケミストリーを支える原料調達の強化 – “TaSuKI Originals, Comply and Share”

2020年3月、当社はLAWTER B.V.の一部株式取得と、LAWTER社の親会社であるハリマ化成グループ株式会社との合弁契約に至っております。この合意により、高砂香料グループのコアテクノロジーである「グリーンケミストリー」を用いた  $\ell$ -メントールの製造を目的とした当社グループでの調達が強化されています。松(パイン)を出発とする「パインケミカル」は、樹脂、化成品から電子材料などさまざまな用途に活用されており、アロマケミカルでは、松を由来として得られる粗サルフェートテレピン油やガムテレピン油が重要な原料です。しかし、ガムテレピン油の供給に影響を与えるガムロジンの需要は、ここ10年来、低迷しており、ガムテレピン油の不安定な供給と価格の変動の原因となっています。その一方で、昨今、消費者がサプライチェーン全体でのトレーサビリティや透明性、「責任ある調達」へ多くの注意を払うようになり、川上統合の価値はますます高まっています。



ハリマ化成グループ株式会社では、パルプ・製紙工場から得られる粗サルフェートテレピン油を主な粗原料としているため、ガム相場の変動によるリスクは比較的低く、供給および価格の安定性や、トレーサビリティ情報の開示でもより優位性があります。また、同社では加古川製造所で香料原料(ミルセン)の製造設備を建設し、2023年4月に完工しました。当設備の運転に必要なエネルギーには、主に自家発電による再生可能エネルギーおよびカーボンニュートラルな燃料が使用されており、実質CO<sub>2</sub>フリーのプラントを目指して運営されています。さらに、磐田工場の  $\ell$ -メントール製造工程で派生するミルセン副産物を同社加古川製造所のバイオマスボイラー燃料として活用するような循環型ビジネスモデルを構築しています。当社グループは、このようなパートナーシップを通じて、サプライチェーン全体にわたるトレーサビリティの強化やGHG排出量低減への取り組みを推進し、持続可能な調達を目指していきます。



## 2024年 - 高砂マダガスカル認定バニラネットワークに関するサステナビリティ年間報告

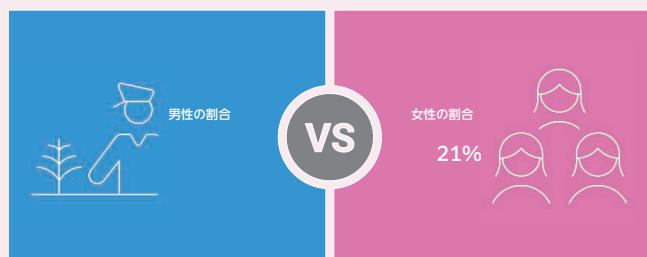


写真1:バニラ生産者と高砂マダガスカル認定チームによるミーティングの様子

**経緯:** 高砂マダガスカルが推進するサステナブルなバニラネットワーク・プロジェクトは、3つのバニラ生産者協同組合の直接的な協力により進行しています。協力体制は2020年に始まり、Organic、Fair For Life、Rainforest Alliance - Union for Ethical BioTradeの認証を得るために活動を行っています。

ここ数年、トレーサビリティとサステナビリティに関する生産者たちとの活動は勢いを増しています。時にサステナビリティ確立のために貢献することを躊躇するメンバーもいましたが、現在活動するメンバーは、バニラ価格の低迷によって市場が厳しい状況であるにもかかわらず非常に意欲的に臨んでいます。

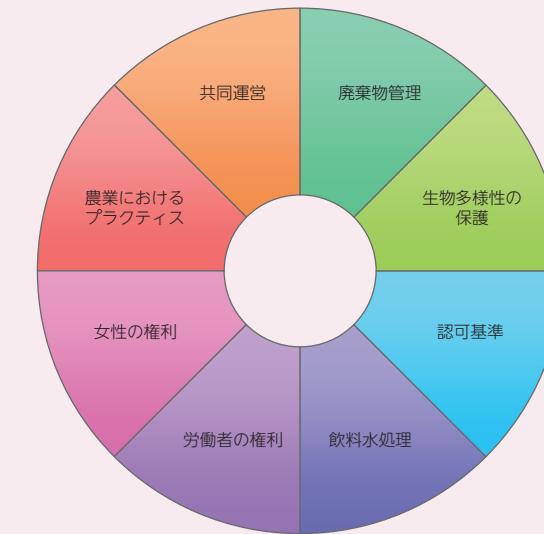
**多様性:** 多様性は当ネットワークの特徴の一つであり、11の村全てにおける女性生産者の存在に象徴されています。



**認証:** 現存の3つの認証に対して、2025年も例年どおり全て良好な監査結果を得ることができました。

**2023-2024年の活動:** 社会や環境に関する8つの優先事項を挙げています。

**2024年: 生産者の活動を通じて持続可能な開発を達成することにフォーカス**



**確実な成果につながる訓練や活動**

- ・村や給水所での廃棄物の削減
- ・野生動物・保護動物の狩猟禁止
- ・規制や法律の遵守、認証取得
- ・各家庭における飲料水確保の習慣化
- ・児童労働の禁止
- ・社会における女性の役割
- ・生産量の増加とバニラ病害の防止
- ・協同組合のガバナンス強化
- ・生活環境の向上

## コミュニティ発展計画：2023-2024年における成果

公共照明  
公共の場における視認性や安全を高める

誰もが施設やサービスを利用できるようにする



開かれたコミュニケーションと情報の共有を促進する



収入や環境を改善するために植樹を行う

## 公共照明の改善：

8村に設備とサービスを提供

## インフラの改善：

2つの村へのアクセスを改善するために、橋梁修復工事が進行中

## 透明性の促進：

会議室の設置

## 森林再生：

メンバーの収入増加を目的として行われた

## 学校へのアクセシビリティを改善：

5村にサービスを提供

## 健康と飲料水問題：

5つの村において、飲料水供給システムの

## 再建が現在進行中

## 完了した活動 ◆

## 進行中の活動 ◆

## 技術検討中の活動 ◆



教育を受ける権利



清潔な飲料水やヘルスケアを提供する

医療・健康管理事業

## 2025年の展望

教育と健康に焦点を当てていきます。



## 北海道のシソオイル

- "TaSuKI Originals, Care and Comply"

シソは和風ハーブの代表格で、日本人にとって最も馴染み深い食品の一つです。当社は、北海道の農家が参加する農業協同組合と提携し、1980年から40年以上にわたってシソオイルを生産しています。オホーツク地域にある蒸留施設では、以前は天然メントールを生産していました。他国との競争により生産量は徐々に減少し衰退したものの、蒸留技術と設備は、当社がシソオイルの生産に活用しています。

一方、近年では、北海道に限らず日本全体で、農業従事者の高齢化、後継者不足による就業人口の減少は大きな課題であり、シソ栽培においても例外ではありません。

当社は農業協同組合との長期的な契約を継続するとともに、2022年から毎年9月の収穫時期に当社社員を現地に派遣し、収穫支援を行っています。生産者の思い、収穫作業の苦労等を共感することも目的の一つです。当支援を通して、シソオイルが得られるまでの一連の工程のなかで、収穫と乾燥が生産者にとって最も負荷の大きい作業であると理解されました。今後は、これら作業の省力化に向けた取り組みを農業協同組合、生産者と協力して進めます。当社は、生産地域との良好なパートナーシップを維持し、持続可能な調達活動を推進していきます。



# » 研究開発



取締役常務執行役員  
研究開発本部長  
谷中 史弘

研究開発では、創業精神である「技術立脚の精神に則り社会に貢献する」、さらには「香りを原点とする革新的な技術を通して、新しい価値を創造し続ける」という企業理念やVision 2040 「人にやさしく、環境にやさしく」のもと、3つのイノベーション(コンセプト、プロダクト、プロセス)のシナジーや積極的なオープンイノベーションを通じて、より独自性ならびに優位性の高い技術や製品を開発し、人々のQOL(Quality Of Life)向上やウェルビーイングに貢献していきます。

また、SDGsの課題解決に向け、グリーンケミストリーを念頭に置いた環境にやさしい研究開発を引き続き推進しています。環境負荷の低減に向けて、高砂香料グループ独自の触媒技術の活用や最新のバイオ技術の導入、環境負荷の低いプロセス開発を行い、エネルギー・水の効率的利用、温室効果ガス排出量の削減に取り組むとともに、限られた天然資源の有効利用に向けて、再生可能資源の探索・利用、代替素材開発による天然香料素材の使用量削減、未利用資源の活用などにも積極的に取り組んでいます。

## 研究開発推進体制

研究開発では、海外R&D拠点と日本の基盤研究部門が連携し、グローバルな課題解決に向けた研究開発活動を積極的に進めています。減塩、減糖、減脂、プラントベースフードへの対応、天然志向や環境にやさしい香料素材への要望など、これらグローバルな課題に応えるべく、海外R&D拠点と一体となった研究開発活動を推進し、高砂香料グループの技術や製品のグローバル展開を着実に進めています。

## イノベーション

### 持続可能なチョコレートフレーバーの開発

チョコレートは世界中で愛されるスイーツの一つです。しかし今、その原料であるカカオ価格が急上昇しています。カカオ価格は2024年、それまでの約3倍となり、その後高止まりの状態が続いています。原因は天候不順や病害による主要生産国であるコートジボワールやガーナの不作にありますが、これは一時的なものではありません。その背景には気候変動や生産国の財政状況の悪化といった要因も存在し、今後もこのような状況が続く可能性があるのです。チョコレートの特長に人々を魅了する甘い香りがあります。食品香料としても需要の高いチョコレートフレーバーですが、その調合はカカオの香気抽出物(オレオレジン)を主体に組み立てることが一般的でした。しかし、このような状況を受けてカカオオレオレジンへの依存度を低減する必要があり、そのリプレイサーの開発が急務となっています。高砂香料グループでは最先端の分析技術を駆使して、香気貢献度の高い微量香気成分を同定し、経験豊富なフレーバリストによって完成度を高めたカカオオレオレジンエクステンダーを開発しました。また、チョコレートの香気生成プロセスに着目し、カカオ以外の原料からチョコレートのような甘くこうばしい香りを持つ独自素材も開発しました。それらを活用したチョコレートフレーバーは、カカオオレオレジンへの依存度が少なく、カカオの生産状況に左右されにくいため、より品質と価格の安定化を図ることが可能です。すでに、原料価格高騰に対応したコストダウンや、サステナビリティを意識したカカオ原料フリーの産地別チョコレートフレーバー開発に活用し、ご好評を多数いただいております。



今回はカカオに焦点を当てた持続可能なフレーバー開発をご紹介させていただきましたが、すでに当社グループでは柑橘精油やミント精油のリプレイサーについても開発を行ってきました。今後も持続可能な社会の実現に向け、環境と調和した安定供給可能な香料の開発に努めています。

## 持続可能なフレグランス製品の開発

高砂香料グループは、「人にやさしく、環境にやさしく」というVision 2040の理念のもと、持続可能性を重視したフレグランス調合香料の開発に注力しています。サステナブルな原料調達の一環として、当社グループでは責任ある原材料調達プログラム「TaSuKI(Takasago Global Procurement Sustainability Key Initiatives)」を推進しています。

UEBT(Union for Ethical Bio Trade)認証を取得したラバンジングロッソオイルや、希少なマダガスカル産バニラアブソリュートなど、持続可能かつトレーサビリティに優れた原料を活用し、持続可能かつトレーサビリティに優れた製品開発を行っています。これにより、かつて供給が不安定だった原料の品質および供給の安定性が向上し、顧客への継続的な提案につながっています。

また、長年にわたり取り組んできたパチヨリオイルは、2025年より「TaSuKI」プログラムのもとで本格的に使用できる体制が整いました。香りの深みをもたらすこの天然素材が、持続可能な形で香料設計に活用されたことで、新たな創香の可能性が広がりました。

さらに当社グループでは、発酵や触媒反応などのグリーンプロセスにより、再生可能原料をベースとしたアロマイングリディエンツ(香料素材)の開発を進めています。代表的な取り組みである「Sustainable Scent™」シリーズは、生分解性にも優れ、米国農務省(USDA)のBio-based100%認証も取得しています。現在、このシリーズは当社グループのフレグランス向け香料として展開されるとともに、多くのお客様のフレグランス製品にも採用されています。こうした原料の導入により、製品ライフサイクル全体における環境負荷の低減にも貢献しています。

また、天然資源の有限性に配慮した取り組みとして、当社グループが独自に開発したAROMASCOPE®法では、希少な植物を傷つけることなく香り分子を採取・分析し、その香りを再現することが可能です。この技術により、貴重な天然素材を守りながら、香りの多様性と豊かさを広く届けるとともに、その価値を後世へと継承することを目指しています。加えて、調合香料におけるCO<sub>2</sub>排出量や生分解性といった環境関連データの提供を通じて、環境に配慮した製品設計・開発を支援しています。

今後も、調香技術と原料開発・調達におけるサステナビリティの取り組みを融合させ、香料業界の未来を切り拓き、持続可能な価値を提供していきます。

## 再生可能原料を活用し、環境にやさしいアロマイングリディエンツ開発

高砂香料グループのアロマイングリディエンツ開発の歴史は100年以上前にまでさかのぼりますが、「自然との共生」は当社グループのDNAです。2014年には、業界でいち早く製品のバイオベース指標を公開し、加えて現在は、生分解性やISO16128およびNature Identicalの各指標のステータスを拡充しました。また、2021年にはさらにいくつかの製品がBioPreferred®製品としてUSDA(米国農務省)から承認されました。

近年、当社グループでは、さらにより多くの製品に再生可能原料を活用し、天然物に見いだされた生分解性の高い光学活性香料素材であるBiomuguet®やBiocyclamol®を開発、商業展開しています。また新たに、光学活性の香料素材としてウツディアンバー素材であるDextramber®も不斉合成技術を活用したChiraroma®として上市してきました。石油化学由来製品を再生可能原料や植物由来原料に切り替えるBIOSWITCH®の取り組みに加え、生分解性に重点を置いた香料素材の開発、および触媒反応を組み入れたエネルギー効率の高いプロセス開発に取り組んでいきます。



## 食品ロス削減に向けた新たな製品設計アプローチ：経験サンプリングによる消費者の飲食体験の可視化

高砂香料グループは、食品ロスの削減を重要な課題と認識し、持続可能な社会の実現に貢献するため、製品設計における新たなアプローチに取り組んでいます。

本研究では、飲食品の官能評価に経験サンプリング法という新たな手法を導入しました。この手法は、消費者が日常生活のなかで瞬間に経験する印象を繰り返し記録することで、よりリアルな飲食体験を把握することを目的としています。コーヒーの事例では、製品を消費する過程における印象変化を詳細に測定し、飲用時間や飲み残しといった従来測定されていなかつたデータも収集しました。

これらのデータに基づき予測モデルを作成することで、従来の設計目標である「購入意欲」や「美味しさ」に加え、「飲み残し」に影響する風味特性を明らかにしました。本研究成果を製品設計に反映することで、飲食品を「残す」「捨てる」という行動を抑制し、食品ロス削減に貢献できる可能性があると期待しています。

食品ロスの削減は、地球規模の課題として世界的に注目されており、SDGs(持続可能な開発目標)にも掲げられています。特に先進国においては、売れ残り、返品、食べ残しなどが主な原因であり、将来の環境悪化や食糧不足を防ぐためには、企業だけでなく社会全体での対策が不可欠です。当社グループは、本研究を通じて得られた知見を積極的に活用し、持続可能な食の実現に貢献していきます。



## グリーンケミストリー

### プロセスイノベーション

#### —グリーンな世界の実現に向けて

高砂香料グループでは研究開発から製造に至るまで、「グリーンケミストリーの12箇条」を常に念頭に置いて活動を行っており、原材料の選択、製造および使用、廃棄までの全プロセスにおいて環境負荷の低減に向けた取り組みを進めています。持続可能で再生可能な原料の使用、効率的な化学変換、廃棄物の削減、省エネルギー化を目指した技術開発・導入などに注力しています。

香料素材や触媒の開発を担う分子変換研究所とプロセス開発を担うプロセス開発研究所が研究の初期段階から連携することで、グリーンケミストリーが強く意識された製造プロセスの確立に努めています。また、製造部門と開発部門が協力して既存製品の工程改良、新規製造品目の立ち上げを行う過程で反応工学的なデータの収集やプロセスシミュレーターを活用し、安全の確保やエネルギー的に有利なオペレーションの実現を追求しています。当社グループのキーテクノロジーである不斉水素化反応やカップリング反応等の触媒、フロー合成技術など今後も最新の科学技術を活用しながら、地球環境への配慮と企業価値の向上を両立させる挑戦を続けていきます。

## 優れた触媒の開発

### —環境負荷低減への取り組み

触媒反応の利用は「グリーンケミストリーの12箇条」の一つであり、原材料、廃棄物、エネルギー消費を削減し、より安全で無害な原料の使用を可能にします。高砂香料グループでは、1983年に完成された、触媒を用いた  $\ell$ -メントール製造プロセスの完成以来、さまざまな機能を持つ触媒を開発し、製造に活用してきました。香料素材や医薬品中間体の製造に触媒反応を組み入れるためには、経済性に優れ、かつ安定した品質の触媒を供給する必要があります。

当社グループで使用する触媒には、触媒の性能に大きく影響するBINAPやSEGPHOS<sup>®</sup>といった配位子を使用しています。BINAPの誘導体のなかには、高い性能を有するものの製造に多段階の反応を要するために工業的な使用が困難なことがありました。この配位子の製法改善に取り組み、反応数を4つから1つに短縮する製法を開発し、工業的な使用が可能となりました。今後もスケールアップ製造に対応したグリーンプロセスの構築に向け、触媒の開発を進めています。

## ホワイトバイオテクノロジー技術を活用したアロマイングリディエンツ開発

ナチュラルフレーバー素材に対する市場のニーズは高まる一方です。また、近年、フレグランスでもバイオベース製品や環境にやさしいサステナブルな香料素材が求められており、バイオものづくり、ホワイトバイオテクノロジーへの期待はますます増加しています。高砂香料グループでは、バイオ技術を活用した素材の開発を行っております。またEUナチュラルやコーシャ認証、ハラール認証の規制を有するプロセス開発に注力してきました。

ナチュラルアロマイングリディエンツの製造は、関連子会社である高砂フードプロダクツ株式会社や2016年にグループ化された米国Centre Ingredient Technology, Inc. (CIT)などで行われています。CITは高度な製造技術および試作設備を有し、正確な反応制御やモニタリングによる流加培養も可能であり、薄膜蒸留装置に代表される高い精製技術も有しています。CITでは主要な製品としてgamma-decalactone、gamma-octalactone、gamma-nonalactone、phenylethyl alcohol、hexanalなどを製造販売していますが、2022年には新たに当社のスペシャリティ素材の製造も開始されました。

当社グループでは、バイオエコノミー社会の実現を目指し、NEDO(国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構)の「カーボンリサイクル実現を加速するバイオ由来製品生産技術の開発」に神戸大学と共同で取り組んできましたが、2022年度には新たに「カーボンリサイクル実現を加速するバイオ由来製品生産技術の開発/研究開発項目[3]産業用物質生産システム実証」事業に参画し、ステージゲートをクリアし、2024年度にて3年間の最終年度を迎えました。また2023年からは、新たなバイオものづくり革命推進事業に対して、「未利用原料から有用化学品を産み出すバイオアップサイクリング技術の開発」をテーマとして、採択されました。本事業により、国内未利用資源の原料化、効率的な菌株開発を進め、環境にやさしいバイオものづくりによる香料素材の社会実装を目指します。

当社グループは中長期ビジョンVision 2040として、「人にやさしく、環境にやさしく」を掲げており、さらに2024年度から始まった新中期経営計画、New Global Plan-2【NGP-2】においてサステナブルな経営という基本方針に基づき、資源のアップサイクリングとバイオものづくりを推進し、バイオエコノミー社会ならびにサーキュラーエコノミーへの貢献を行います。

## » 品質保証

### 基本的な考え方

高砂香料グループは、お客様の品質と安全に対するニーズやご要望にお応えしながら価値あるパートナーとしてお客様と共に歩み続けています。

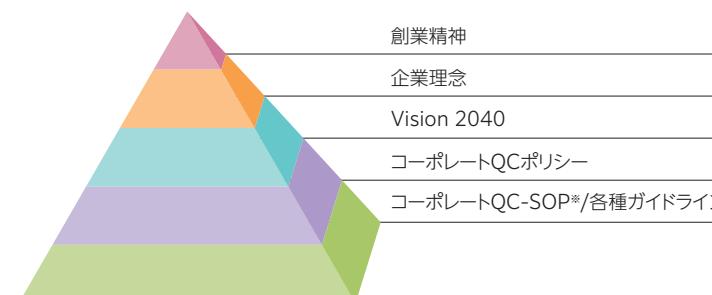
品質保証部門の使命は、各国法規制や顧客、業界団体等により定められた安全基準に準拠した、安全・安心かつ信頼性の高いフレグランス、フレーバー、アロマイングリディエンツ、ファインケミカル製品を提供し続けることです。この使命を達成するため「クレームゼロ／不合格ゼロ／間違いゼロ」を日々目指しています。

### 品質保証体制

品質保証部門は独立した組織であり「高砂香料グループ品質保証理念」のもと、各品質保証部門を束ねた「One品質保証体制」を構築しています。この体制において、本社機能としてグローバルQCセンターおよびグローバル法規センターを配置し、各品質保証部門と密接に連携を取っています。また、コーポレートQC-SOP\*と各種グローバルガイドラインの作成を行い、グループ全社で標準化された業務フローに基づき適切な形で品質保証活動を行っていることを確認しています。

このようにして、高砂香料グループは世界中の全てのお客様に、ご満足いただける品質を提供できるよう体制を整備しています。

#### 顧客満足



\*SOP: Standard Operating Procedureの略で、標準作業手順書のことを指す。  
業務を均質に遂行できるように作成された作業手順書。

## QCポリシーおよびガイドライン

コーポレートQCポリシーは、グローバルで一貫した品質理念を浸透させるべく、創業精神、企業理念、Vision 2040を踏まえ、お客様の期待にお応えできるよう策定しております。

全ての事業部門および全ての地域の品質管理部門において詳細な品質管理手順を標準化するために、コーポレートQCポリシーを上位に置く形でグローバルQC-SOPを補完文書として作成しています。また、より詳細な業務運用が書かれた各種ガイドラインは、各国の品質管理手順書および運用にも組み込まれ、グローバルで統一した品質管理ができる体制を整えています。

## 国際会議

お客様や市場のニーズに合った安全・安心な品質をグローバルに提供していくために、定期的に品質保証部門の国際会議を開催し、最新の法規制への対応やQCポリシーおよびガイドラインの更新について協議しています。

また、共通する課題や懸案事項を議論し、解決に向けた取り組みの実施や水平展開を図っています。この会議を通じ、全世界の全てのお客様に同じレベルの品質とサービスが提供できるよう継続的に改善しています。例えば、グローバルQCセンターでは、四半期ごとのWeb会議や半年ごとの国際会議を通して全拠点のQCリーダーと、情報交換、ベストプラクティスの共有と活用、KPIの設定と測定、改善に関する情報共有とその効果等の議論を続けています。

## 専門技能トレーニング

品質とサービスをより良いものに改善し維持していくために、グローバルQCセンターが国内外全ての品質管理部門に対し、官能評価や検査技術などに関するさまざまなトレーニングを実施しています。

このトレーニングシステムは、世界中の全ての顧客に同じ高品質のサービスを提供し、高砂製品が一貫して顧客の全ての要求を満たすか、それを上回ることを保証するためのカギとなります。最近のフレーバーQCトレーニングでは、官能検査、ガスクロマトグラフィー、メンテナンス手順、ラボ環境の維持のためのベストプラクティス、さらに特定の分析分野を改善・強化するために、拠点のニーズに応えることも目的としています。加えて、ISO/IEC 17025スキームに基づいた技能試験を実施することにより、検査技能を標準化し、最高レベルで維持するだけでなく、検査担当者の意欲を高めることにつなげています。

フレグランスQCトレーニングでは、天然原料や最終製品の嗅覚トレーニングを行い、それらの複雑な性質や特徴を把握することにより、原料・製品の品質の許容水準を共有するための議論も行われました。トレーニング終了後、テクニカル・レファレンスとして妥当性が確認された参加者は、自らの拠点で日常的な嗅覚トレーニングを支援・指導し、フレグランスQCセンターの官能面での窓口として活動します。全てのトレーニングの結果は各拠点の責任者へ迅速に共有されると同時に、必要に応じて課題設定が行われる仕組みになっています。これらのトレーニングは、世界中のお客様に最高品質の製品を提供し続けるための重要な取り組みであり、高砂製品の品質の標準化に寄与するだけでなく「One-TAKASAGO」としてのQCチーム間の団結力の向上にもつながっています。

## コンプライアンス

法令・規制を遵守することをコーポレートQCポリシーに掲げています。また高砂香料グループは安全かつ持続可能な化学物質の生産と使用を推進する欧州REACH規制を全面的に支持しています。EU内で製造または輸入する化学物質の最終登録期限であった2018年には、全ての関連する物質を期限までに登録し、規制実施に積極的に貢献しました。REACH規制は継続的な取り組みが必要であり、登録した化学物質を安全かつ持続的に製造、使用するために必要な追加データをECHA(European Chemicals Agency/欧州化学品庁)および関連機関に提供する体制を整えています。また韓国K-REACHやトルコREACH等各国の化学物質管理規制にも注視しています。グローバル法規センターは、法規制、顧客要求、またFEMA (Flavor and Extract Manufacturers Association/米国食品香料工業会)、IFRA (International Fragrance Association/国際香料品香料協会)、RIFM (Research Institute for Fragrance Materials/香料品香料原料安全性研究所)、IOFI (International Organization of the Flavor Industry/国際食品香料工業協会)など業界団体からの基準およびガイドラインの改定に対応するため、継続的に情報収集を行っています。製品が安全・安心かつ信頼されるよう、グローバルでのタイムリーな情報共有を通じてコンプライアンス対応を図っています。

## 品質保証に関する認証

高砂香料グループは求められた品質を製造し提供できるよう、ニーズに合わせてISO 9001、FSSC 22000／ISO 22000など、国際的な品質・食品安全の管理運用のための認証取得を進めています。

最近では、インドネシアにフレーバーおよびフレグランスの製造工場を新設し、2020年3月にISO 9001、そして2020年4月にフレーバーではGFSI承認規格であり、世界の食品関連企業に支持されるFSSC 22000の食品安全マネジメントシステムの認証を取得しました。国内では2022年6月に磐田工場で対象品目の追加という形で認証範囲を拡張しました。このような国際標準システムの導入は、国内外のグループ会社を含む全社的な取り組みであり、国際規格の適切な運用は、グローバルで標準化を推進すると同時に、品質とサービスの向上にも役立てられています。

## 品質監査

品質管理体制をさらに強化するため、グローバルQCセンターは定期的に国内外の製造拠点に対し実地で品質監査を実施し、システムの継続的な改善を図るとともに、定められた要求事項・基準を満たし、高砂香料グループの事業計画・目標・品質管理方針に沿ったものであることを確認しています。

## 顧客の安全衛生

高砂香料グループの主要な事業は、フレグランス、フレーバー、アロマイングリディエンツ、ファインケミカルの4部門で構成され、幅広い製品を開発、製造しています。

製品づくりの一環として、全ての製品が顧客の求める安全衛生に適合しているかどうかを常に評価しています。この考え方は、研究開発段階から製品の製造・納入に至るまで適用されています。報告期間に顧客の安全衛生に対する違反は確認されていません。

## 販売先と表示

高砂香料グループの事業はB to Bビジネスであり、消費者の皆様に直接販売されることはありません。

フレグランスおよびフレーバーは消費財を製造する得意先に販売され、消費者向け最終製品に使用されています。アロマイングリディエンツ製品は同業他社にも販売され、フレグランスやフレーバーの原料として使用されています。ファインケミカル製品は医薬品や化学品を製造するための中間体として使用されています。製品を販売する際には、各種規制や得意先要求事項に応じた製品情報を提供しています。製品情報には通常、次に示す1つ以上が含まれます。

高砂香料グループの製品の製造に使用する原料の情報を基にする

- ・製品の構成
- ・安全データシート
- ・安全に使用するための情報

報告期間において、製品情報やラベル表示に関する違反は確認されていません。

## コーチャ、ハラール対応

地域の文化や習慣を尊重した製品づくりにも積極的に取り組んでいます。地域の文化や習慣のなかには、宗教上の戒律として厳格に遵守しなければならないものもあり、そのような戒律に適合し、安心してお使いいただける製品の拡充に努めています。

宗教上の戒律として代表的なものに、ユダヤ教のコーチャ、イスラム教のハラールがあります。これらは共に「許されたもの」の意味を持ち、それぞれの信徒たちが生活するうえでの根幹として厳格に遵守されています。

高砂香料グループではコーチャ、ハラールの認証取得を進めており、コーチャ認証は主にアメリカの事業所から供給される製品に、ハラール認証は主にシンガポール、マレーシアの事業所から供給される製品に対応しています。日本でもアメリカや東南アジアの事業所および得意先に向けてコーチャ、ハラールに適合した製品や製造中間品を供給しており、当社の主力製品である $\ell$ -メントールをはじめとしたアロマイングリディエンツや食品香料についてハラール証明取得品目数を拡大させています。今後も地域の文化や習慣を尊重した製品の製造と供給を充実させていきます。

## GMPに基づく製造における品質保証の強化

高砂香料では、30年以上にわたり磐田工場で医薬品中間体やファインケミカル製品を製造し、世界中で命を救う医薬品の原料として使用されています。現在、医薬品GMPに準拠した製造体制および品質保証体制を、業界最高水準へとさらに高めるべく強化に取り組んでいます。本プロジェクトは経営層の承認のもと、国際品質保証統括部Global Fragrance Safety and Regulatory AffairsのディレクターであるDr. Chris Choiの主導により推進されています。

Voice

高砂香料工業株式会社  
国際品質保証部  
長澤 猛史



グローバル拠点におけるEHSモジュールの導入を対応しています。このプロジェクトは、規制、安全(GHS)管理体制をグローバルで強化し、各拠点における規制遵守と効率化を目指すものです。2025年4月にユーザートレーニングおよびユーザー受け入れテスト(UAT)を実施し各拠点が必要とする機能と情報の最適化を進めました。この取り組みにより、持続可能なグローバル運営体制の構築が期待されています。この場をお借りして、日々ご指導やご支援をいただいている皆様に、感謝申し上げます。

## » 投資家の皆様との関わり

健全かつ透明性の高い企業経営による持続的な成長を通じて、適切な利益還元に努めるとともに、国内外の株主・投資家の皆様とのコミュニケーションの充実を図っていきます。

### ■ インベスター・リレーションズ (IR)

高砂香料グループは、株主・投資家の皆様へ積極的な情報開示を行っています。株主の皆様には、年2回「株主通信」を郵送でお届けしています。投資家コミュニティの拡大に向け、Webサイト内IRページに関連資料やプレスリリースを公開しており、皆様に事業内容への理解を深めていただけるようIR活動の向上に努めています。

機関投資家・アナリスト向けには、期末および第2四半期決算発表後の年2回、社長および担当役員による決算説明会を開催しています。また、2024年度は、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」に関する取り組み状況についてのIR説明会を開催しました。

### ■ ESG投資への対応

高砂香料グループは、環境・社会・ガバナンスへの取り組みが企業価値を高めると認識しています。現在、全ての株主がESG指標に注目しており、格付け会社からの評価向上にも取り組んでいます。

当社は、FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexに採用されています。ESGへの取り組みを推進することで、高い格付けの獲得を目指しています。



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index

### ■ 株主総会

より多くの株主の皆様に出席いただけるよう、いわゆる集中日を回避した開催日程にしています。招集通知の早期発送に努めており、株主総会開催の3週間前までに発送および発送日前までにインターネットで開示しています。また、当日欠席される株主の皆様の利便性向上のため、インターネットによる議決権行使環境の整備も行っています。

### ■ 株主還元

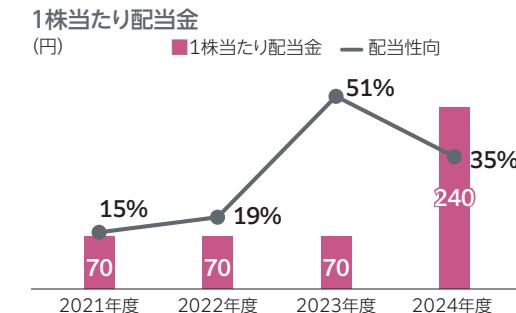
株主重視の経営を旨とし、より高水準の利益を確保できる経営体質を目指し、安定配当の継続、ならびに業績水準等を勘案した配当を実施することを基本方針としています。

現中期経営計画NGP-2の資本政策では、配当性向30%(期間)、DOEを3.0%(期間)という目標を掲げています。2025年3月期は、中間配当は1株当たり80円、期末配当は160円を実施し、年間240円の配当としました。

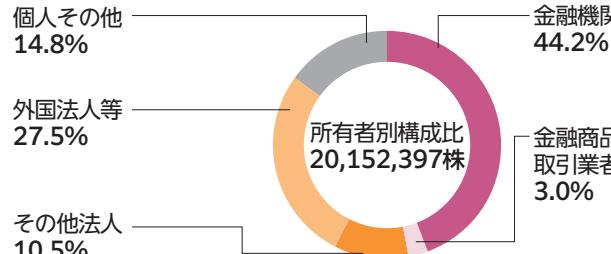
2026年3月期は中間配当120円、期末配当24円を予定しています。

当社は2025年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合をもって分割しました。上記配当金については、第2四半期末は分割前、期末は分割後の金額を記載しています。当該株式分割を考慮しない場合の年間配当金は240円です。

なお、当社は事業活動や非事業資産の売却などで得られたキャッシュフローを「成長分野への投資」「財務基盤の強化」「株主還元」の3つにバランスよく配分していくことで、資本政策を実施していきます。



### ■ 株式の分布状況



(2025年3月31日現在)

\*個人その他には、自己株式としての保有分(3.3%)が含まれております。

# » 地域社会との関わり



## 日本

### 「パリと香水—歴史を彩る香水瓶(フラコン)の世界」展を開催

本社の高砂コレクション®ギャラリーにて、パリに本拠地を置く香水メーカー・ファッショントレーディング、宝石店などの香水瓶やポスターを展示しました。約半年間の会期で、約2,300名の方にご訪問いただきました。



### 2024年「野依賞」はThorsten Bach教授に

高砂香料工業株式会社が後援する「野依賞」の2024年受賞者が、Technical Univ. MunichのThorsten Bach教授に決定しました。本賞は、野依良治教授の2001年度ノーベル化学賞受賞および有機合成化学協会(SSOCJ)創立60周年を記念し、SSOCJが2002年に制定したもので、年齢、国籍を問わず、広い意味での不斉合成化学の分野における顕著な業績を顕彰することを目的としています。毎年、この基準を満たした受賞者に、賞状、メダル、賞金10,000ドルが贈られます。授賞式は、有機合成化学協会(SSOCJ)の通常総会で行われます。



## 工場周辺地域の清掃活動



当社各製造拠点や関連会社では、工場の自治体や周辺地域の清掃活動をはじめとする美化活動に参加しています。拠点の周辺や河川の清掃など、地域の美化はもちろん、地域の人々とのコミュニケーションの場になっています。



## シンガポール

### ラサール芸術大学の創立40周年記念フレグランスを制作

Takasago International (Singapore) Pte.Ltd. (TIS)では、2016年からラサール芸術大学ファッショントレーディング学部の学生に対し継続的に支援を行い、アジアのデザイナーとフレグランスをつなぐサポートをしています。ファッショントレーディングに香りの要素を加えることで、学生のクリエイティビティの可能性が広がっています。2024年に同校と協働し、創立40周年記念フレグランスを制作しました。ラサール大学の40周年は、伝統を祝福するとともに、シンガポールのアートコミュニティの団結や栄光を象徴するものです。TISは、このあゆみに参加し、また貢献できたことを光栄に思っています。これからもラサール大学とのパートナーシップを継続し、次世代のアーティストやクリエイターにインスピレーションを与え、サポートしていきたいと考えています。





## アメリカ

## ローリング・ストーンズの精神を映し出すフレグランスを制作

TAKUSのフレグランステームが、伝説的なバンド「ローリング・ストーンズ」からインスピアイされた記憶に残る新フレグランス「RS No.9」の開発を手がけました。これはローリング・ストーンズにとって初めてのファインフレグランスへの挑戦となります。「RS No.9」は、反骨的なロッ



クバンドから文化的アイコンへと進化したバンドの歴史を反映し、彼らのタイムレスなスタイルと、音楽が呼び起こす自由の感覚を見事にとらえています。歌詞があしらわれた印象的なボトルに収められた「RS No.9」は、音楽とファインフレグランスの世界をつなぎ、フレグランス愛好者や音楽ファンにアピールします。ローリング・ストーンズの独自のキャラクターをファインフレグランスで体験できる、ユニークな機会を提供します。



## フランス

## パソコンなどIT機器の寄付

Takasago Europe Perfumery Laboratory S.A.R.L. (TEPL) ではInstitut Supérieur des Techniques de la Performance (ISTP)にIT機器を寄付しています。2023年・2024年の2年間で、パソコン10台をはじめ、70以上のIT機器を寄付しました。ISTPはエンジニア養成に特化した教育を行い、産業界と密接に連携したカリキュラムが特徴の教育機関です。

## セネガルの子どもたちへの支援

TEPLはLes Cantines du Sourire協会に寄付を行っています。この協会はセネガル共和国のサン・ルイにある学校の3~6歳の子どもたちに朝食を提供しています。TEPLでは2,500ユーロ寄付し、2,000ユーロは6,000食分の朝食(牛乳、パン、果物)に相当し、残りは教室の修復に充てられます。子どもたちに朝食を提供することは、栄養失調や欠席の防止に役立ちます。

## コスメティック エグゼクティブ ウーマン/フレグランス財団

フレグランス業界や地域社会への貢献として、以下の活動を支援しています。2023年・2024年にTEPLフランスへの支援(年間24,000ユーロ)、CEW(コスメティック エグゼクティブ ウーマン)による病院患者の美容ケア支援(年間22,000ユーロ)、およびフランソワ・コティ協会への寄付(2023年: 14,000ユーロ)を通じ、香りの文化・芸術の継承や地域貢献に取り組んでいます。



## スペイン

## 専門学生や大学生の工場訪問

Takasago International Chemicals (Europe), S.A. (TICSA) では、毎年学生を対象としたインターンシップを複数回実施しています。学生には製造や研究所などで活躍してもらい、特定のプロジェクトでは、地元の大学と共同研究も行っています。

# » 社会的評価とネットワーク

高砂香料グループは2017年に国連グローバル・コンパクトに署名するなど、いち早くサステナビリティに取り組んでいます。サステナビリティにまつわる2024年度にいたでいる社会的評価と、参加・署名するイニシアチブを紹介します。

日本国内に限定された調査や評価は日本マークで示しています。

## 社会的評価

CDP (Carbon Disclosure Project)		環境情報の開示を通じて企業の環境対応を評価する国際機関。当社の2024年評価は気候変動B、フォレストB-、水セキュリティBとなっています。
FTSE Blossom Japan Index		ESGに優れた企業として、2022年よりESG投資指数に選定されています。
アジア太平洋地域気候変動リーダー企業		アジア太平洋地域で気候変動対策に積極的な企業として2年連続で選出されています。
■ 日経SDGs経営調査		SDGsへの取り組みに関する企業調査で★★★★(星3.5)の評価を得ています。
■ 東洋経済CSR調査		CSRやESGの観点から調査が行われ、特に企業統治と環境対応に高評価を得ています。
■ 健康経営優良法人認定制度(経済産業省・日本健康会議)		社員の健康増進に取り組む優良法人として4年連続で認定されました。
エコバディス・サステナビリティ評価		持続可能性に関する国際的な評価で高スコアを獲得しています。

## 賛同団体・イニシアチブ

グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)		国連グローバル・コンパクトの日本ネットワークに2017年より加盟しています。
Science Based Targets initiative (SBTi)		科学的根拠に基づいた温室効果ガス削減目標を設定・推進しています。当社削減目標は2021年に2℃基準、2025年に1.5℃基準として承認されています。
気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)		2020年に賛同し、今まで準拠して気候関連財務情報を開示しています。

Japan Climate Initiative (JCI)		気候変動対策の推進を目的とした日本発の連携イニシアチブに2018年より参加しています。
持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)		持続可能なパーム油の調達・利用を推進する国際認証に2017年より加盟しています。
AIM-Progress 責任ある調達イニシアチブ		サプライチェーンにおける責任ある調達を推進する企業団体に2024年より加盟しています。
サプライチェーン 倫理情報 共有プラットフォーム (Sedex)		倫理的なサプライチェーン構築のための情報共有プラットフォーム。2016年、サプライヤー評価が可能なAB会員となりました。
Sustainable Vanilla Initiative (SVI)		バニラ産業の持続可能性と向上を目指している団体で、2022年より参加しています。
■ 持続可能なパーム油ネットワーク(JaSPON)		持続可能な調達の促進を目的とした国内ネットワークに2020年より参加しています。
■ 経団連生物多様性宣言イニシアチブ		生物多様性保全に向けた経団連の取り組みに賛同し2024年より参加しています。
IFRA-IOFIサステナビリティ憲章		香料業界の国際的な持続可能性憲章に2020年に署名しています。
■ パートナーシップ構築宣言		公正な取引関係の構築を目指す中小企業庁の宣言に2024年に賛同しています。
Forward Faster (UN Global Compact Initiative)		国連GCの目標達成を加速する国際的な共同宣言に2024年に署名しています。
■ トモニン「仕事と介護の両立支援」シンボルマーク (厚生労働省)		仕事と介護の両立を支援する職場環境の整備促進に取り組んでいます。

# ガバナンス

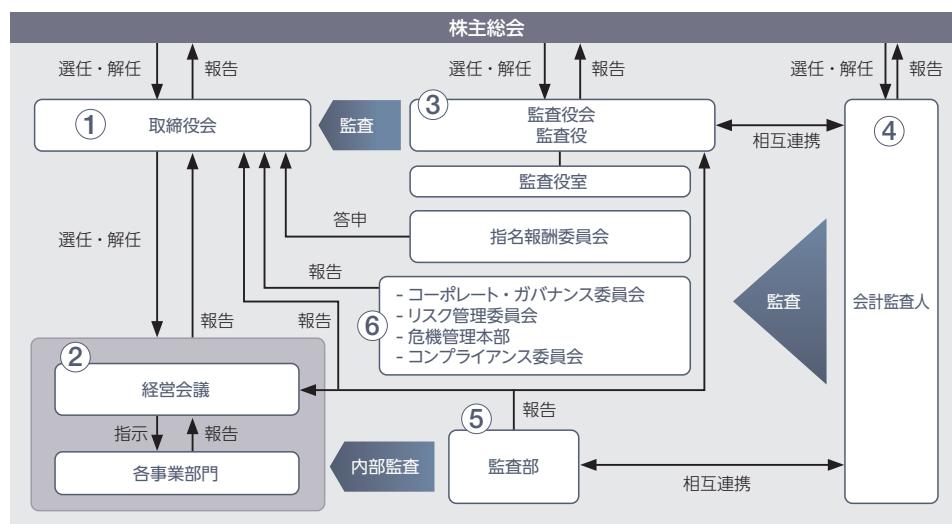
- 71 コーポレート・ガバナンス
- 72 取締役会の実効性評価
- 73 報酬制度
- 74 リスクマネジメント
- 76 ITセキュリティ
- 77 企業倫理
- 79 租税戦略



# » コーポレート・ガバナンス

## コーポレート・ガバナンスに対する考え方

高砂香料グループは、経営判断の適正性・経営チェック機能および情報開示による経営の透明性を高めることに努め、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指し、取締役会決議に基づき、「コーポレート・ガバナンスに関する基本方針」を制定しWebサイトにて公開しています。



## ① ② 取締役会、執行役員制度

取締役会は、原則月に1回開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催しています。取締役は、経営全般に対する監督機能を発揮して経営の公正性・透明性を確保するとともに、経営戦略および経営計画の策定や重要な投資案件等の業務執行の決定等を通じて、最善の意思決定を行います。一方で取締役の任期を1年とすることで株主総会の信認の機会を十分確保し、経営責任をより明確化し持続的な経営機能の強化も図っています。

取締役による経営判断の効率化と業務執行の迅速化を確保するため執行役員制を導入し、取締役会の企業統治機能と執行役員による業務執行の分化を図っています。議論の場として、原則月に1回経営会議を開催しています。そのうち四半期に一度はグローバルでの経営報告および課題について情報を共有し、議論を行う場として位置づけています。

## ③ ④ ⑤ 監査役会、監査役、内部監査

監査役会は、原則月に1回開催するほか、必要に応じて臨時監査役会を開催しています。監査役は会計監査人と緊密な連携を保ち、意見および情報の交換を行っています。また当社内部監査部門は内部監査結果を監査役に報告し、監査役は必要に応じ内部監査部門を活用できることとしています。さらに監査役の職務を補助するため、監査役室を設置しています。

監査役が各々の経験を生かして公正・中立的立場から経営への監査機能を発揮するとともに、内部監査部門および会計監査人とも十分連携を取ることで監査役会を一層有効に機能させ、経営者の恣意的判断の排除、任務懈怠の防止、継続的な会社の説明責任の確保にも努めています。

## ⑥公認委員会等

コーポレート・ ガバナンス 委員会	取締役社長を委員長とし、取締役・執行役員等で構成しています。持続的な企業価値の向上を目指し、コーポレート・ガバナンスに関わる重要事項につき審議しています。
リスク管理 委員会	取締役社長を委員長とし、各本部長によって構成しています。取締役会が損失／危険につながるリスクを総合的に評価・判断できるよう、マネジメント体系を強化し継続的な審議、影響の回避や軽減を図る対策を立案しています。
危機管理本部	緊急を要する有事の際に、本社と国内外拠点が迅速に対応できる体系整備を進めています。重要な指揮・命令がスムーズに伝達できるよう、危機管理本部(本社に設置)と国内外拠点を結ぶ報告・指示ルートの見直しを定期的に行っています。また、大規模災害や緊急事態などの発生リスクに備え、高砂香料グループでは国内外拠点に標準化したBCP(事業継続計画)の手順整備・策定に取り組んでいます。
コンプライアンス委員会	社長を委員長とし、取締役・常勤監査役で構成しています。コンプライアンス体制を確立し、企業憲章・行動規範を徹底するため、各種内部監査、内部相談制度および各部門より報告された重要事項について審議し、施策を立案します。

## 取締役会の実効性評価

高砂香料グループは取締役会の実効性を高め企業価値の向上を目的に、定期的に取締役会の実効性評価を行っています。評価結果の概要は、当社Webサイトにおいて開示されます。

### 評価の方法

当社は、当社の全ての取締役および監査役に對し、取締役会の実効性に関する複数の項目について、それぞれ段階評価およびコメントを記載する方式の質問票を配付し、無記名式により全員から回答を得ました。この回答内容を集計した結果を参考にしながら、取締役会にて審議する方法により、2025年4月に、2024年度取締役会の実効性評価を行いました。

#### 質問票における大項目

- ✓ 取締役会の構成
- ✓ 取締役会の運営
- ✓ 取締役会の役割・責務
- ✓ 取締役・監査役個人としてのパフォーマンス
- ✓ 取締役会を支える体制
- ✓ ステークホルダーとの関係

## 2024年度の評価結果概要

質問票の多くの項目において「十分できている」または「一応できている」との回答が高い割合を占めておりました。この結果および記載されたコメントを参照しつつ、取締役会において具体的に審議した結果、当社の取締役会は全体として実効性が確保されていると評価いたしました。

なお、2023年度からの課題である株主との建設的な対話に資するための積極的な情報提供への主体的な取り組みに関しては、サステナビリティ課題への対応や資本コストや株価を意識した経営への対応が当社の重要経営課題であるとの認識に基づき、取締役会として積極的・能動的に議論したことを確認いたしました。一方、以下の点については、改善されつつあるものの現状ではまだ十分ではないとの意見も出されたことから、これらが取締役会における今後の検討課題であるとの認識を共有いたしました。

### 今後の検討課題

- ・取締役会は、企業戦略等大きな方向性に関する議論を充実させるべく取り組んでいるものの、更なる充実に向けた取り組みを継続する。
- ・持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けた設備投資・研究開発投資・人的資本への投資等の資本政策の策定にあたり、資本コストを意識した議論をさらに充実させる。

この評価結果を踏まえ、今後も取締役会において十分な議論を重ね、上記の検討課題を解決することにより取締役会の実効性をいっそう高め、企業価値の更なる向上に取り組んでまいります。

## 報酬制度

### 基本方針

- ① 業務執行取締役の報酬等は、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けて、当該業務執行取締役の意欲をより高めることのできる、適正、公正かつバランスのとれたものとします。
- ② 業務執行取締役の報酬等は、前項の方針に従い、株主総会で決議された額の範囲内で、一部業績連動の要素を反映させ、かつ、中長期的な業績と連動させるものとし、指名報酬委員会からの答申内容を尊重し、取締役会で決定するものとします。
- ③ 社外取締役の報酬等は、社外取締役の職責を反映した定額の固定報酬のみとし、株式関連報酬その他の業績連動型の要素は含まないものとします。

### 固定報酬

固定報酬は、各取締役の職責や役位に応じて毎月支給する報酬であり、個々の支給水準については、業績、過去実績、従業員給与の支給水準および他社の支給水準等を勘案して支給額を決定します。

### 業績連動報酬(賞与)

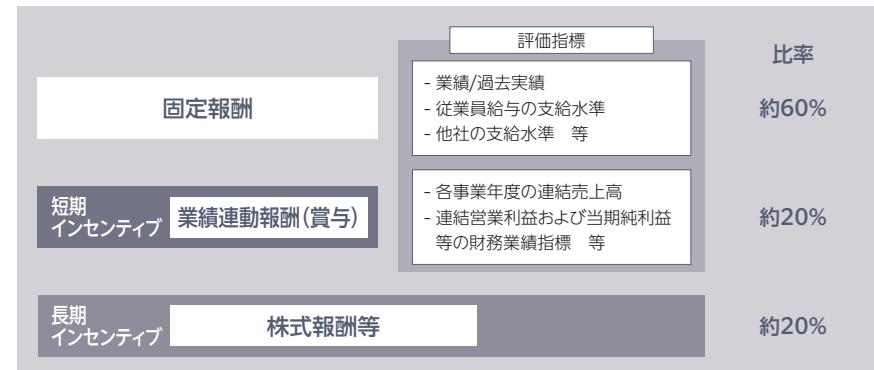
業績連動報酬(賞与)は、会社業績や各取締役の経営への貢献度に応じて毎年一定の時期に支給する報酬であり、各事業年度の連結売上高、連結営業利益および親会社株主に帰属する当期純利益等の業績指標に基づき、さらに各取締役が設定した重点施策に対する達成度等を総合的に勘案して支給額を決定します。

### 株式報酬等

株式報酬等は、譲渡制限付株式報酬および株価連動型金銭報酬等によるものです。譲渡制限付株式報酬は、取締役会決議に基づき、対象となる取締役に毎年一定の時期に金銭報酬債権を支給し、取締役が当該金銭報酬債権の全部を現物出資の方法で払い込むことにより、当社普通株式を割り当てる方法により支給します。個人別の株式割当て数を含め、指名報酬委員会からの答申内容を尊重し、取締役会が決定します。

### 業務執行取締役の報酬体系

業務執行取締役の報酬は、固定報酬、主として短期業績を反映する業績連動報酬としての賞与(短期インセンティブ)および株主との価値共有の一層の促進を通じて中長期的な企業価値向上に資する報酬体系としての株式報酬等(長期インセンティブ)で構成されます。各報酬の構成比(賞与が満額支給された場合の構成比)は、原則として、概ね、固定報酬(60%程度)、業績連動報酬(賞与)(20%程度)、株式報酬等(20%程度)となるように設定します。



### 取締役の個人別報酬内容の決定

取締役会は、取締役の個人別の報酬の支給額の決定のうち、各取締役の固定報酬および業績連動報酬(賞与)の額の決定につき、代表取締役に一任する旨の取締役会決議を行い、代表取締役にその具体的な内容について委任します。なお、報酬額の決定に際して、代表取締役は、指名報酬委員会からの答申内容を尊重します。

### 役員区分ごとの報酬等の総額

役員区分	報酬等の総額	報酬等の種類別の総額			対象となる 役員の員数 [人]
		固定報酬	業績連動報酬 (賞与)	株式報酬等	
取締役 (社外取締役を除く)	187	87	49	51	8
監査役 (社外監査役を除く)	18	14	3	-	1
社外役員	42	37	5	-	7

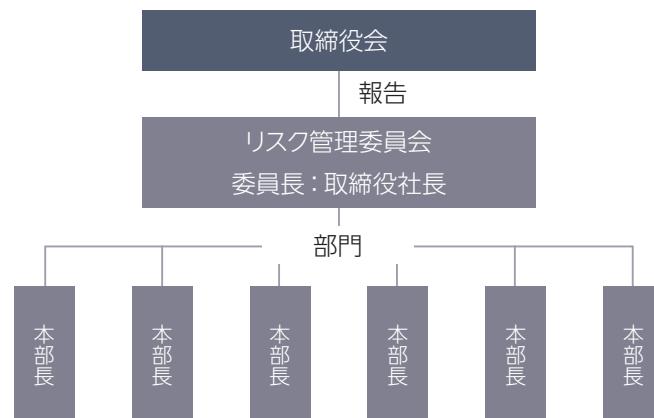
# » リスクマネジメント

## ■ リスクマネジメントの考え方

高砂香料グループは、環境や社会だけではなく、事業の持続可能性も大切にしています。全てのステークホルダーに対する責任を果たすため、事業の安定性に影響を及ぼす可能性のあるリスクを定期的に監視・特定し、ステークホルダー価値の最大化に努めています。当社グループでは、リスク管理委員会において、年2回、リスクの評価を実施しています。当委員会において、事業継続を阻害する潜在的なリスクを特定し、その予防策を策定・検討しています。当社の製品は原材料として多くの最終製品に使用されており、生産が停止すると多くの最終製品の供給に影響を及ぼすことから、生産継続に影響を及ぼす可能性のある事項は重大なリスクであると考えています。そのため、特定したリスクごとに対策を検討し、定期的に見直しています。

リスク管理委員会で特定されたリスクは、取締役会において報告され、更なる検証を行っています。委員会は取締役会および執行役員で構成されており、取締役会と執行部の両方のレベルで、事業リスクを管理しています。

## リスク管理委員会体制図



高砂香料グループでは、監査役会が内部統制システムおよびリスクマネジメントについて監査し、独立した監査部がリスクマネジメントおよびコンプライアンスの有効性を検証するため、各種内部監査を実施しています。また、当社は、外部監査による検証も行い、その妥当性・有効性を確保しています。

また、当社グループは、品質管理や安全管理等のマネジメントシステムを取得・維持しており、リスクマネジメントを強化しています。

## ■ 危機管理

高砂香料グループは、起こり得る災害や緊急事態に備えてグループ全体で必要な予防措置を講じができる事業継続計画(BCP)を含む危機管理体制を確立しています。

全ての手順は、危機発生時にその影響を効果的に最小限に抑え、直ちに通常業務を回復させるために役立ちます。緊急を要する有事の際は、発生場所を問わず、危機管理対策本部が会議を開催して状況を管理し、指示を出します。

## ■ リスクマネジメント・危機対応教育訓練

高砂香料グループは一人ひとりのリスクマネジメント能力が重要と認識しています。当社は、緊急事態対応訓練、総合防災訓練、安否確認訓練、標的型攻撃メール訓練などのITセキュリティ教育など、さまざまなリスク管理教育訓練を実施しています。

## 事業リスクと主な取り組み

高砂香料グループは、発生可能性とその大きさを考慮し、企業特有のリスクを特定、見直しを図っています。当社グループでは、リスク低減のためのさまざまな取り組みを行うとともに、商品開発や技術開発などの事業活動にリスク基準を組み込んでいます。詳細は2025年有価証券報告書で開示しております。

リスク項目	詳細と主な取り組み
1 気候変動に係るリスク	<p>【詳細】 地球温暖化が引き起こす気候の変動ないし極端な現象や天候不順による事業への影響</p> <p>【取り組み】 TCFD提言に基づく行動計画／GHG排出量削減の取り組み／グリーンケミストリーの原則に則った環境に配慮した製品・技術開発の推進</p>
2 原料調達に係るリスク	<p>【詳細】 地政学的リスクや購入先の事故等の影響により、天然原料をはじめとする原料価格の高騰やサプライチェーンの混乱</p> <p>【取り組み】 責任ある調達活動／複社購買等、調達手段の多様化を推進／サプライヤー等ステークホルダーとの連携推進</p>
3 グローバル事業展開に係るリスク	<p>【詳細】 法律・規制・税制の大きな変化、テロ・戦争等の政治的・経済的混乱、感染症の蔓延等の社会的混乱などによる事業活動への影響</p> <p>【取り組み】 当社グループの業務に関連する各国の政治・経済情勢や法規制の動向等に関する継続的な情報収集</p>
4 経済情勢・為替レートの変動に係るリスク	<p>【詳細】 日本国内または海外市場での景気の後退または減速等の経済不振／為替レートの変動による財務諸表への影響</p> <p>【取り組み】 国や地域、事業ポートフォリオの拡充によるリスク分散／為替変動を織り込んだ収益計画</p>
5 新製品の研究開発に係るリスク	<p>【詳細】 新製品の開発が著しく遅延、消費者の嗜好性の予期せぬ変化、技術・知的財産の陳腐化による競合他社参入</p> <p>【取り組み】 オープンイノベーション／知的財産戦略の実行／SDGs解決に向けた、グリーンケミストリーを念頭に置いた製品開発</p>
6 販売に係るリスク	<p>【詳細】 買収等による業界再編／競合他社の参入</p> <p>【取り組み】 高い技術力を生かした付加価値の提供および競合他社比優位となるような商品・差別化されたサービスの提供</p>
7 製品品質に係るリスク	<p>【詳細】 重大な品質クレームやトラブル、製品に対する安全性や環境問題への懸念が生じた場合、リコールによる金銭的損失の他、得意先等ステークホルダーからの信用低下につながる可能性</p> <p>【取り組み】 品質管理の強化／製品関連法規を遵守した製品設計・製造／従業員への研修、作業ルールの徹底</p>
8 災害・事故に係るリスク	<p>【詳細】 当社事業拠点ならびにサプライチェーンにおいて、パンデミック、自然災害や火災・爆発等の災害・事故により事業活動に支障が生じる可能性</p> <p>【取り組み】 危機管理体制の強化／複社購買等、調達手段の多様化を推進／従業員への研修、ルールの徹底</p>
9 情報セキュリティ等システム運営に係るリスク	<p>【詳細】 当社グループへのサイバー攻撃、システムへの不正アクセス、ウイルス等により、企業情報および個人情報の流出に伴う財務影響ならびに信頼性の低下</p> <p>【取り組み】 ITセキュリティの強化／従業員へのITセキュリティ教育とトレーニングの実施</p>
10 法令の遵守に係るリスク	<p>【詳細】 現行法令の変更や新たな法令などの追加による事業活動の制限や対応のための投資等による財務影響</p> <p>【取り組み】 事業に関連する法規制の情報収集／従業員教育／各種ガイドライン・マニュアルの制定</p>
11 人材に係るリスク	<p>【詳細】 必要な資質、能力を持った人材を確保できないリスク</p> <p>【取り組み】 グローバル人材の育成／グローバルレベルでの人事異動による適材適所の推進</p>

# » ITセキュリティ

サイバー攻撃が頻発するなか、高砂香料グループは全世界でITセキュリティの強化に取り組んでいます。当社グループでは、2030年までの「ITセキュリティ10ヵ年計画」を策定しました。この計画に沿って、IT攻撃を防ぐためのさまざまな対策を実施しています。

## ■ ポリシー

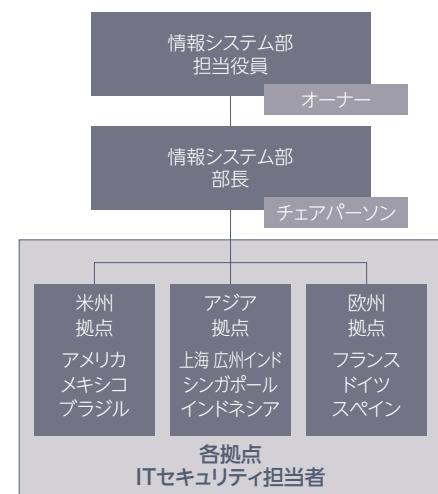
高砂香料工業株式会社は、下記の情報セキュリティ行動方針を策定しております。ITシステムを継続的に改善し、脅威の監視と対応を行うことをお約束いたします。

### [行動方針]

- 当社の事業展開において、情報資産の収集、利用および提供を行う場合、社内関連規程に照らし適正に行う。
- 情報資産への不正アクセス、情報資産の紛失、漏えい、改ざんおよび破壊などの予防ならびに是正に適切な処置を講ずる。
- 情報セキュリティ基本方針に関する法令およびその他の規範を遵守する。
- 社員に対して、情報セキュリティの重要性を認識させて、情報資産の適正な利用を行うよう周知徹底を図る。
- 情報セキュリティ基本方針の遵守状況を点検・評価し定期的に監査を実施して、情報セキュリティの確保に努める。

## ■ グローバルITガバナンス

当社グループでは、情報システム部担当役員(取締役)のもと本社情報システム部部長をチアパーソンとするグローバルIT体制を構築しています。グローバルでITセキュリティの専門家集団を擁し、24時間365日の監視体制を実現しています。また、本社監査部によるIT内部監査も定期的に行っており、ITシステムと運用プロセスが適正であることを確認しています。



## ■ 対策

物理的な対策としては、攻撃者の侵入を防ぐことを目的に、ツールや機器認証を導入しています。2024年には、セキュリティ監視ツールや脆弱性診断ツールの充実を図りました。

また、当社グループでは、ITインシデントの発生件数を監視しています。2024年、外部からのITインシデントや脅威は発生していません。また、万が一のセキュリティ事故に備え、速やかに復旧するためのBCPを策定しています。

インシデント対応時における従業員の対応についても、当社グループは厳格なルールを定めています。また、当社グループでは、ITに関するサポートスタッフチームによる窓口として、ヘルプデスクチームを設置しています。従業員がセキュリティで不審な点に気づいた場合、ヘルプデスクはエスカレーションを行うスタート地点になります。



## ■ 教育とトレーニング

当社グループでは、ITセキュリティの教育とトレーニングを通じて、従業員の意識向上を図っています。2024年、情報システム部門は、社員向けのセキュリティ研修に加え、フィッティングメールによる訓練を四半期ごとに実施しました。その結果、3,800人以上(全従業員の98%)の従業員がe-trainingを受講しました。研修の成果を検証し、より効果的な研修となるよう改善を継続していきます。

## ■ 外部ステークホルダーとの連携

高いセキュリティガバナンスを維持することは、自社だけでは困難です。高砂香料グループでは、ITインフラ企業/IT専門家/ITコンサルタントとの連携や監査を通じて、ITセキュリティの強化に努めています。また、ITの脆弱性を改善するため、第三者による脆弱性診断も実施しています。

## ■ 勤務時におけるITセキュリティ

また、在宅勤務時には以下をはじめとする、安全に社内システムに接続するためのシステムやデジタルツールも整備しています。

- 自宅からインターネット経由で社内システムにアクセスする際、クラウドシステムを介した安全な接続
- 在宅勤務中でも対応するアンチウイルスシステムのセキュリティパッチの自動更新
- 在宅勤務に配慮したアプリケーションやデジタルツールの使用細則の更新

# » 企業倫理

高砂香料グループは、コンプライアンスを経営の最重要課題の一つと認識し、公正かつ適正な事業活動と有効なコーポレート・ガバナンスの確保を図りながら、コンプライアンス体制の継続的改善に努めます。

## 企業倫理への考え方

高砂香料グループは、高い倫理観をもって行動するための倫理原則として、グループの「企業憲章・行動規範」を策定しています。2017年、高砂香料は国連グローバル・コンパクトに署名し、人権、労働、環境、腐敗防止の各原則に沿った倫理的な事業活動を実践しています。また、2024年には、「未来を拓くパートナーシップ構築推進会議」の趣旨に賛同し、パートナーシップ構築宣言を公表しました。当社グループは、「サプライチェーン全体の共存共栄と新たな連携」等を重点的に取り組むことを宣言します。

高砂香料工業は、Vision 2040に掲げる「人にやさしく、環境にやさしく」に則り、サプライチェーン全体での付加価値向上に取り組み、取引先の皆様との良好なパートナーシップの継続に努めています。



## ガバナンス・体制

高砂香料グループ「企業憲章・行動規範」に則り、法令遵守を確保し、コンプライアンス体制の構築・徹底を図るため、ガバナンスを強化しています。社長を委員長とし、常勤取締役および常勤監査役で構成されてコンプライアンス委員会を設置し、重要事項等を審議・推進しています。また、内部監査を担当する監査部は、業務監査だけでなくコンプライアンスの観点から内部監査を実施し、内部管理体制の妥当性および有効性ならびにコンプライアンス状況を検証することで法令遵守の徹底を図っています。内部監査で報告されたコンプライアンス違反およびその疑義に係る問題についての対応は、コンプライアンス委員会が審議、対策の立案を行います。

## 不正な取引防止への取り組み

高砂香料グループは、倫理的な事業活動を行うため、企業倫理に関する指針の策定(贈収賄防止ポリシーや利益相反に関するガイドラインなど)や、統制手順・プロセスの整備、腐敗行為防止についての従業員への教育システム整備に注力しています。2024年には、全社員を対象にe-ラーニングによるコンプライアンスに関する研修を実施しました。また、日本における独占禁止法をはじめとする各国の競争法を遵守するため、公正な競争慣行に関する社員研修を実施しています。

## 贈収賄防止への取り組み

高砂香料グループは、企業による過剰な利益供与や贈賄行為が公正な競争を阻害するものであり、企業の信頼を大きく損なうものであると認識しています。この認識のもと、「高砂香料グループ贈収賄防止ポリシー」を設け、事業を行う国および地域の贈収賄法規制を遵守し、贈収賄を例外なく禁止することにより、高砂香料グループ各社の従業員および役員による贈賄行為を防止し、公正かつ倫理的な事業活動を行うことを徹底しています。この方針に従い、適用される法令で禁止されているいかなる種類の腐敗行為(贈収賄、詐欺、横領、恐喝、談合、インサイダー取引、マネーロンダリング、職権乱用、司法妨害、便宜供与等)も行わないことを約束します。

「高砂香料グループ贈収賄防止ポリシー」では教育研修の実施や相談・通報体制等の整備を定めています。2024年には、管理職層を対象にe-ラーニングによる贈収賄防止に関する研修を実施しました。

## 反社会的勢力排除の取り組み

反社会的勢力に対する姿勢を「企業憲章・行動規範」「サプライヤー行動規範」に明記しており、グループ全体のみならず、サプライチェーンにも働きかけを行い反社会的勢力排除に取り組んでいます。さらに、東京都暴力団排除条例に対応して、取引基本契約書に反社会的勢力排除条項を盛り込んでいます。高砂香料グループは、今後も企業倫理の徹底に向けた全社的な体制の整備と実効性の向上に努めています。

## ホットラインの設置

高砂香料グループでは、従業員のみならずお取引先様などステークホルダーの皆様がご利用いただける「コンプライアンス・ホットライン」を設置し、オフィスでの掲示やお取引先様へのご案内を行うなど利用者への制度の周知も行っています。ホットラインに提出された全ての情報は極秘に扱われます。

2024年度の相談件数はグループ全体で5件でした。なお、重大な差別事案は報告されていません。

### 内部通報窓口「明日への窓」

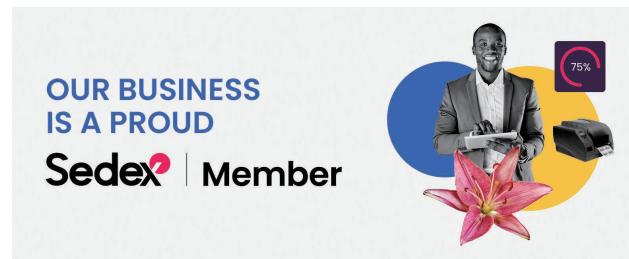
高砂香料グループの国内(関連会社含む)拠点では、当社の業務に従事する全ての者が利用できる相談窓口「明日への窓」を設置しています。内部通報の対応内容はコンプライアンス委員会に報告することにより、通報者からの信頼性を向上させ、内部通報の促進を図る運用とっています。また、従業員等が通報・相談したことを理由に不利益な取り扱いを受けないこと(報復に対するゼロ・トレランス)や情報の機密性を保証し、匿名通報も可能であることを社内規程に定めています。

## 外部専門家との連携

高砂香料グループでは、外部の法律専門家によるコンプライアンス体制を確保しています。内部通報窓口「明日への窓」には、法律事務所に所属する弁護士が社外窓口として含まれています。

## 第三者機関による倫理的監査

持続的な企業運営を行うためには、自社のビジネス慣行を理解し、企業倫理を高め、社会的責任の原則に準拠していることを確認する必要があります。当社は、SMETA\*を活用し、自社拠点の第三者監査機関による倫理監査を実施しています。SMETAによって、自社拠点のコンプライアンスを適切に確認し、監査結果や指摘事項に従い改善に努めています。



高砂香料グループでは2024年度に主要製造5拠点でSMETAを実施しました。当社では、SMETAを全世界で定期的に受ける計画を実施しており、2020年度から2024年度までの5年間、当社の全ての主要製造拠点(100%)で実施しました。SMETAは、国際労働機関(ILO)が定めたETIベースコードに基づき、以下の項目をチェックしています。

これらの監査で見つかった全ての問題は修正され、対処されています。今後もSMETAを実践し、倫理的な企業文化を構築していきます。

\* SMETA : Sedex Members Ethical Trade AuditはSedexが設計した倫理取引監査基準であり、世界で最も広く使われている社会監査基準の一つです。SMETAは、4つの柱である①労働基準、②安全衛生(H&S)、③環境、④企業倫理の領域をカバーしています。

### [SMETAにおける主な監査事項]

- ・適切な労働・雇用条件
- ・差別やハラスメントがないこと
- ・結社の自由と団体交渉権の尊重
- ・安全かつ衛生的な労働環境
- ・環境基準が地域や国の法律や要求事項を満たしていること
- ・コンプライアンス(贈収賄、汚職、あらゆる不正なビジネス慣行)について、地域や国の法律や要求事項を満たしていること

# » 租税戦略

高砂香料グループは、納税は企業が果たすべき最も基本的かつ重要な社会的責任の一つであると認識し、適正な納税が事業活動を行う国や地域の発展に重要な役割を果たすと考えています。

## 税務戦略に関する方針

高砂香料グループは、以下の原則を含むグループ全体の税務方針を定めています。

- タックス・プランニングやタックス・ヘイブン(租税回避地)を利用した租税回避行為は行わず、独立企業間原則による移転価格を含め、各国・地域の法令や経済協力開発機構(OECD)が定めたガイドラインを遵守します。
- 各国・地域の税務当局と良好な関係を構築・維持し、その要請に誠実に対応しています。また、各国・各地域の税務当局に対し、適用される法令で要求される情報を適切に開示し、透明性と信頼の確保に努めます。
- 私たちは、創出された価値を低税率の国・地域に移転したり、商業的実体のない課税構造を利用したりしません。
- 私たちは、税務リスクやインパクトを管理し、各国の法令遵守を徹底するための運営体制、ガバナンスを構築いたします。

## 税務ガバナンス、管理およびリスクマネジメント

高砂香料グループでは、税務コンプライアンス強化のためのスキームを構築しています。主に、本社・管理本部が税務を担当し、各拠点の税務担当者が四半期ごとに情報を共有し、税務リスクを把握しています。

当社グループでは、適切な人材の確保・育成を図るとともに、社内における他部門や公認会計士や税理士等の外部専門家との連携を強化することで、税務リスクの低減を図っています。また、各国・地域の税務当局から提供される法的判断や訴訟に関する情報を共有することで、法令遵守とリスク管理の強化を図っています。

当社は、税務リスクだけでなく、税務による社会的インパクトおよび事業インパクトを認識しており、適切な税務が持続的な企業価値向上につながると考えています。

なお、当社グループの租税を含む財務情報は、独立した第三者機関により監査を受け、開示されています。

## 納税額および実効税率

2024年度において、高砂香料グループは1,781百万円の法人税を納付しています。未払い法人税等は815百万円です。

2024年度の実効税率は22.8%でした。これは法定税率30.6%より7.8ポイント低くなっています。この差は、評価性引当額による影響等に起因しています。

財務情報	2023年度	2024年度
税金等調整前当期純利益	4,911	17,690
法人税等合計	2,088	4,038
実効税率(%)	42.5	22.8
法人税等の支払額	1,510	1,781
支払税率(%)	30.7	10.1

## » 会社概要

商号	高砂香料工業株式会社 (英文表記 : TAKASAGO INTERNATIONAL CORPORATION)
本社	〒144-8721 東京都大田区蒲田5丁目37番1号 ニッセイアロマスクエア17F
電話・FAX	03-5744-0511(代表) FAX 03-5744-0512
設立	1920(大正9)年2月9日
代表者	代表取締役社長 榎村 聰
事業内容	フレーバー、フレグランス、アロマイングリディエンツ、 ファインケミカルの製造・販売(輸出入を含む)
資本金	92億円
上場	東京証券取引所プライム市場

## » 編集方針

### 発行

2025年11月(英語版は2025年8月に発行しています。)

### 対象範囲

高砂香料グループ(連結子会社および持分法適用非連結子会社を含む)。一部の情報については、高砂香料工業株式会社(単体)を対象としています。

### 対象期間

2024年度

日本: 2024年4月1日～2025年3月31日

海外: 2024年1月1日～2024年12月31日

環境・労働安全衛生(EHS)データは、国を問わず2024年4月1日から2025年3月31日を対象としています。なお、一部最新の情報を含みます。

### 第三者検証

GHG排出量と取水量のデータは、第三者保証を受けています。

(ただし、スコープ3のカテゴリー6と13を除く)

### 参考ガイドライン

グローバル・レポート・イニシアチブ(GRI)スタンダード

GRIスタンダードに基づく開示内容の詳細については、GRI対照表をご参照ください。

[GRI Content Index](#)

### 予想・見通しに関する注意事項

本報告書に記載されている業績予想・見通しは種々の前提や計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績など将来の記載は異なる場合があります。

なお、2025年度の業績見通しは、2025年5月に公表した決算発表時点のものです。